

松崎町津波避難計画書

<資料編>

平成 28 年 3 月

松崎町

目次

資料編 1	津波避難地図.....	1
資料編 2	津波避難シミュレーション結果（現状）.....	9
資料編 3	津波避難シミュレーション結果（津波避難対策）.....	24
資料編 4	津波避難を考えるワークショップ.....	67

資料編1 津波避難地図

町では津波避難対策の一環として、住民説明会等で意見交換を行いながら、地区ごとに津波避難地図を作製した。表 1.1 に津波避難地図等作成対象地区区分を示す。

表 1.1 津波避難地図作成対象地区区分

NO	地区名
1	松崎・宮内地区
2	江奈地区
3	桜田・伏倉地区
4	道部・金沢地区
5	岩地地区
6	石部地区
7	雲見地区

地区ごとに作成した津波避難地図を図 1.1～図 1.7 に示す。

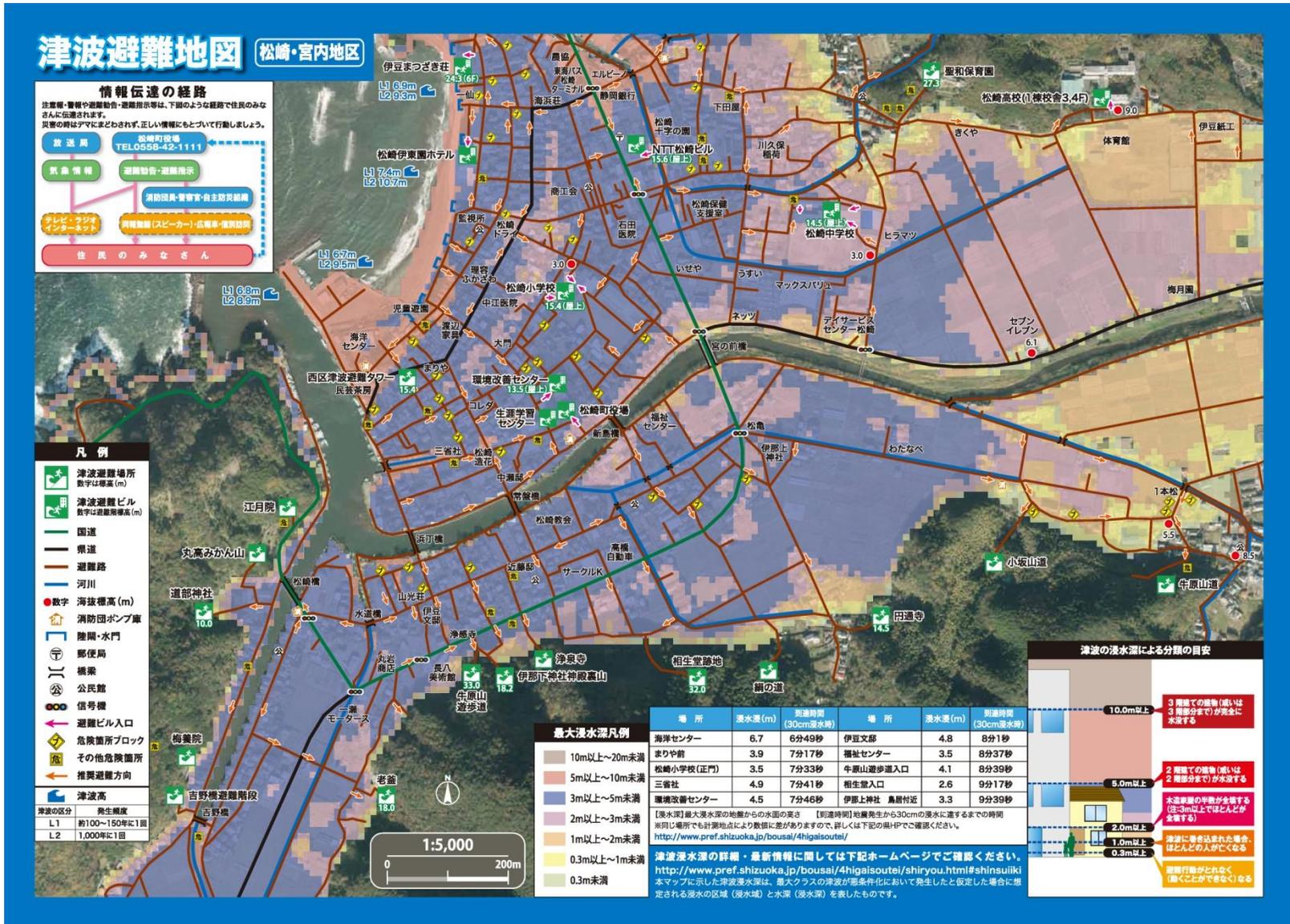


図 1.1 松崎・宮内地区津波避難地図

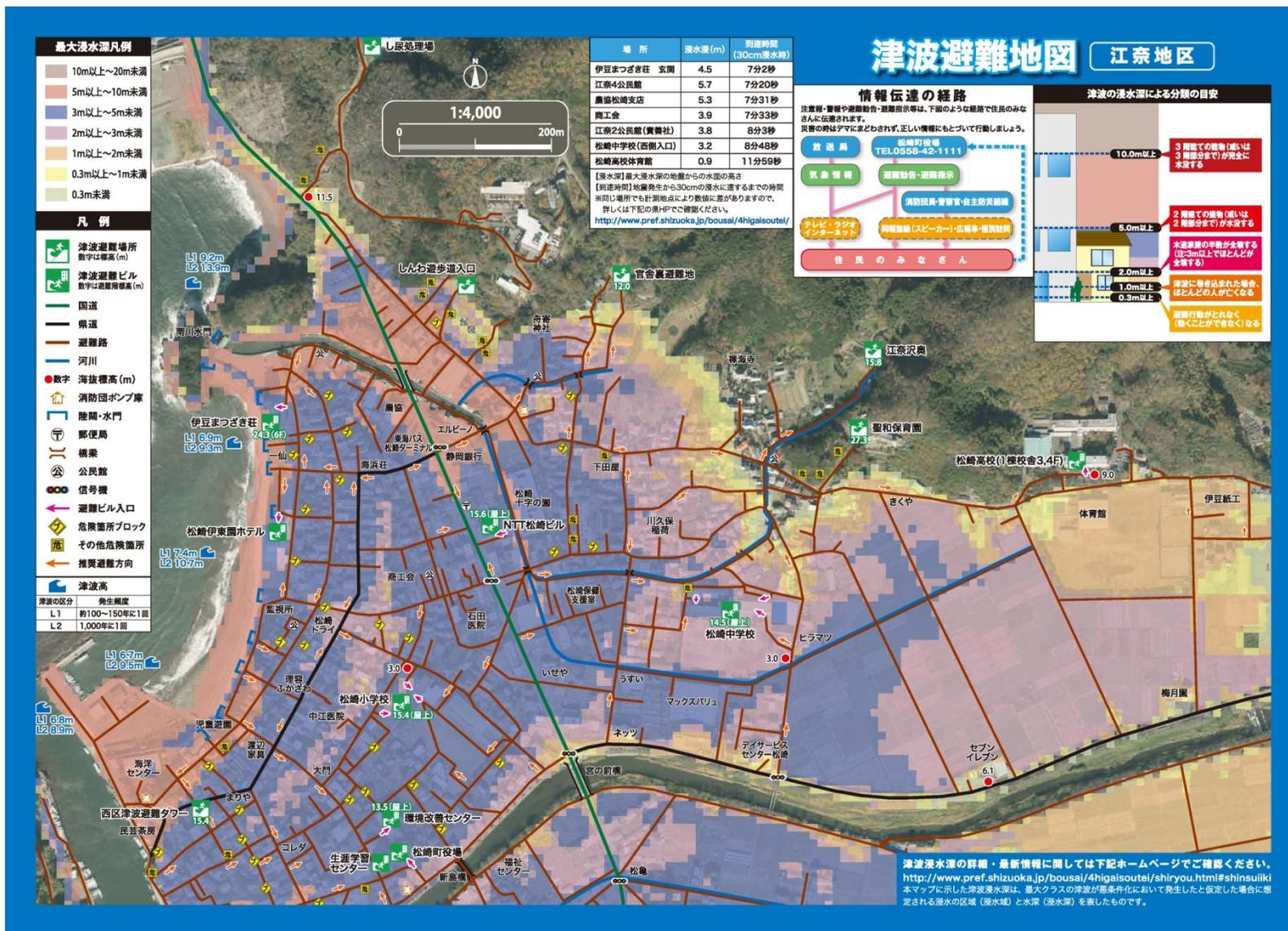


図 1.2 江奈地区津波避難地図

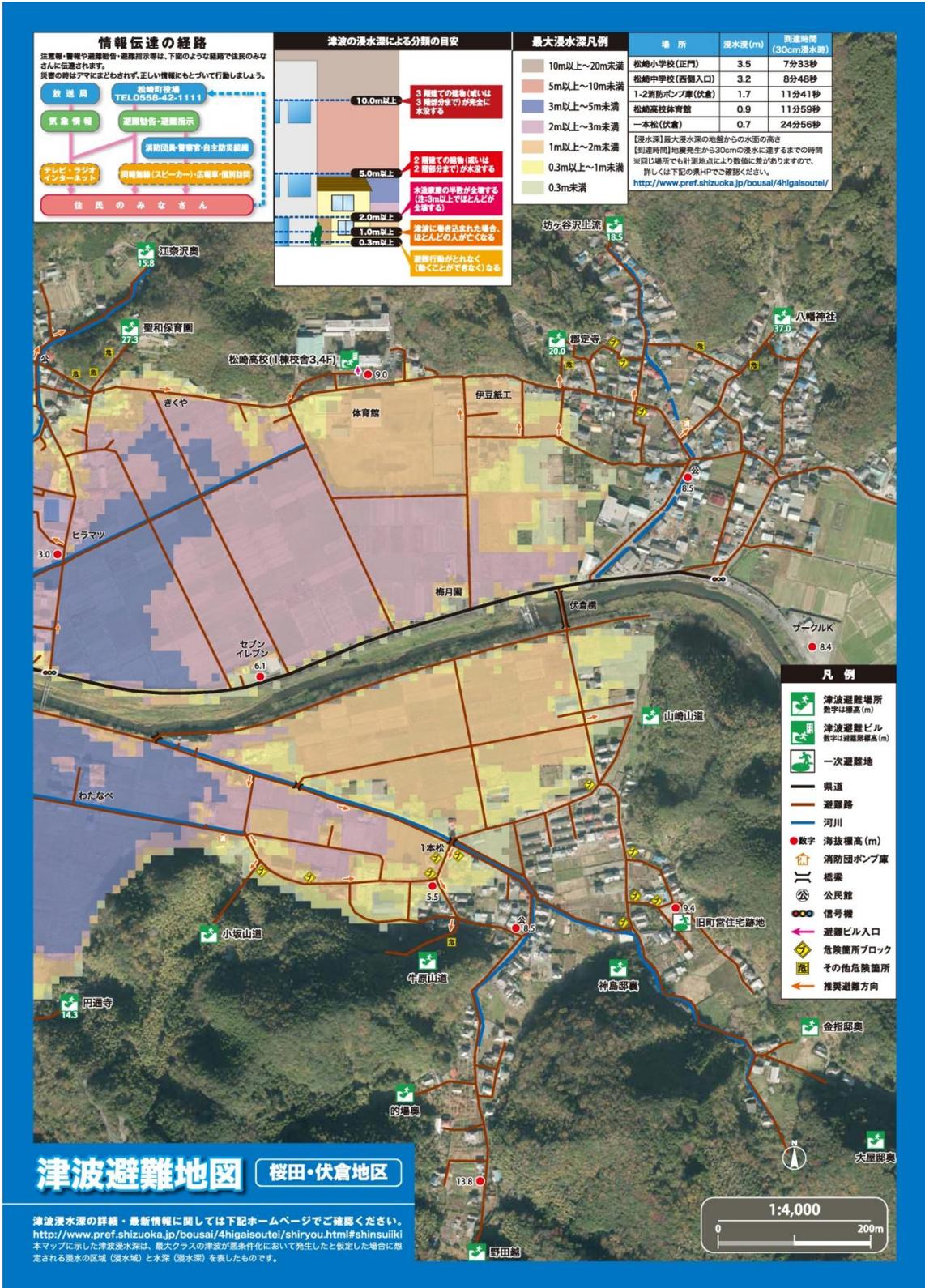


図 1.3 桜田・伏倉地区津波避難地図

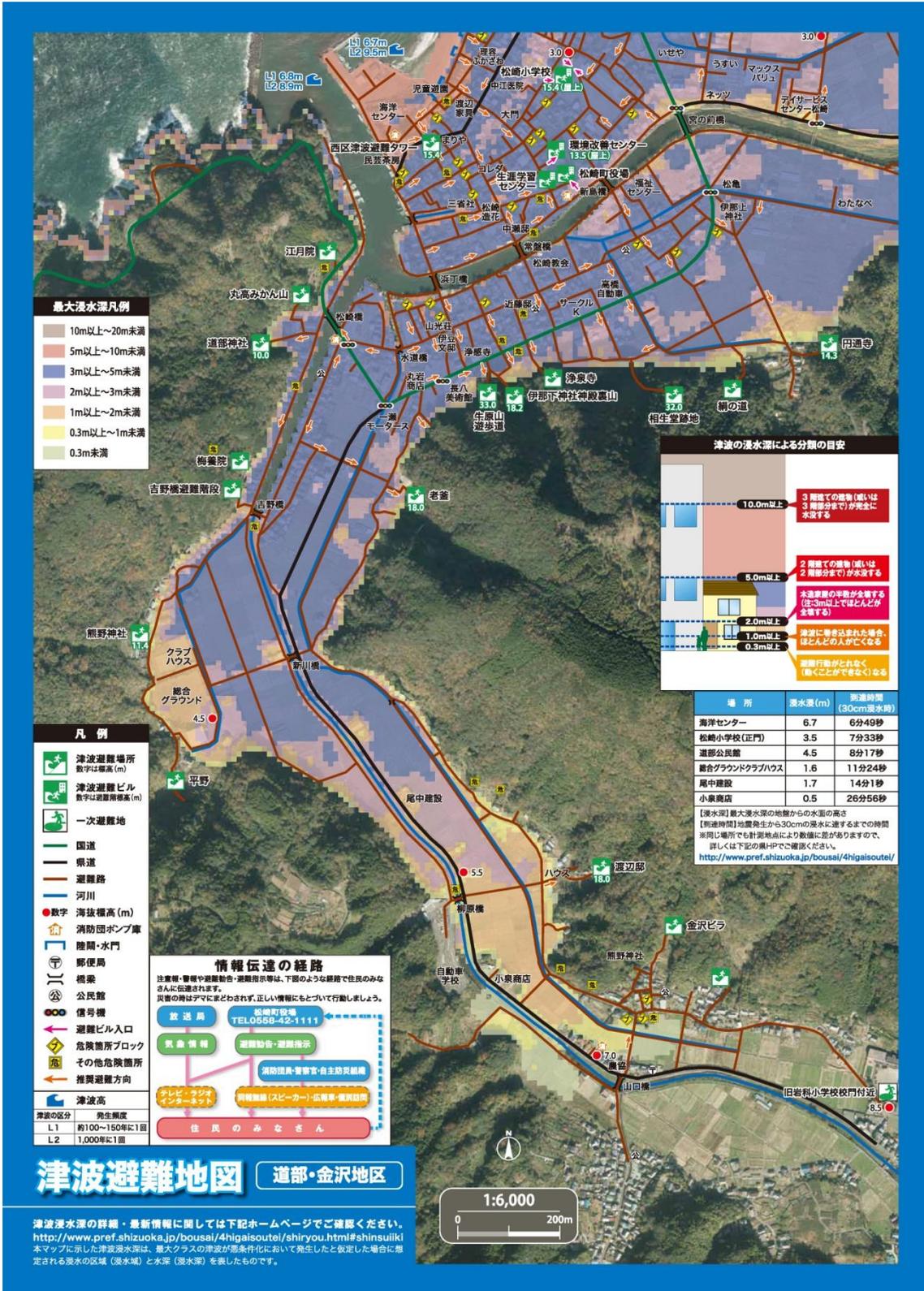


図 1.4 道部・金沢地区津波避難地図

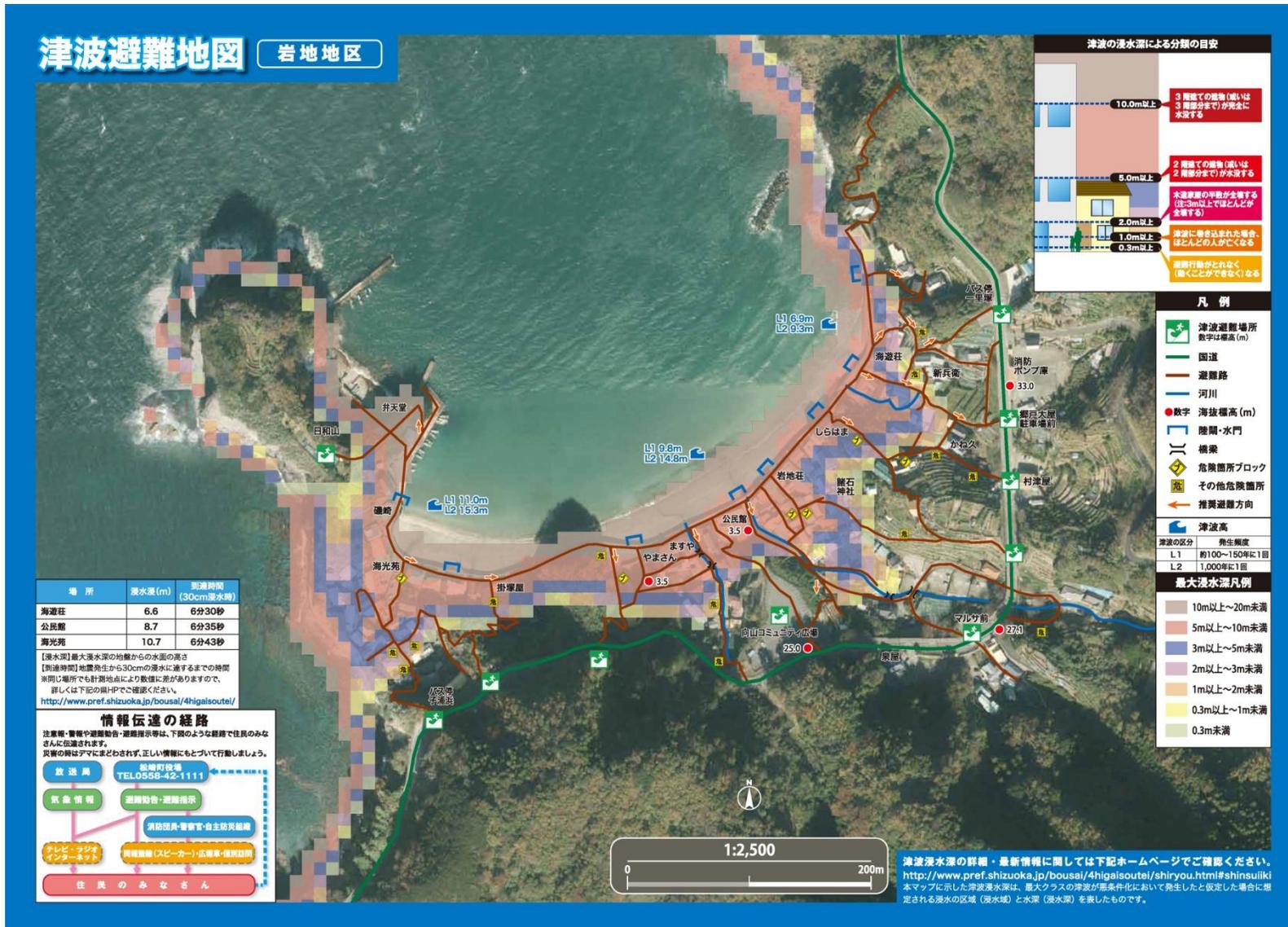


図 1.5 岩地地区津波避難地図

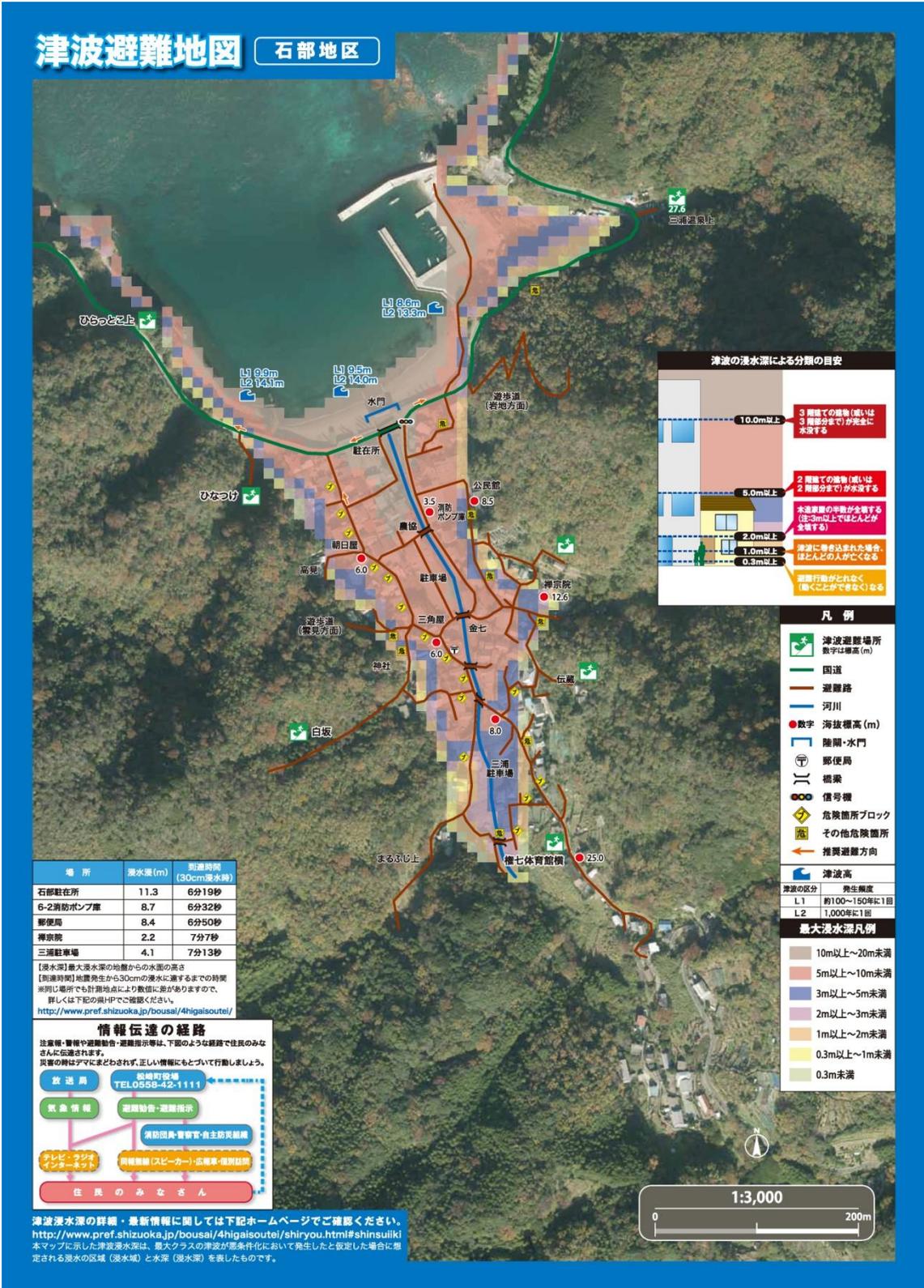


図 1.6 石部地区津波避難地図

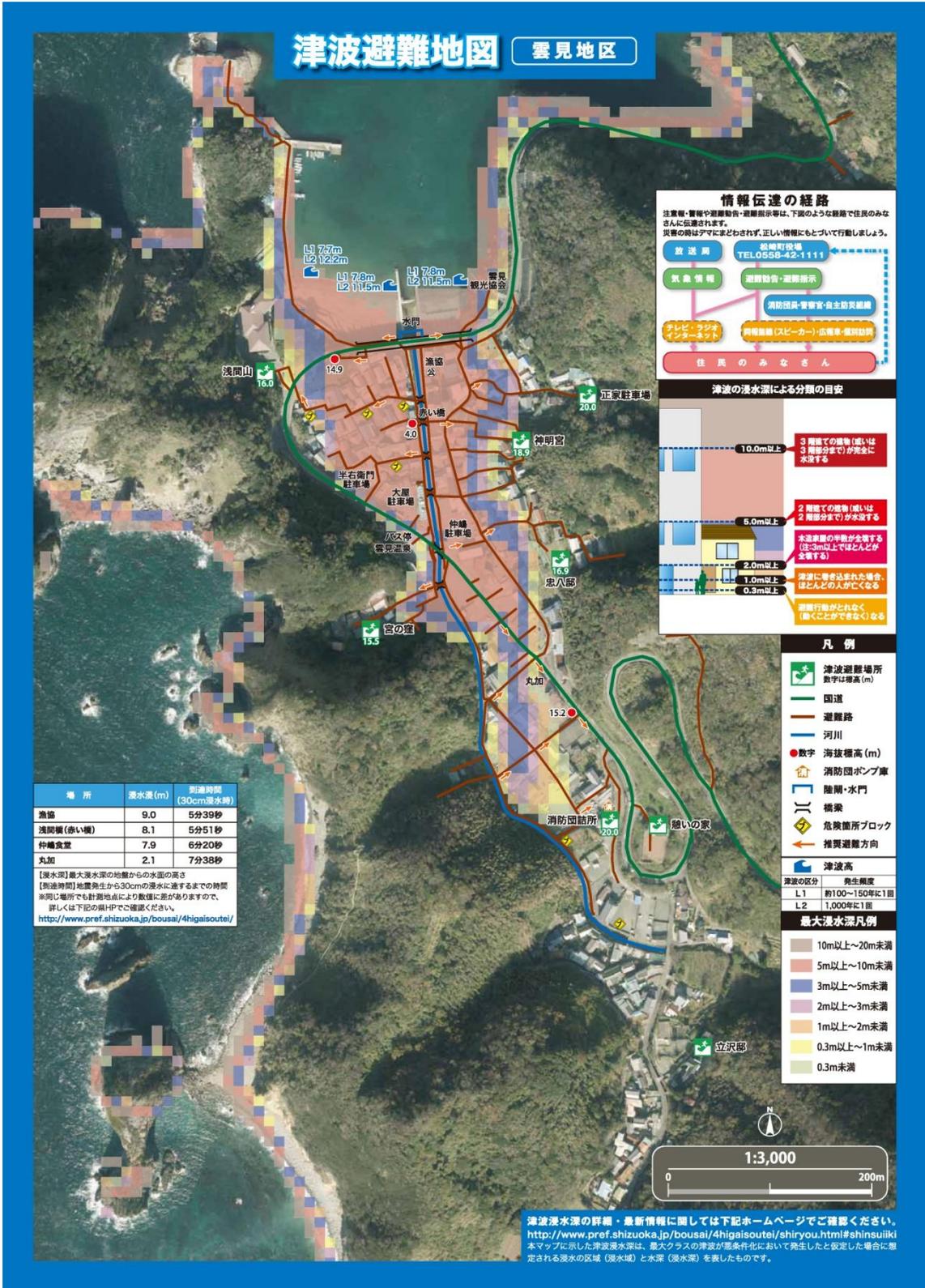


図 1.7 雲見地区津波避難地図

資料編2 津波避難シミュレーション結果（現状）

図 2.1～図 2.14 に健全者と避難行動要支援者の避難行動の結果を示す。行動結果は、「避難不可」、「施設等（津波避難場所、津波避難ビル、津波避難タワー）へ避難」、「浸水域外へ避難」の3パターンで示している。

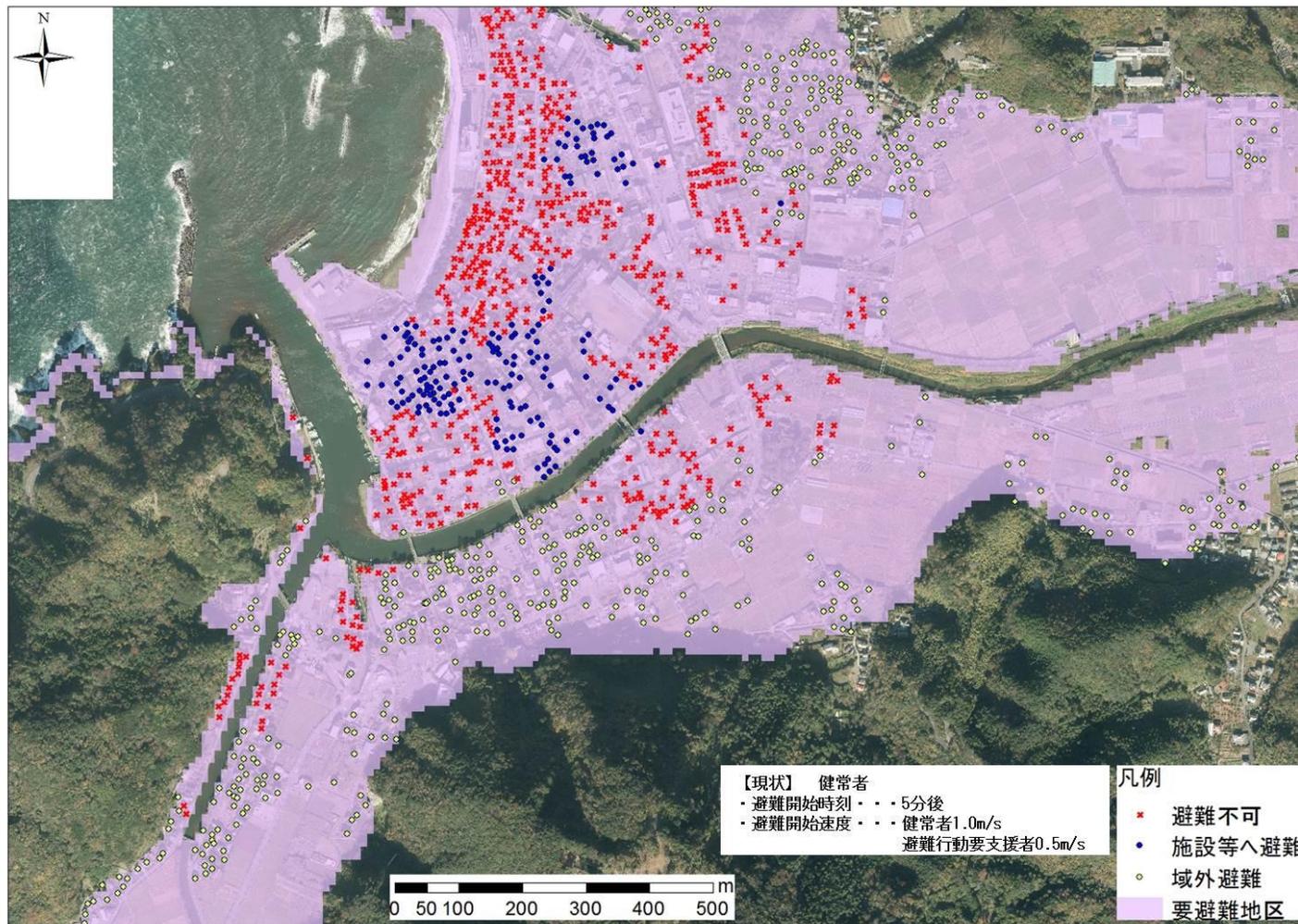


图 2.1 松崎・宮内地区津波避難行動結果（健常者）

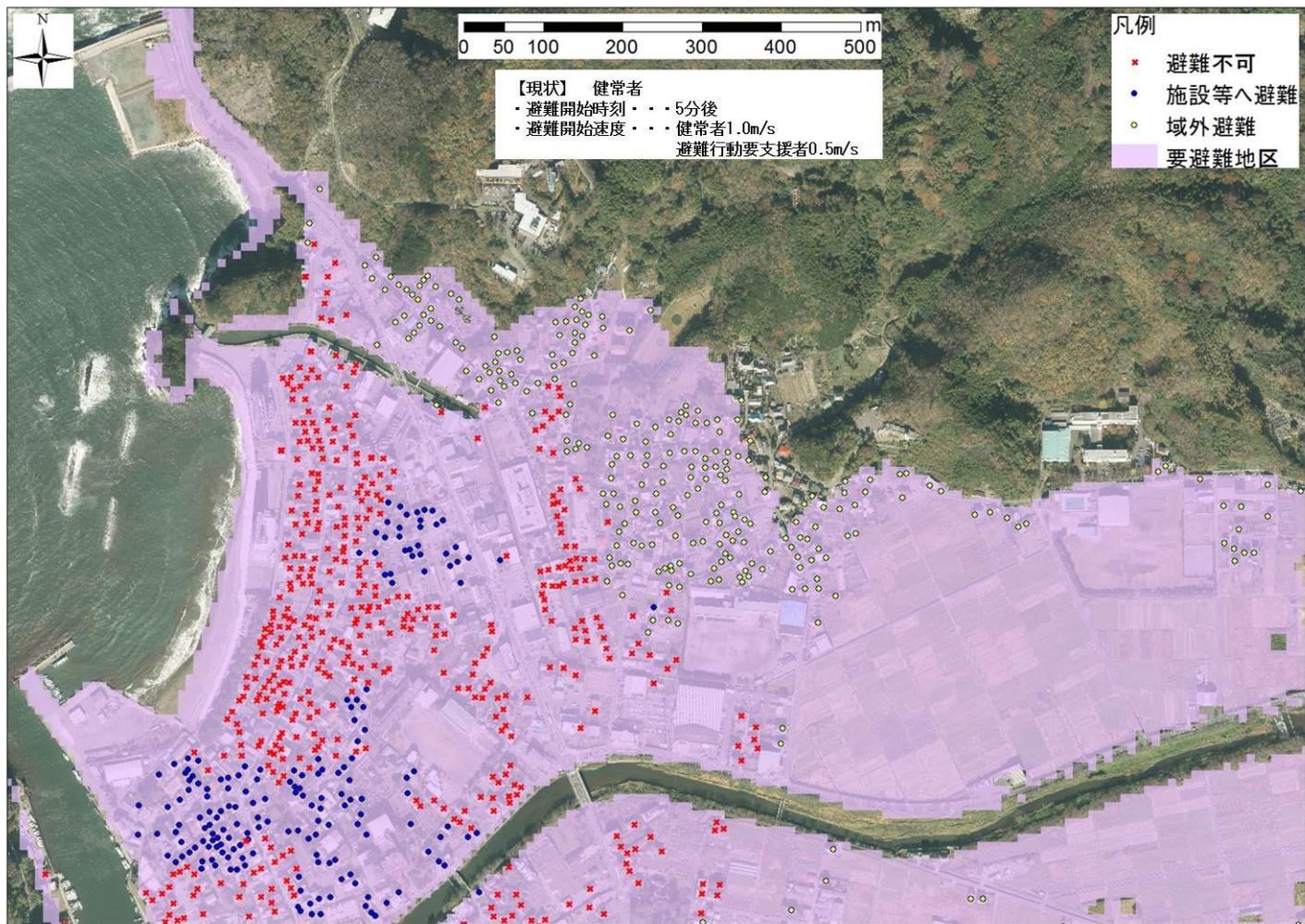


図 2.3 江奈地区津波避難行動結果（健全者）

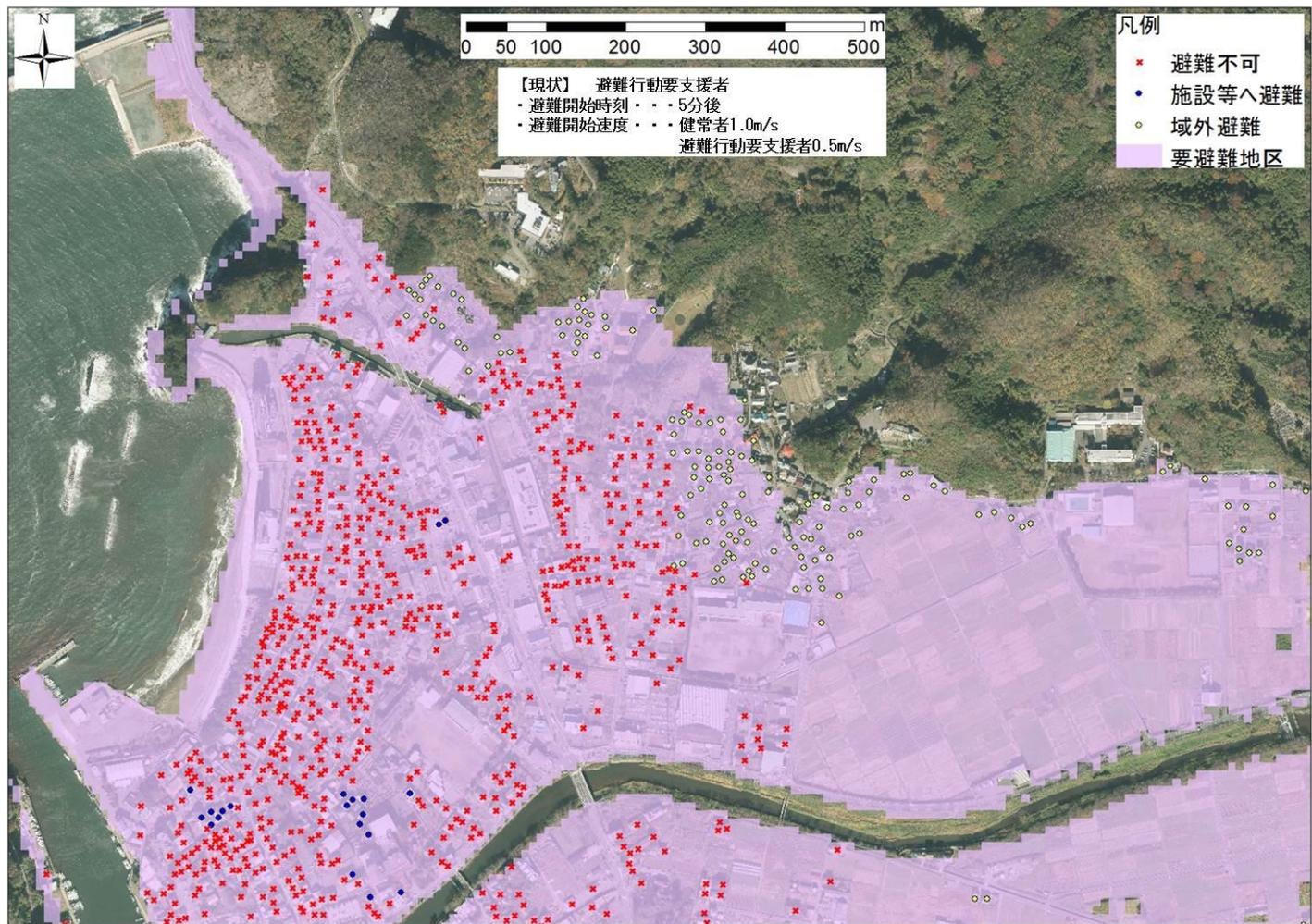


图 2.4 江奈地区津波避難行動結果（避難行動要支援者）

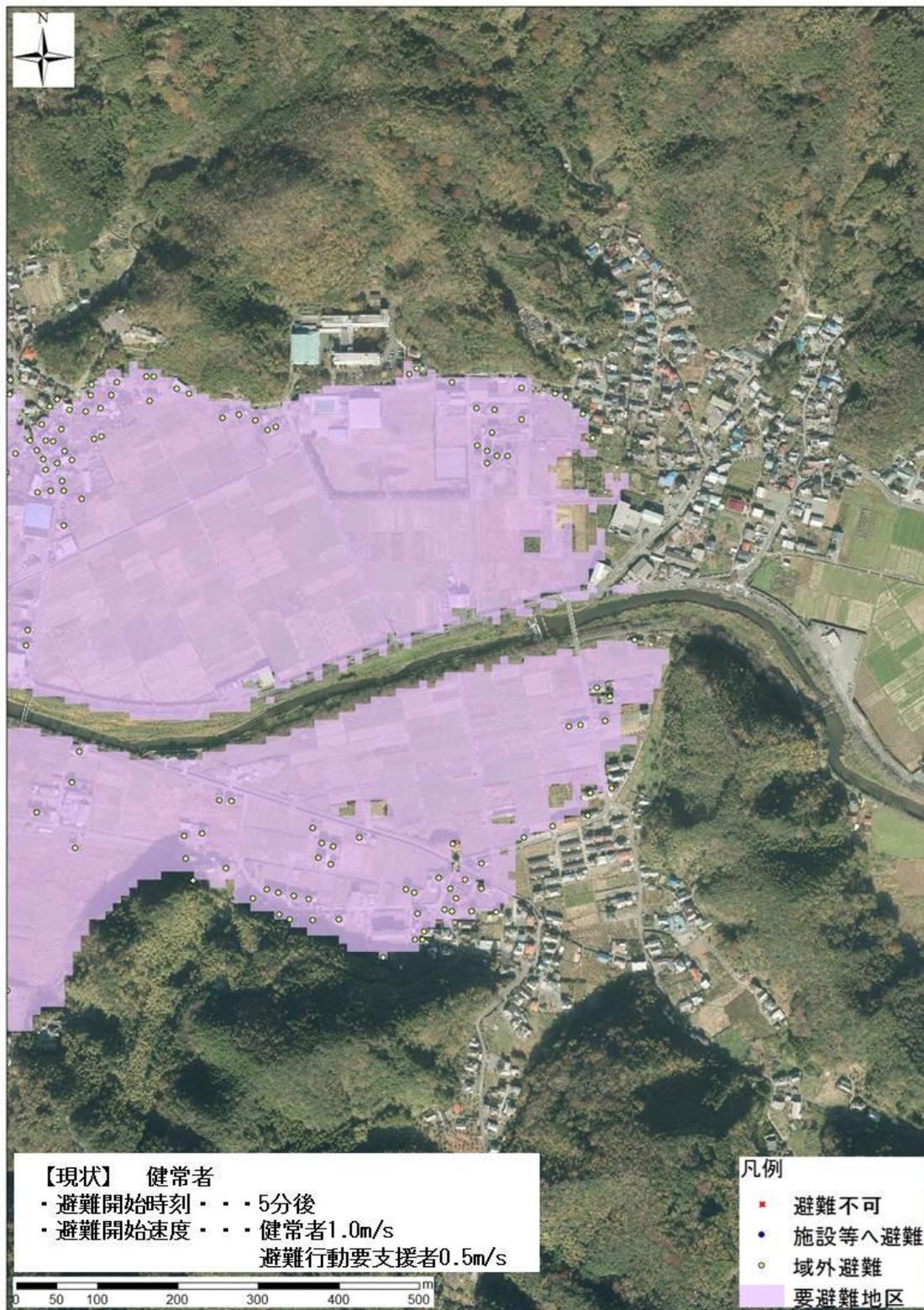


図 2.5 桜田・伏倉地区津波避難行動結果（健常者）

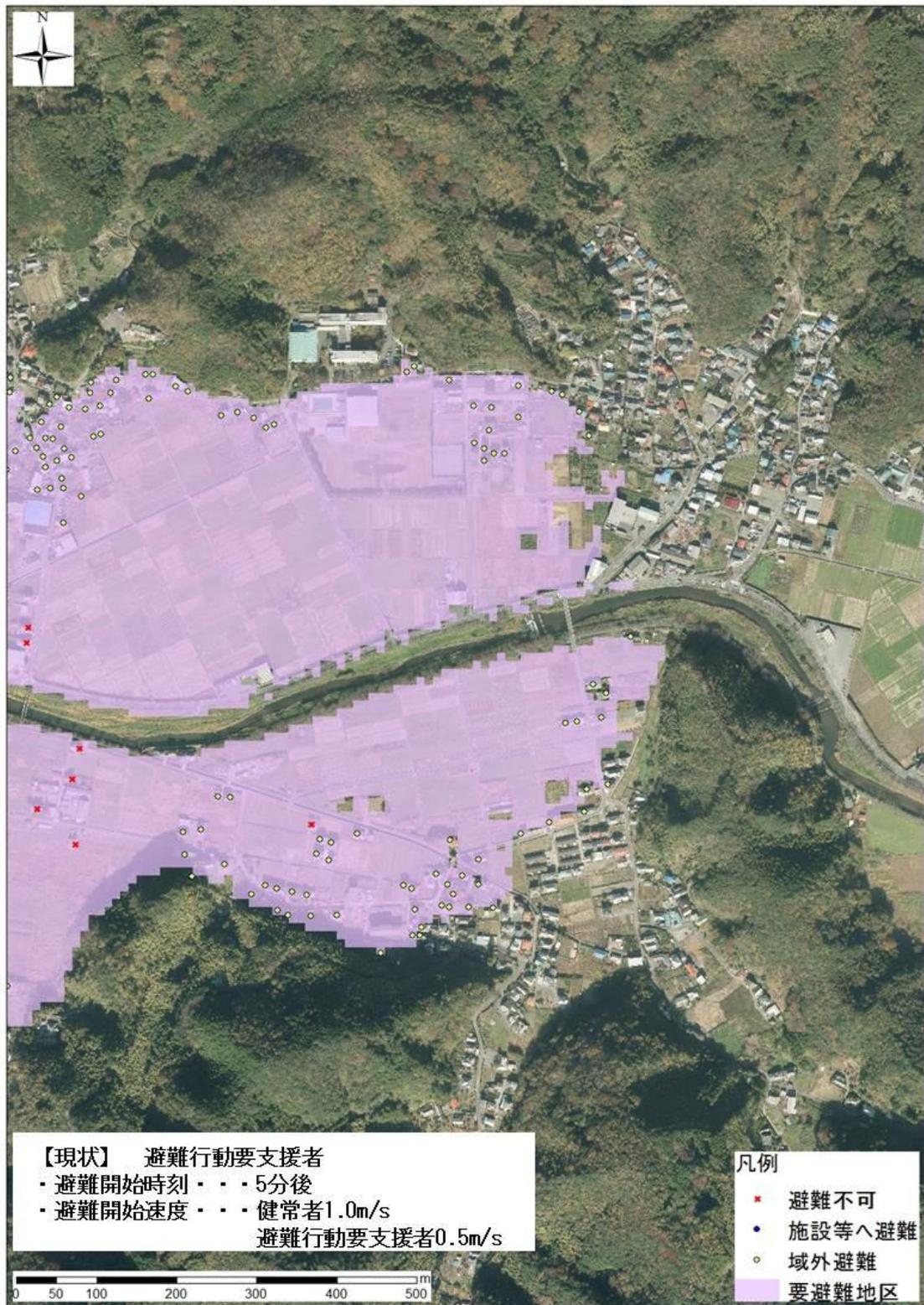


図 2.6 桜田・伏倉地区津波避難行動結果（避難行動要支援者）

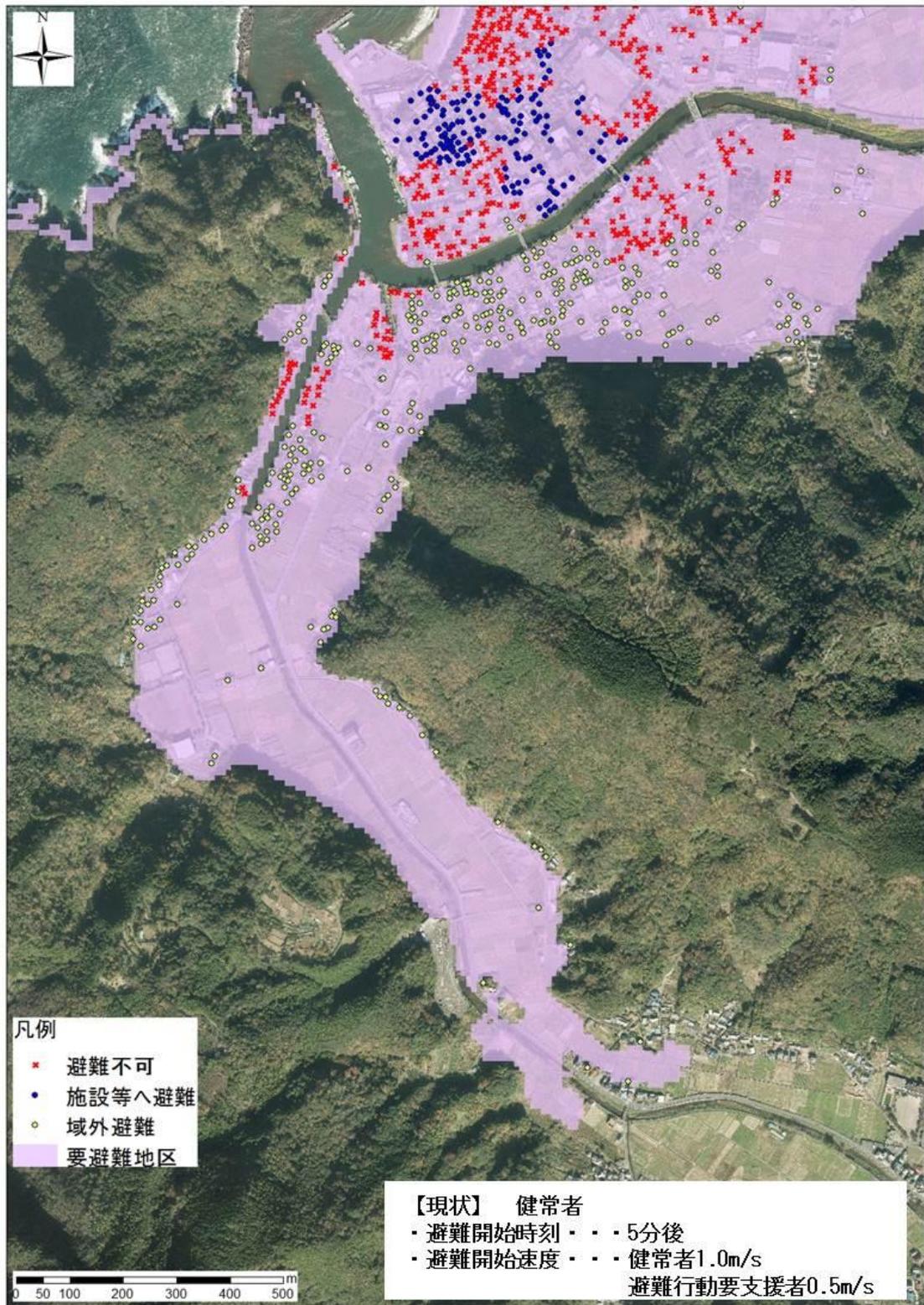


図 2.7 道部・金沢地区津波避難行動結果（健常者）

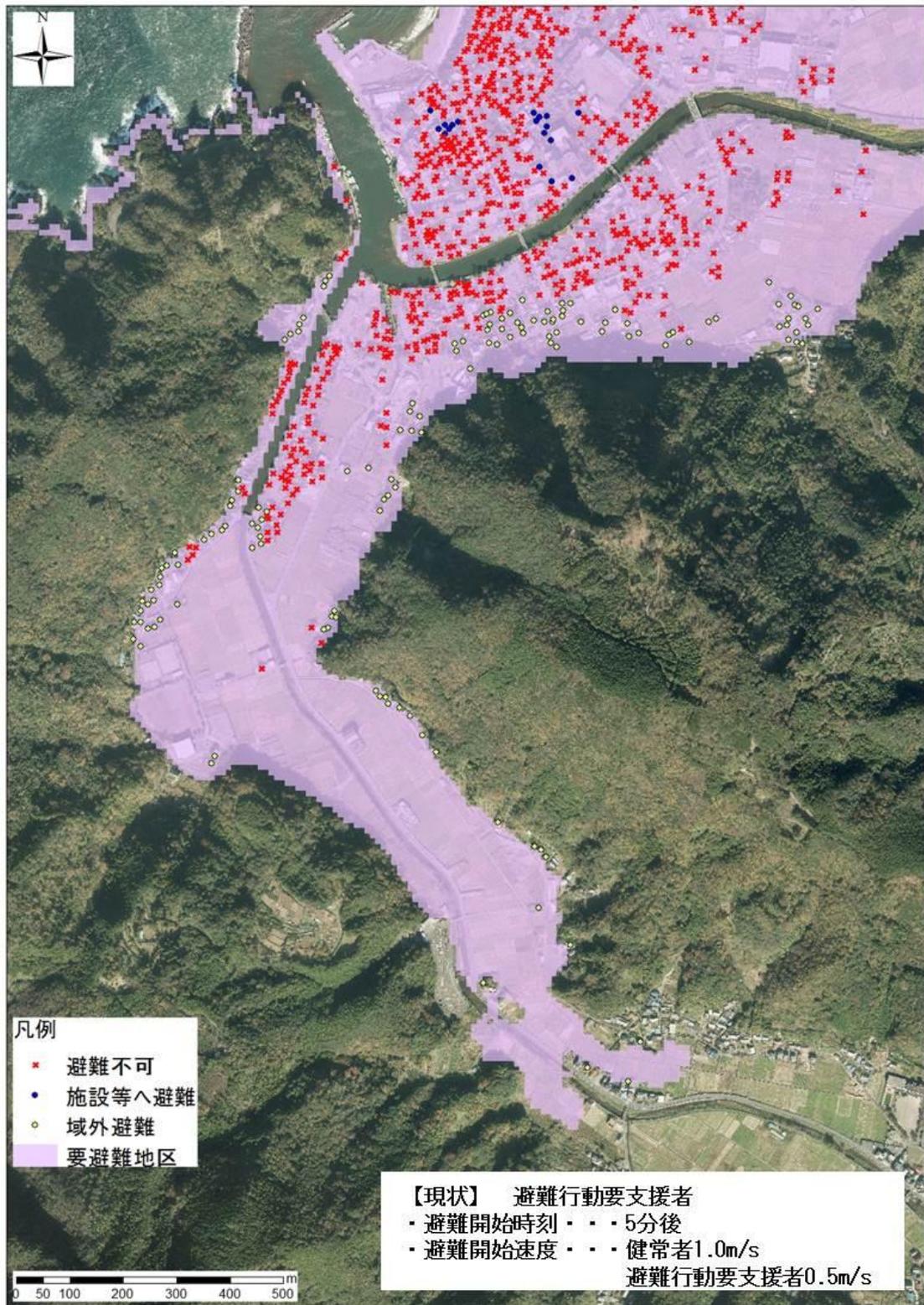


図 2.8 道部・金沢地区津波避難行動結果（避難行動要支援者）

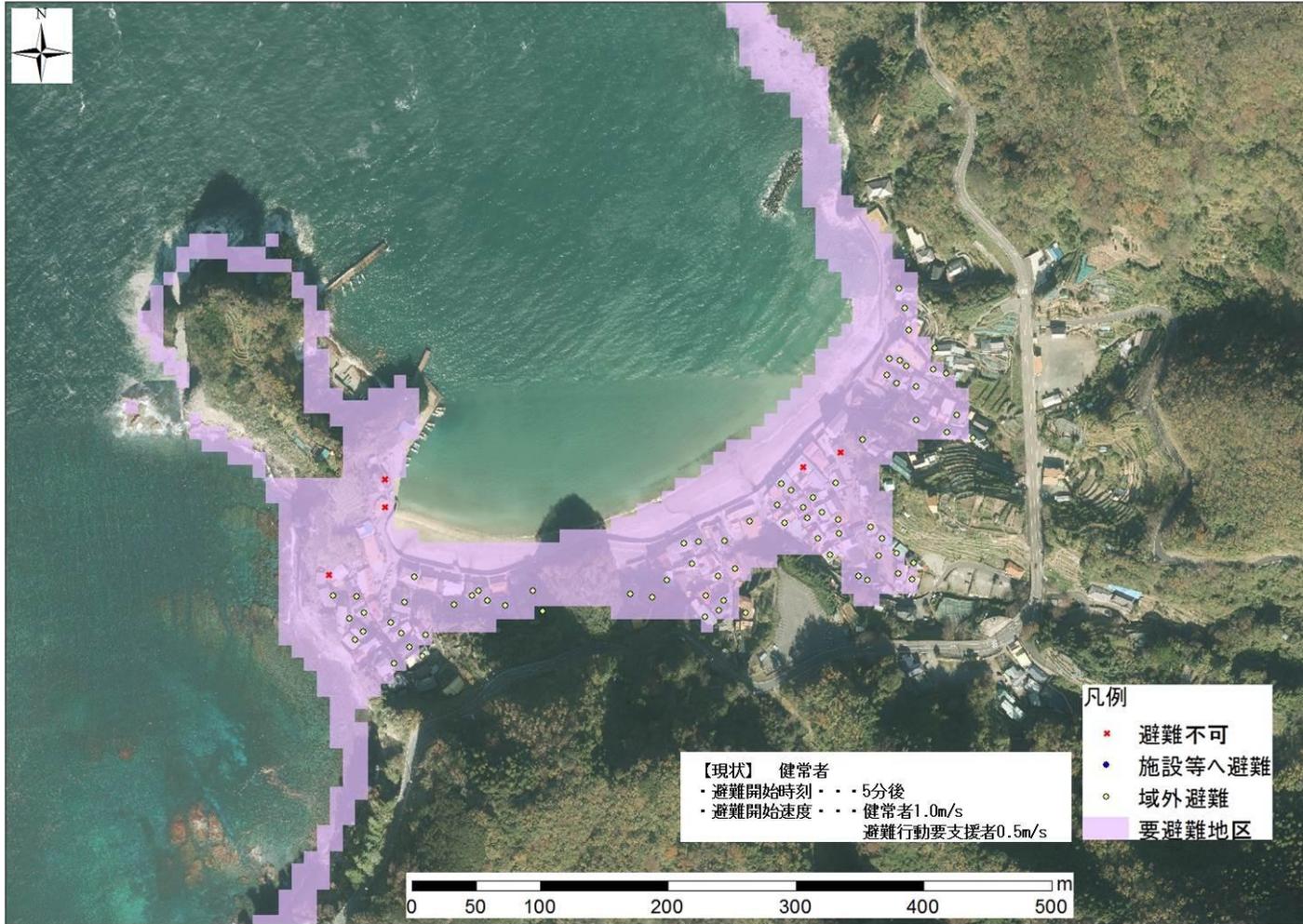


图 2.9 岩地地区津波避難行動結果（健常者）

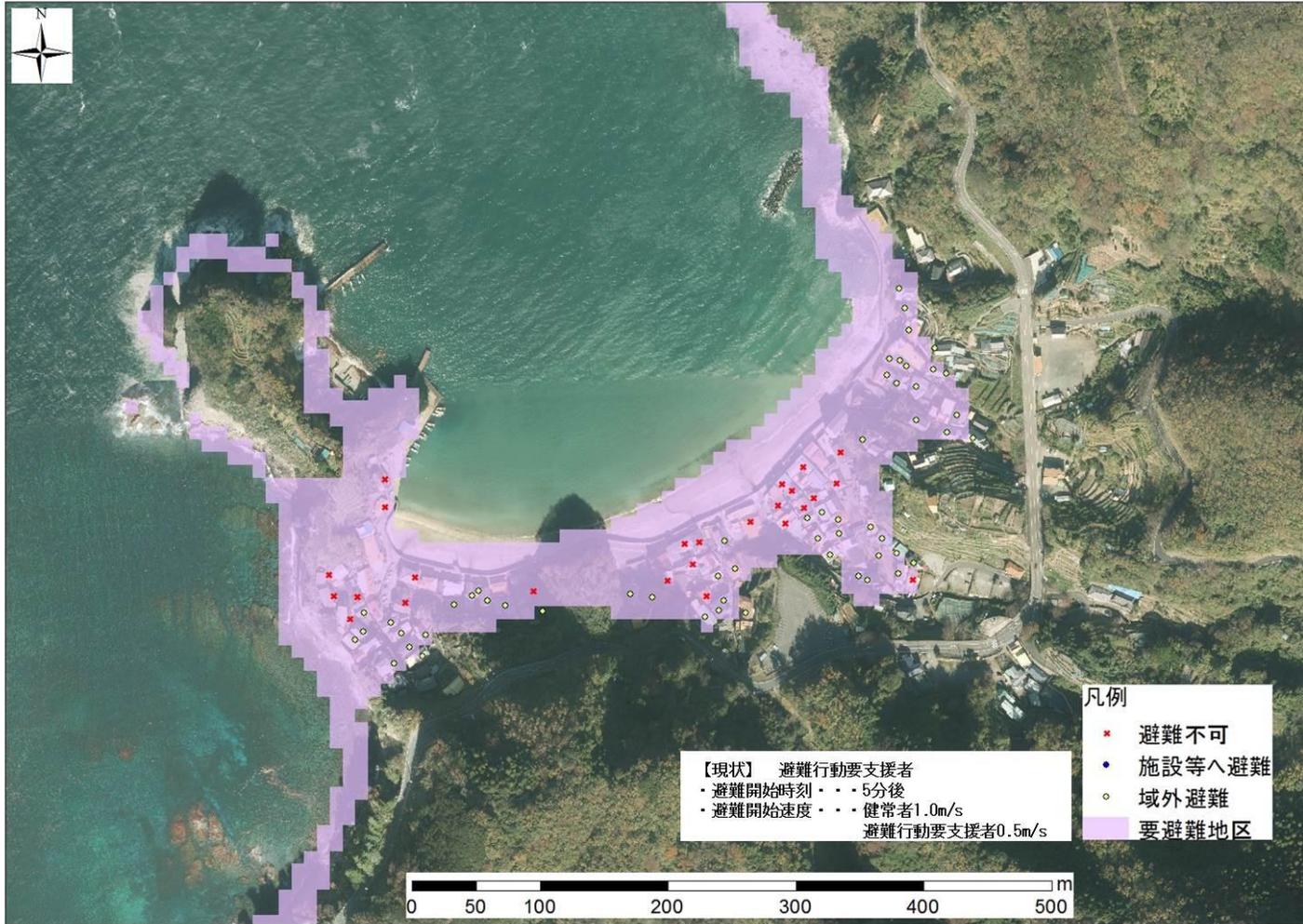


图 2.10 岩地地区津波避難行動結果（避難行動要支援者）

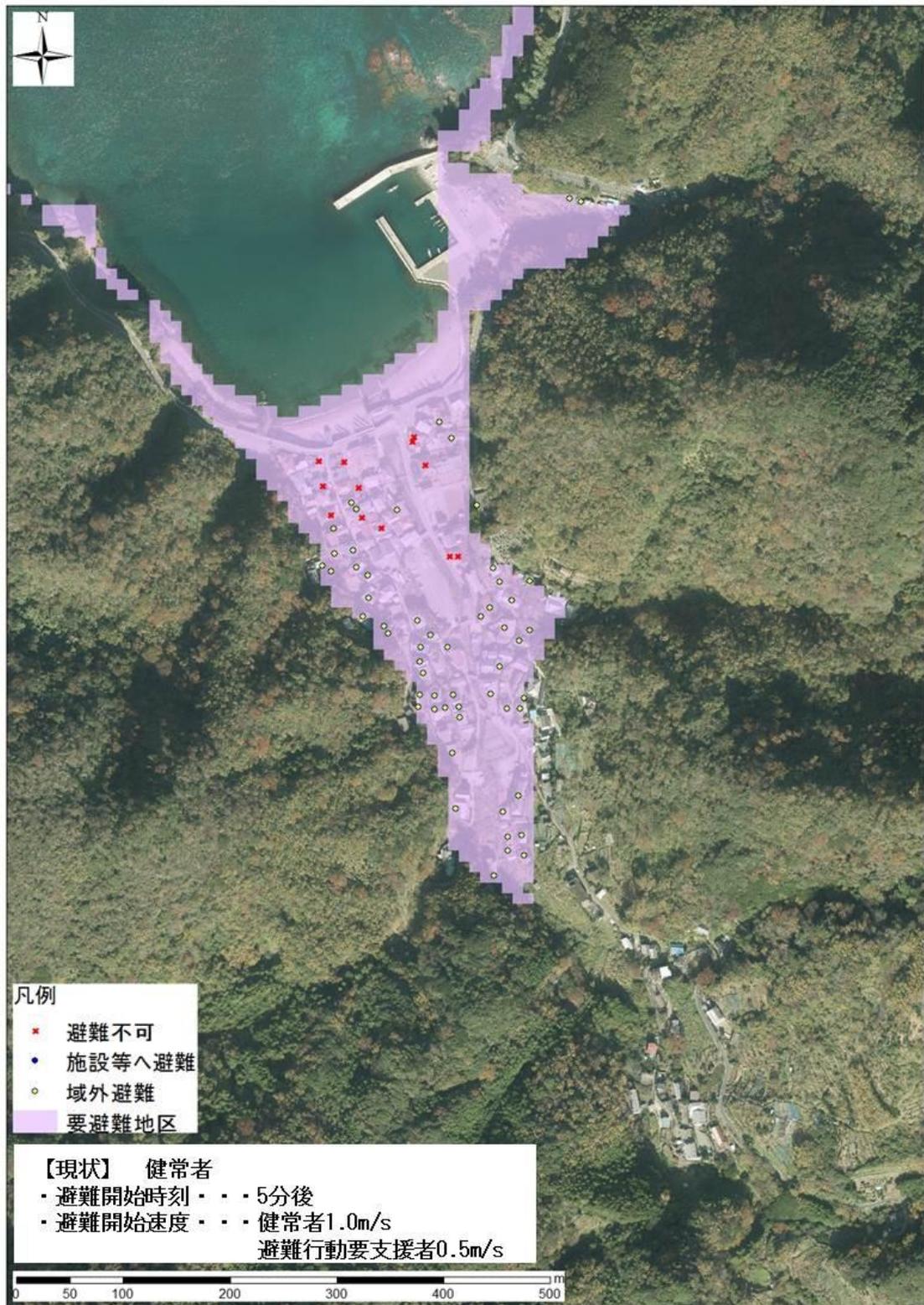


図 2.11 石部地区津波避難行動結果（健常者）

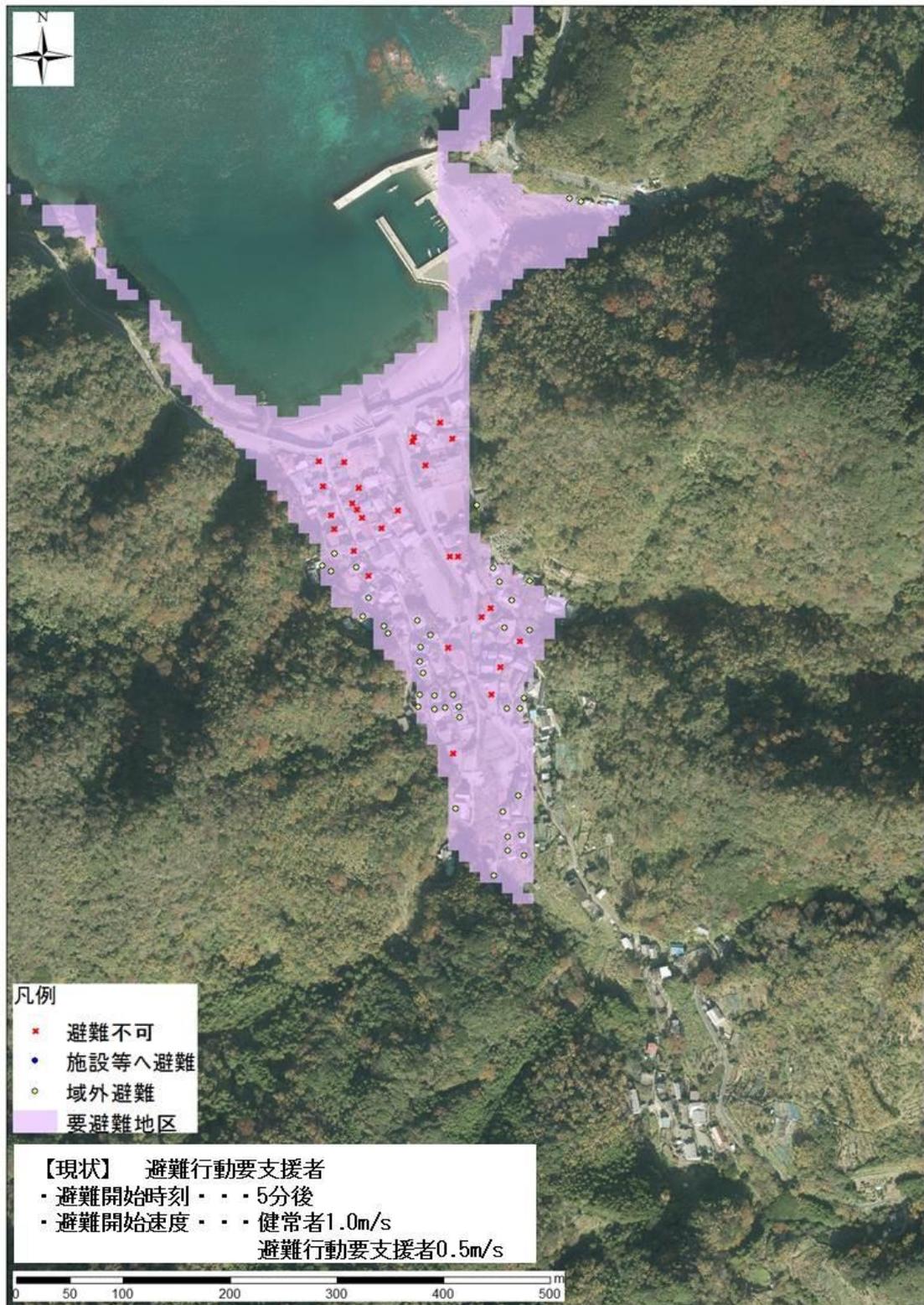


図 2.12 石部地区津波避難行動結果（避難行動要支援者）

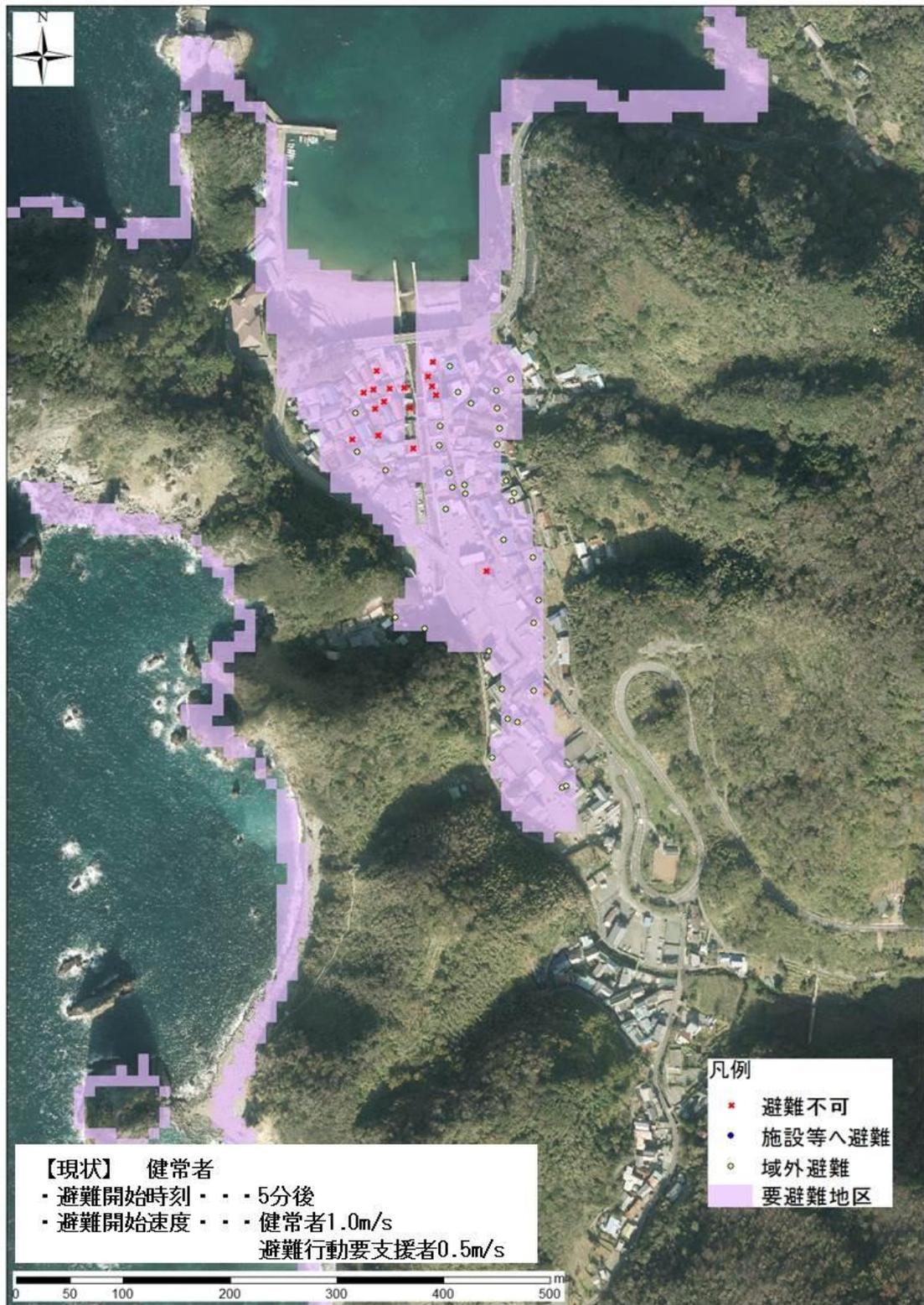


図 2.13 雲見地区津波避難行動結果（健常者）

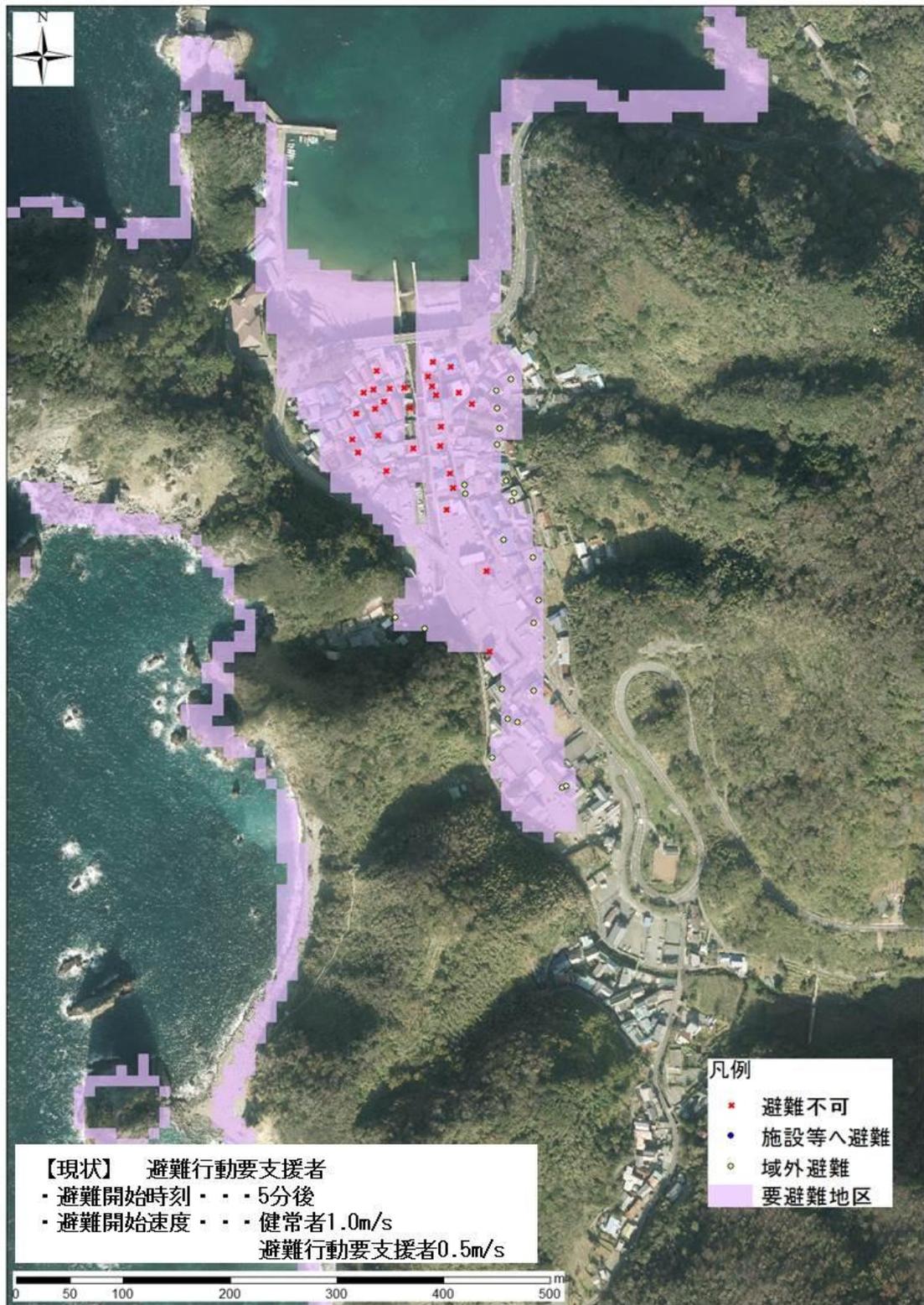


図 2.14 雲見地区津波避難行動結果（避難行動要支援者）

資料編3 津波避難シミュレーション結果（津波避難対策）

現状での津波避難結果を踏まえ、以下の条件で津波避難シミュレーションを行った。

津波避難対策1

避難開始時間 3分、避難速度（健常者 1.00 m/s、避難行動要支援者 0.50 m/s）

津波避難対策2

避難開始時間 3分、避難速度（健常者 1.20 m/s、避難行動要支援者 0.60 m/s）

津波避難対策3

避難開始時間 3分、避難速度（健常者 1.50 m/s、避難行動要支援者 0.75 m/s）

図 3.1～図 3.42 に健常者と避難行動要支援者の避難行動の結果を示す。行動結果は、「避難不可」、「施設等（津波避難場所、津波避難ビル、津波避難タワー）へ避難」、「浸水域外へ避難」の3パターンで示している。

津波避難対策1

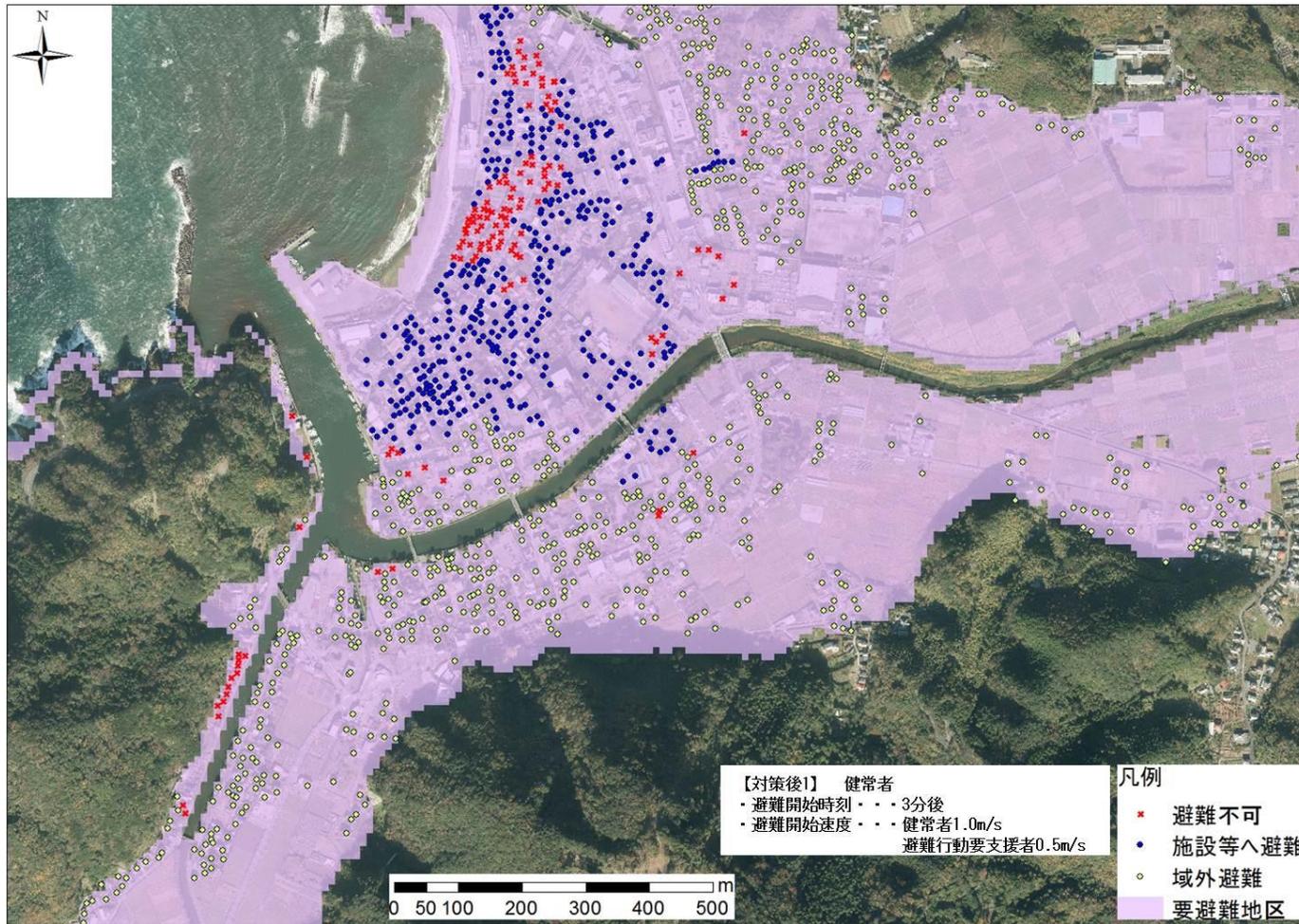


図 3.1 松崎・宮内地区津波避難行動結果（健常者）

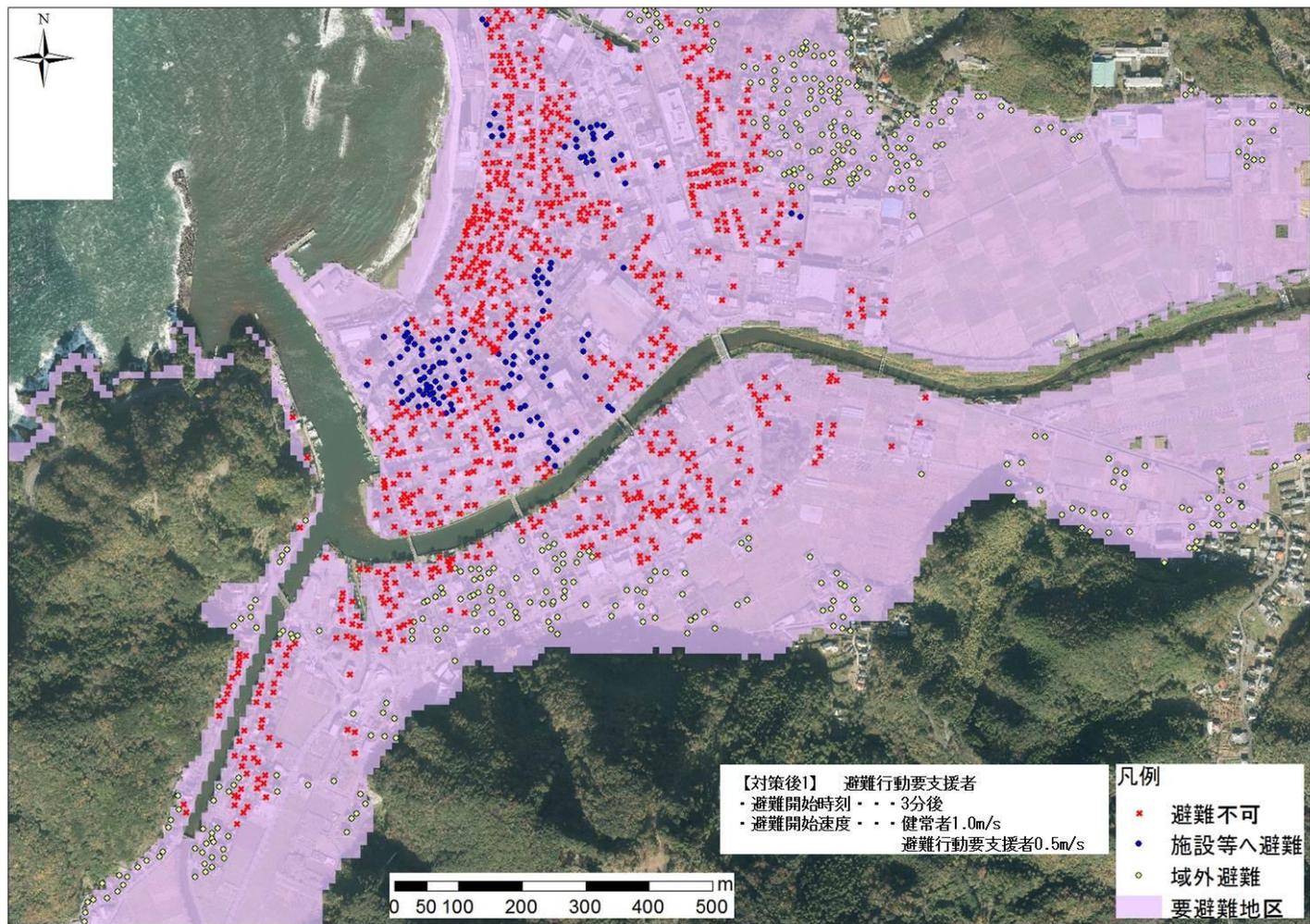


图 3.2 松崎・宮内地区津波避難行動結果（避難行動要支援者）

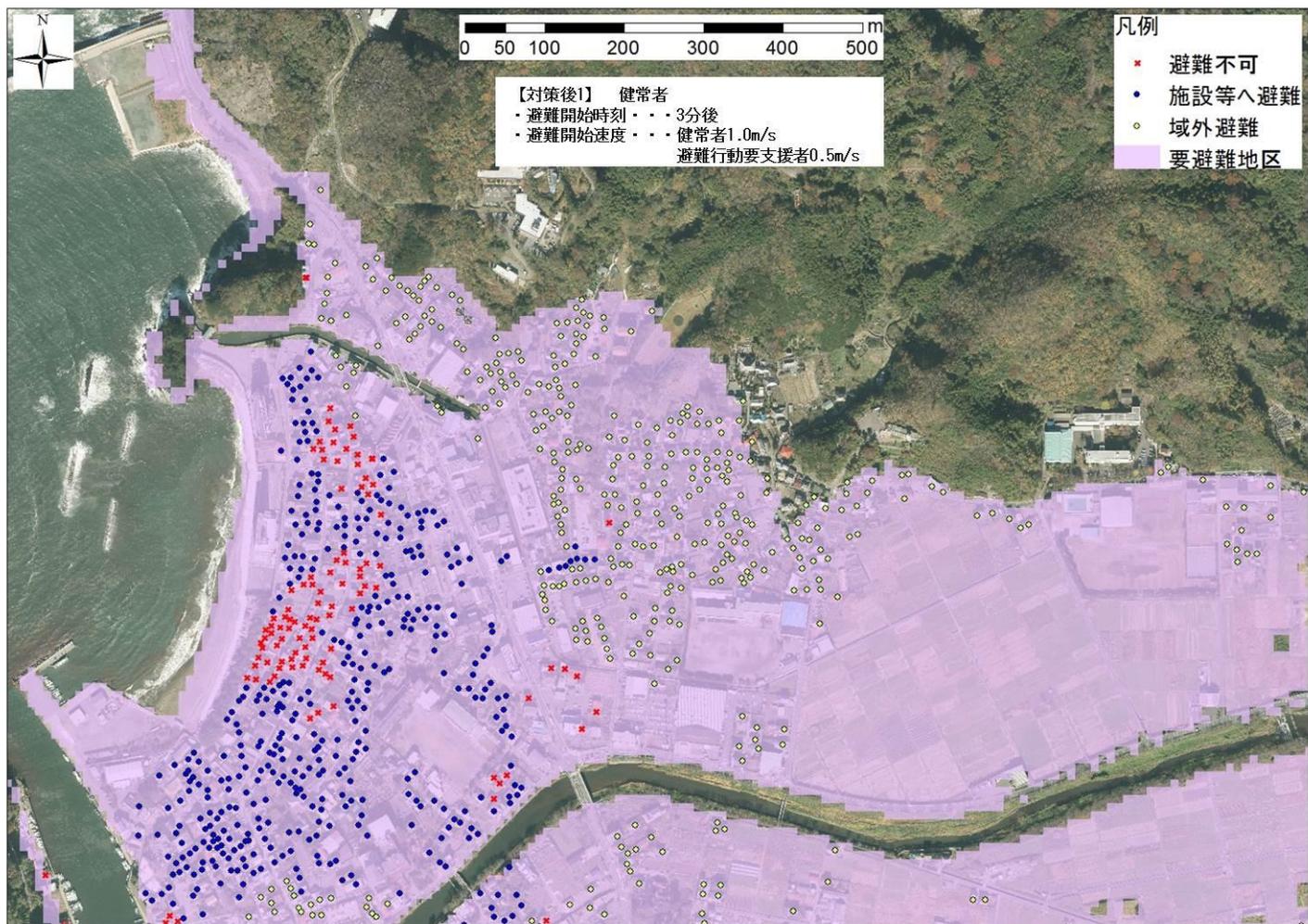


図 3.3 江奈地区津波避難行動結果（健常者）

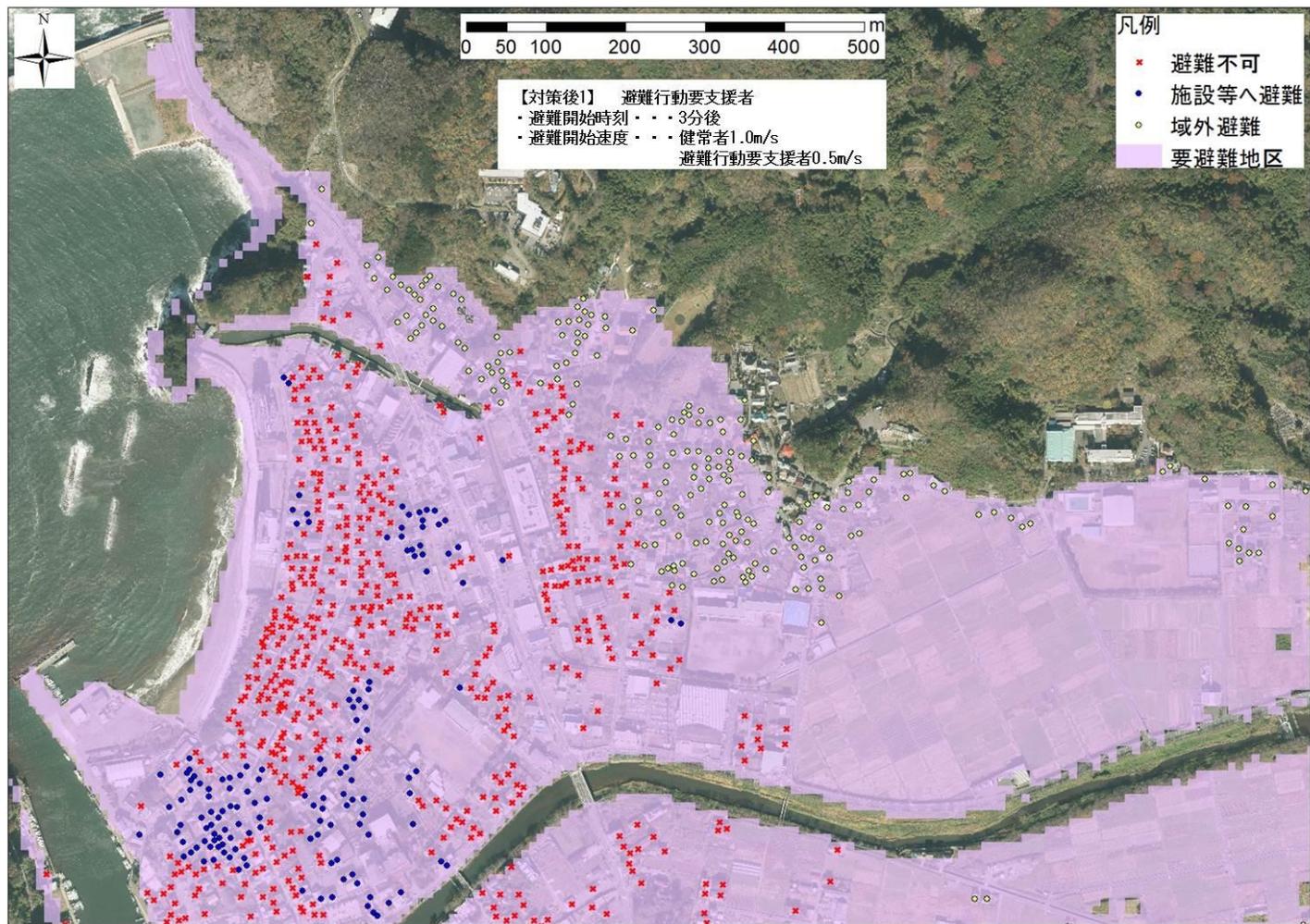


図 3.4 江奈地区津波避難行動結果（避難行動要支援者）

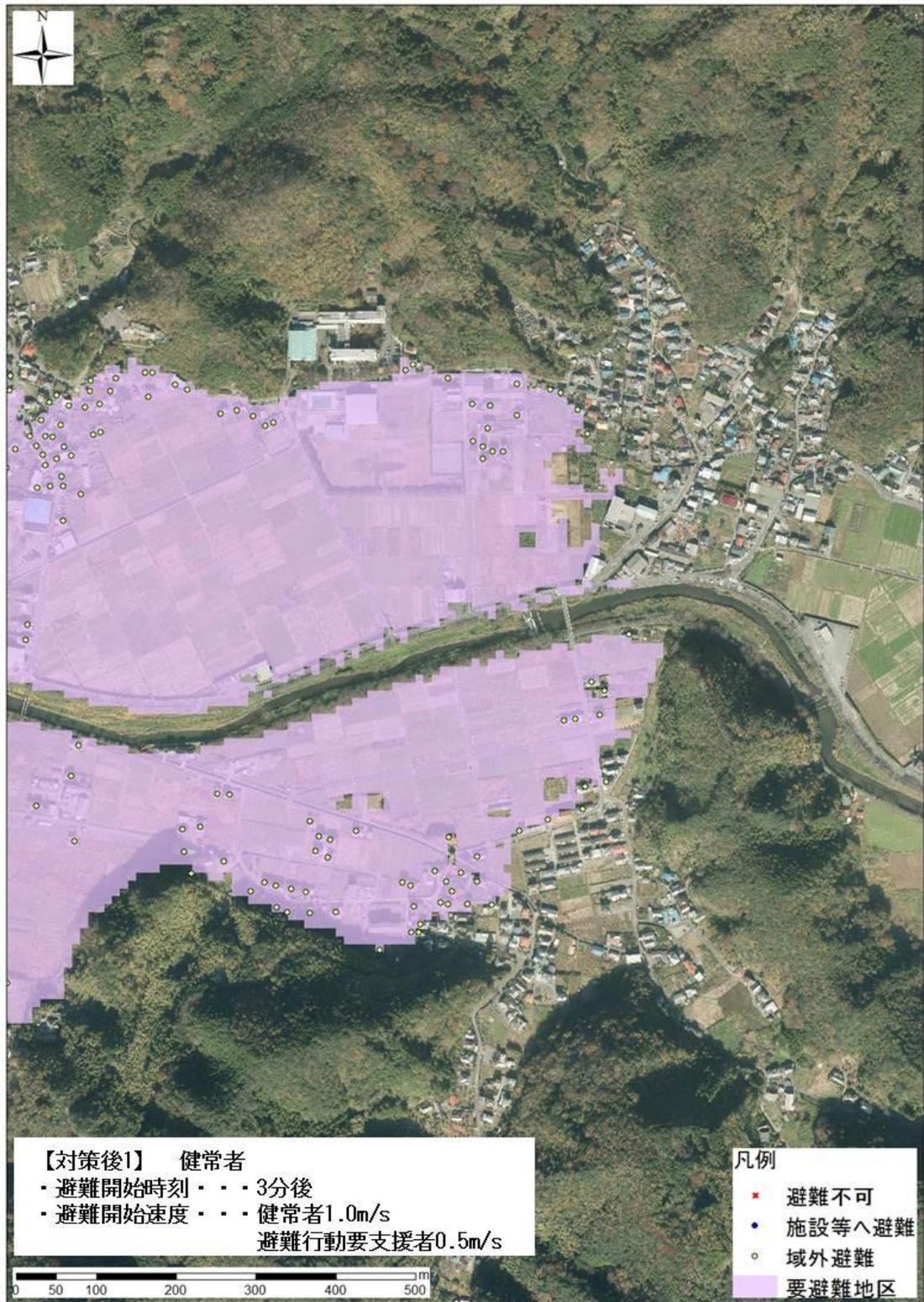


図 3.5 桜田・伏倉地区津波避難行動結果（健常者）

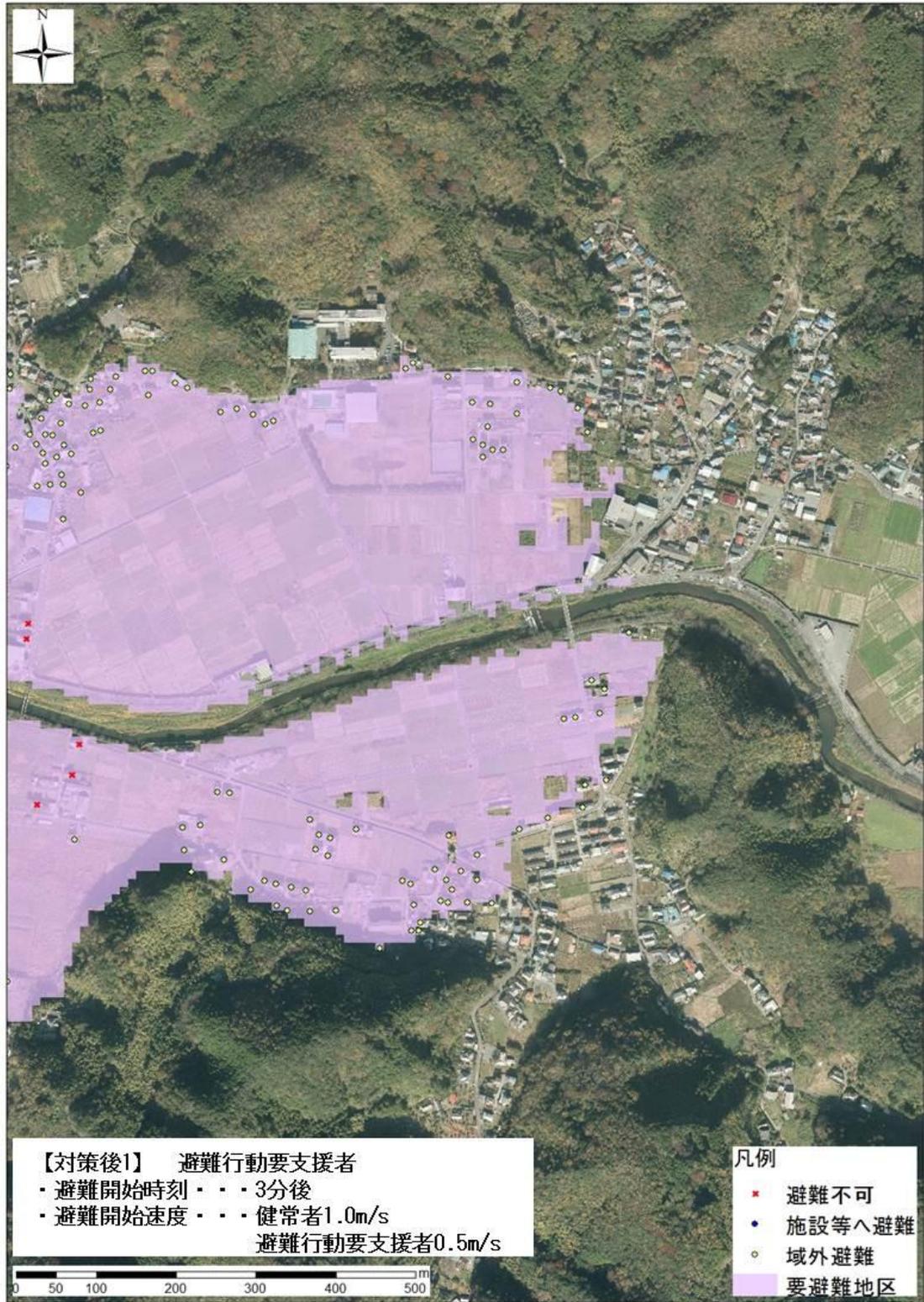


図 3.6 桜田・伏倉地区津波避難行動結果（避難行動要支援者）

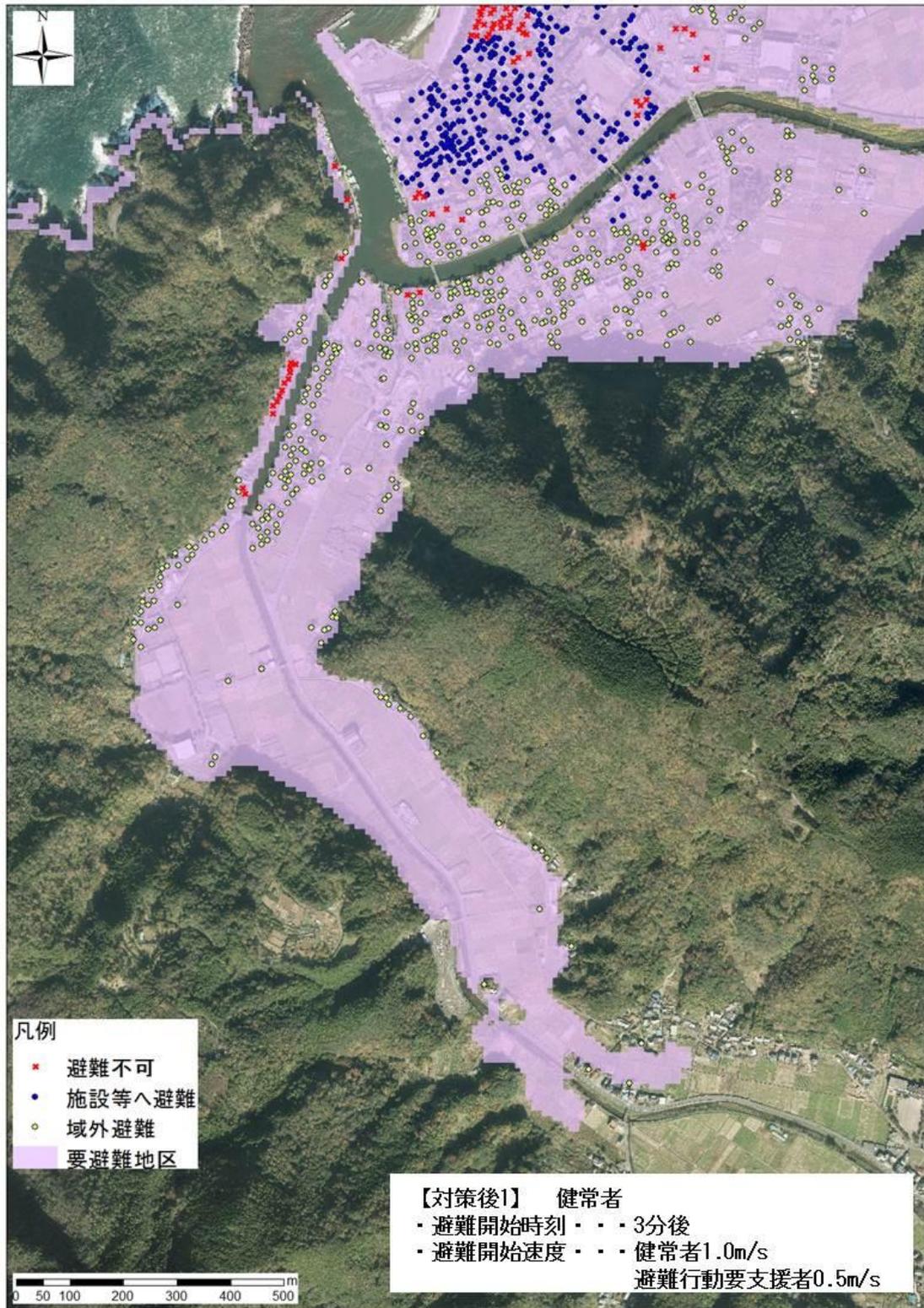


図 3.7 道部・金沢地区津波避難行動結果（健常者）

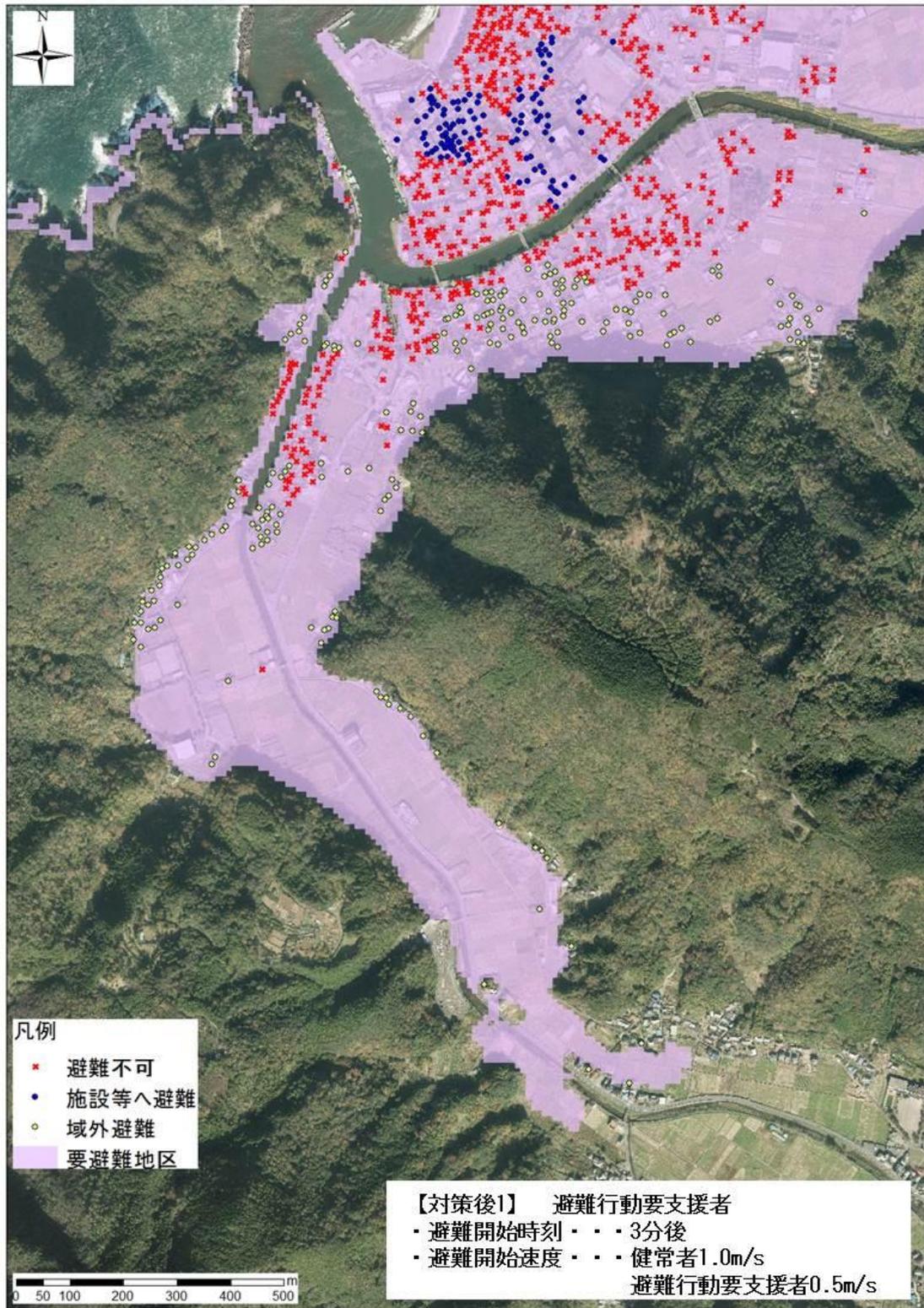


図 3.8 道部・金沢地区津波避難行動結果（避難行動要支援者）

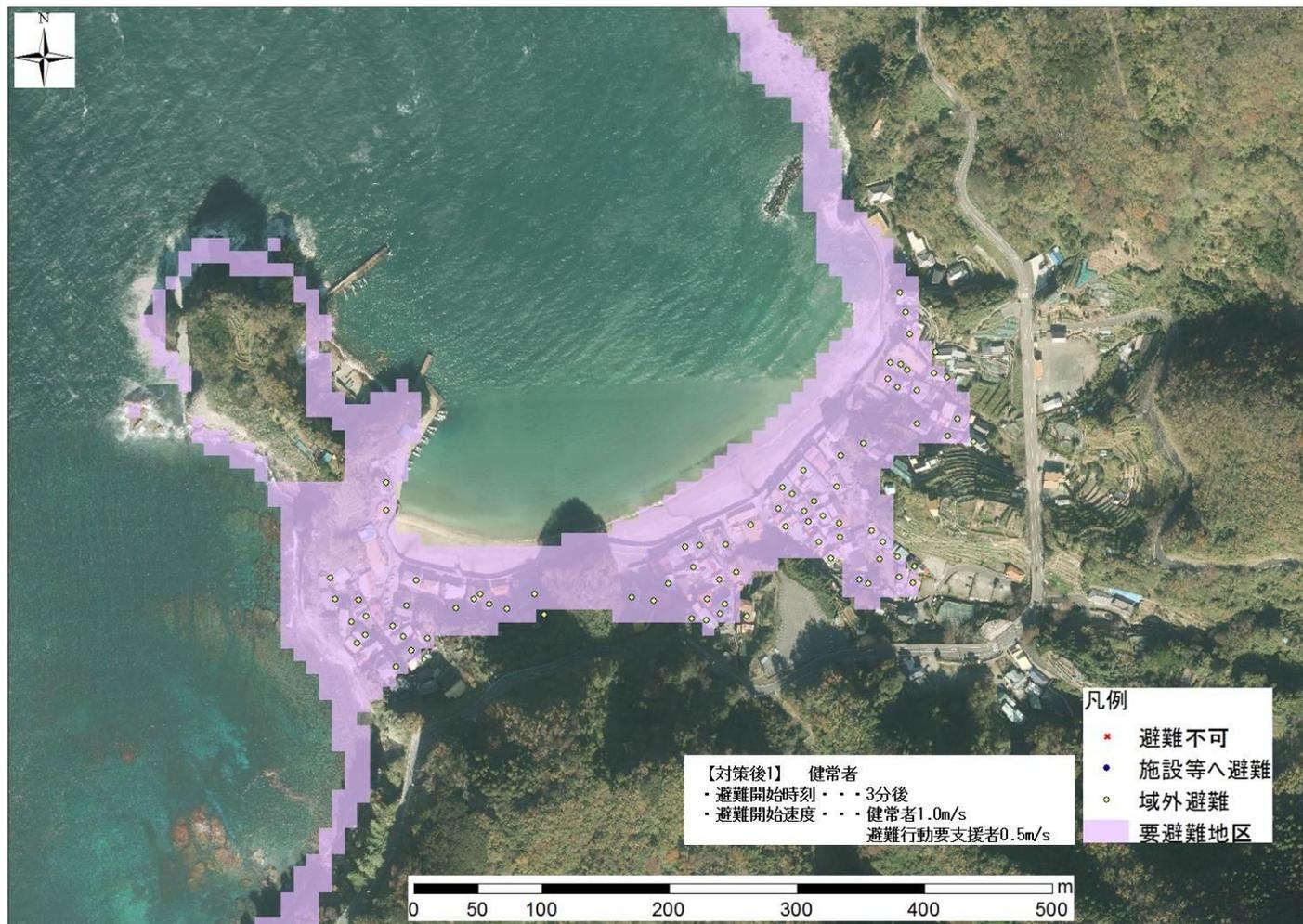


图 3.9 岩地地区津波避難行動結果（健全者）



图 3.10 岩地地区津波避難行動結果（避難行動要支援者）

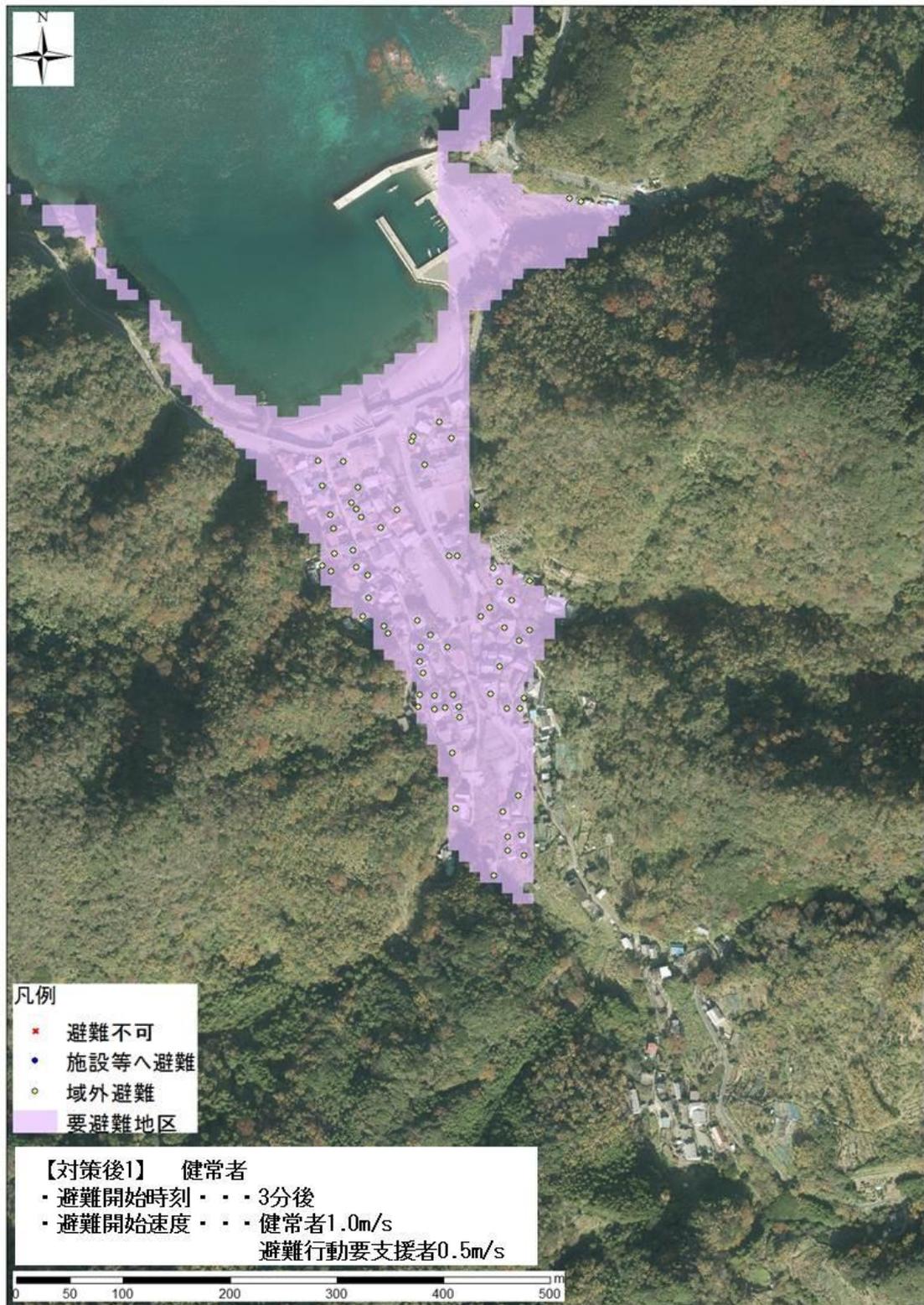


図 3.11 石部地区津波避難行動結果（健常者）

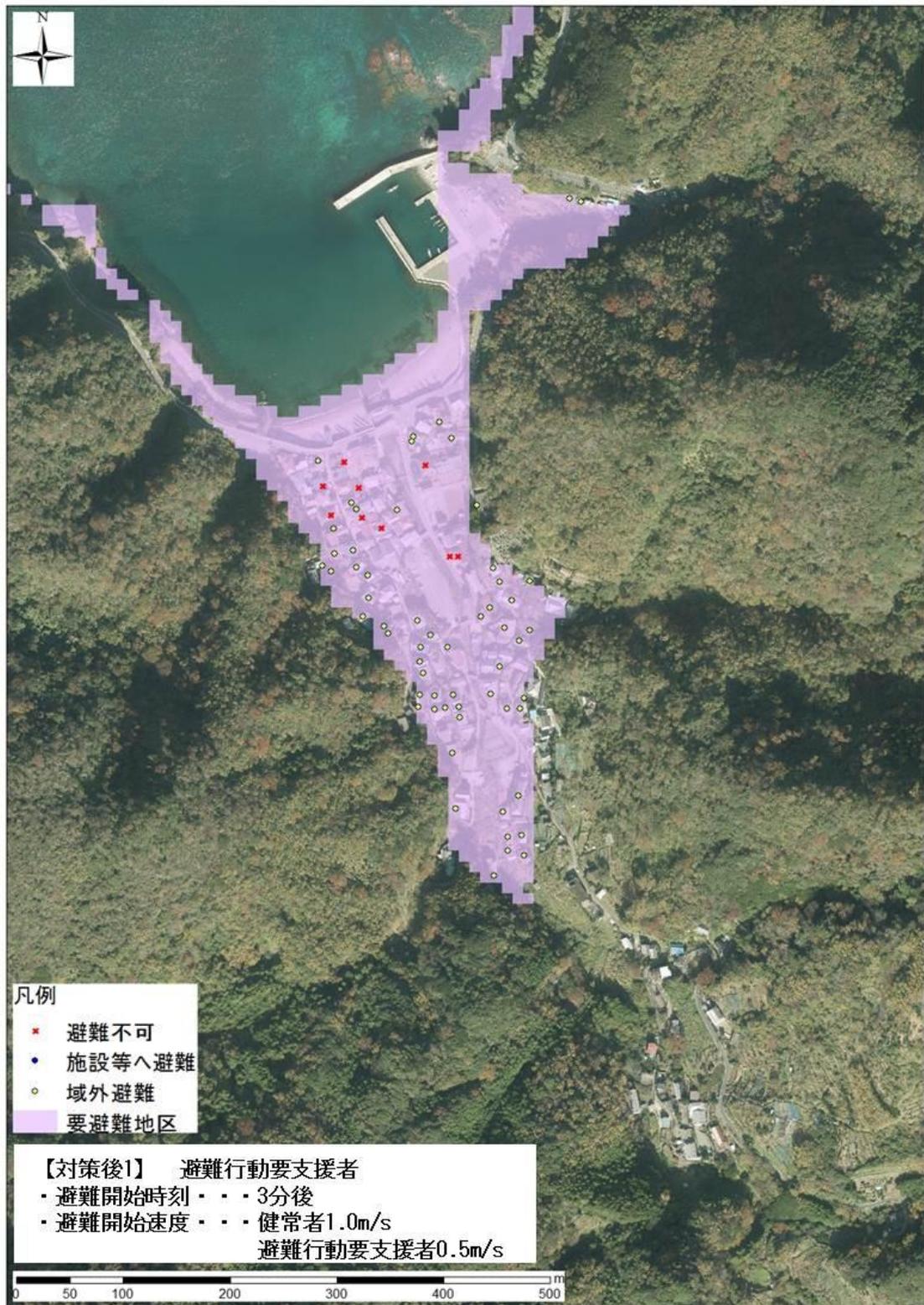


图 3.12 石部地区津波避難行動結果（避難行動要支援者）



図 3.13 雲見地区津波避難行動結果（健常者）

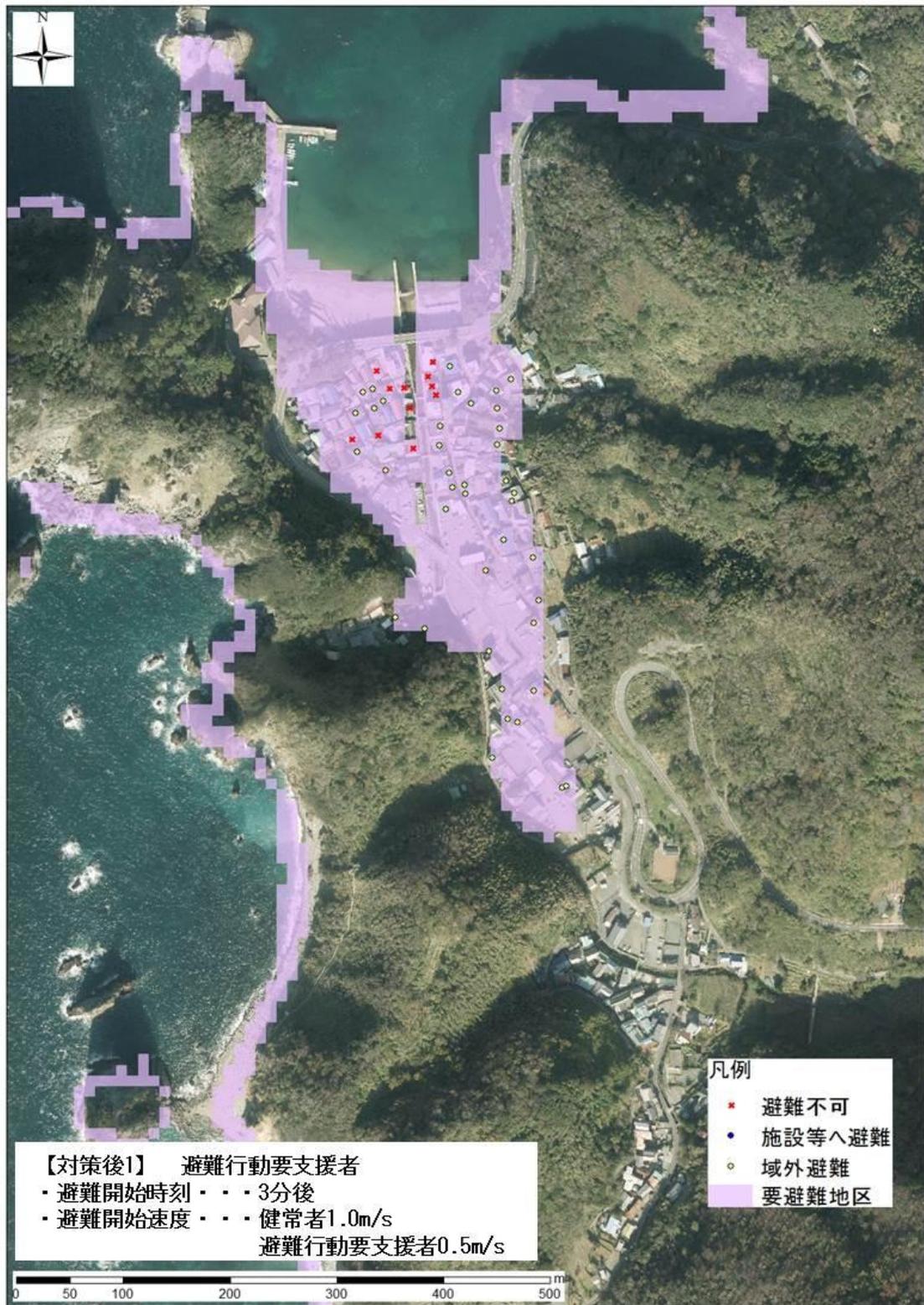


图 3.14 雲見地区津波避難行動結果（避難行動要支援者）

津波避難対策2

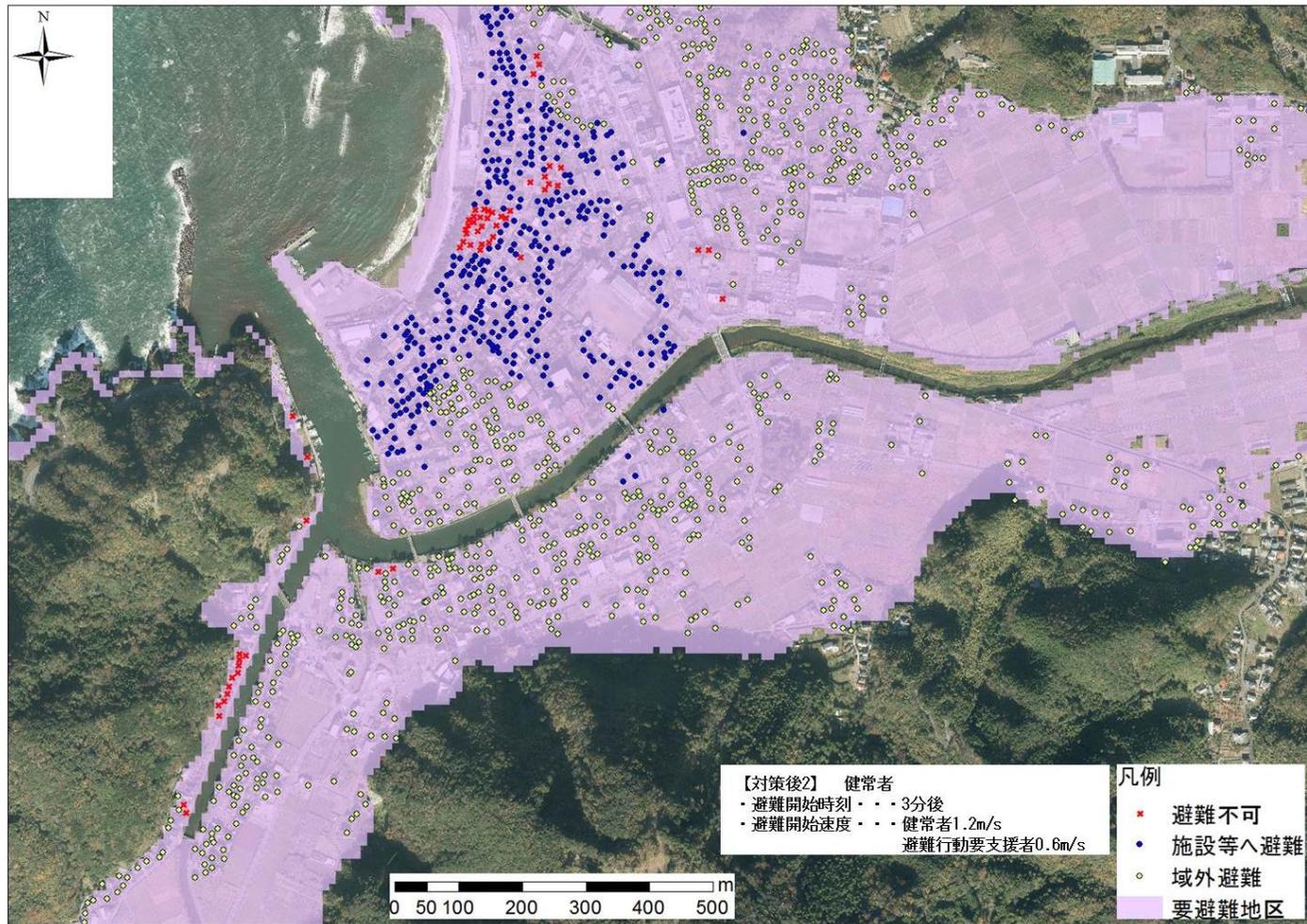


図 3.15 松崎・宮内地区津波避難行動結果（健常者）

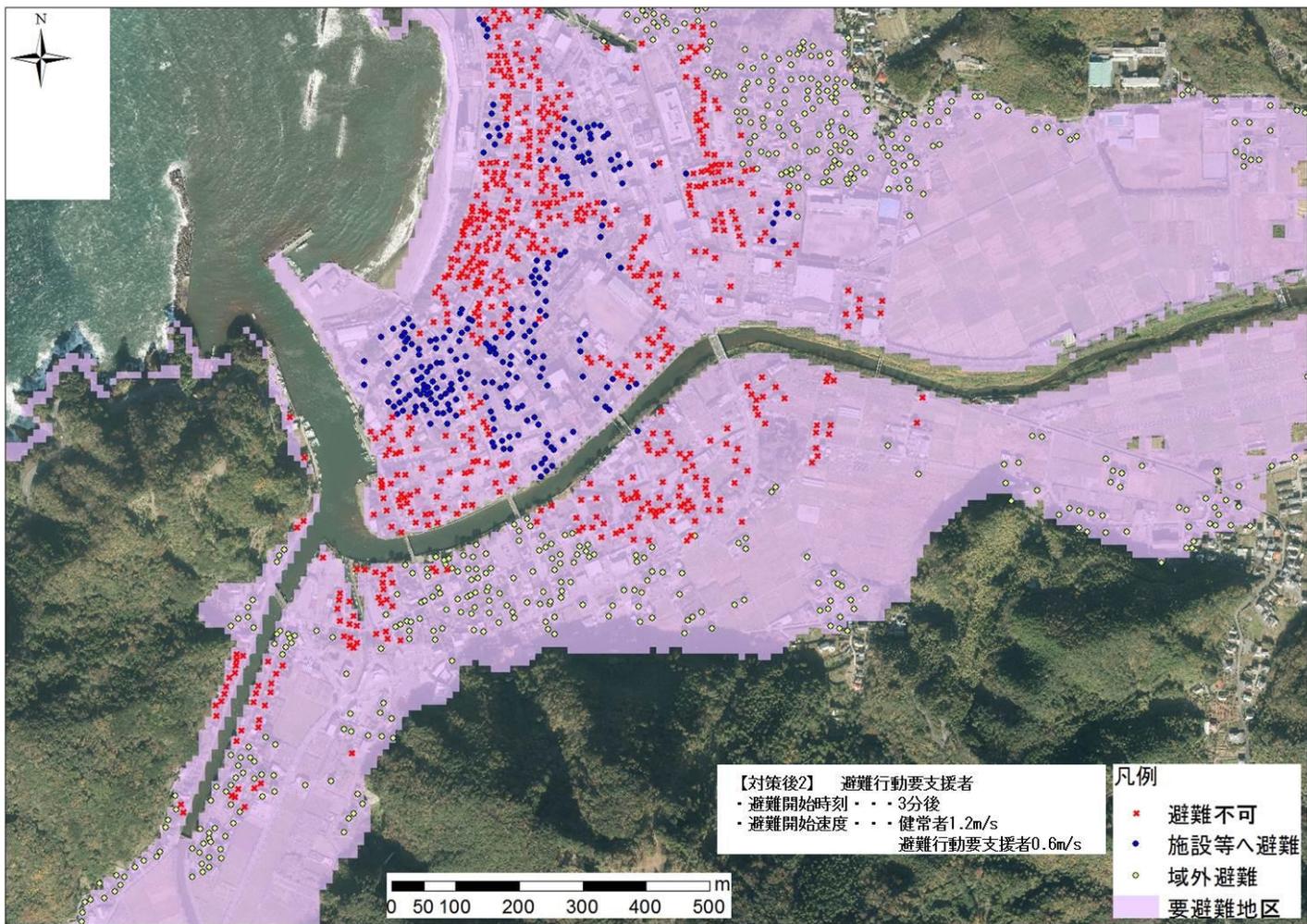


図 3.16 松崎・宮内地区津波避難行動結果（避難行動要支援者）

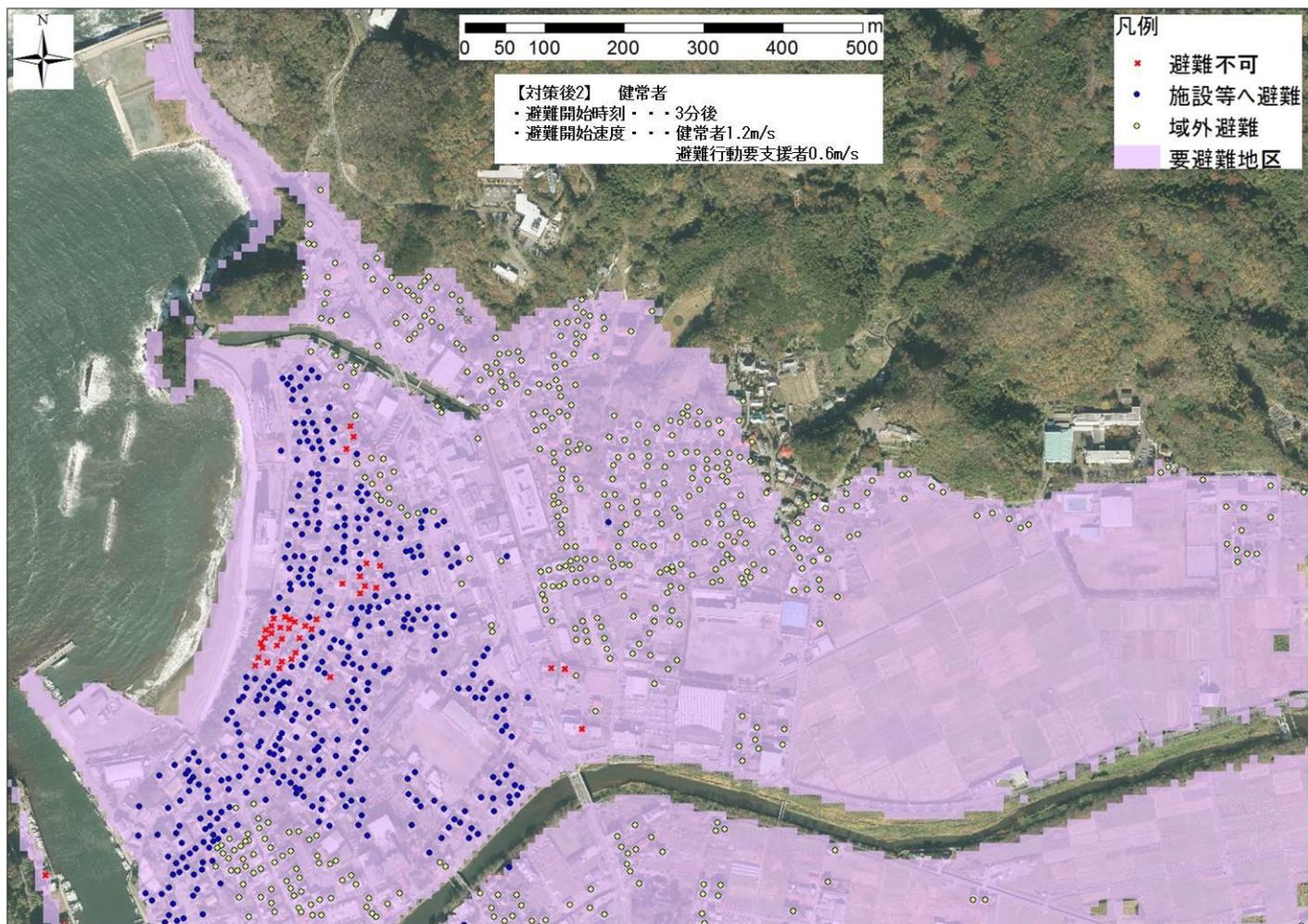


図 3.17 江奈地区津波避難行動結果（健常者）

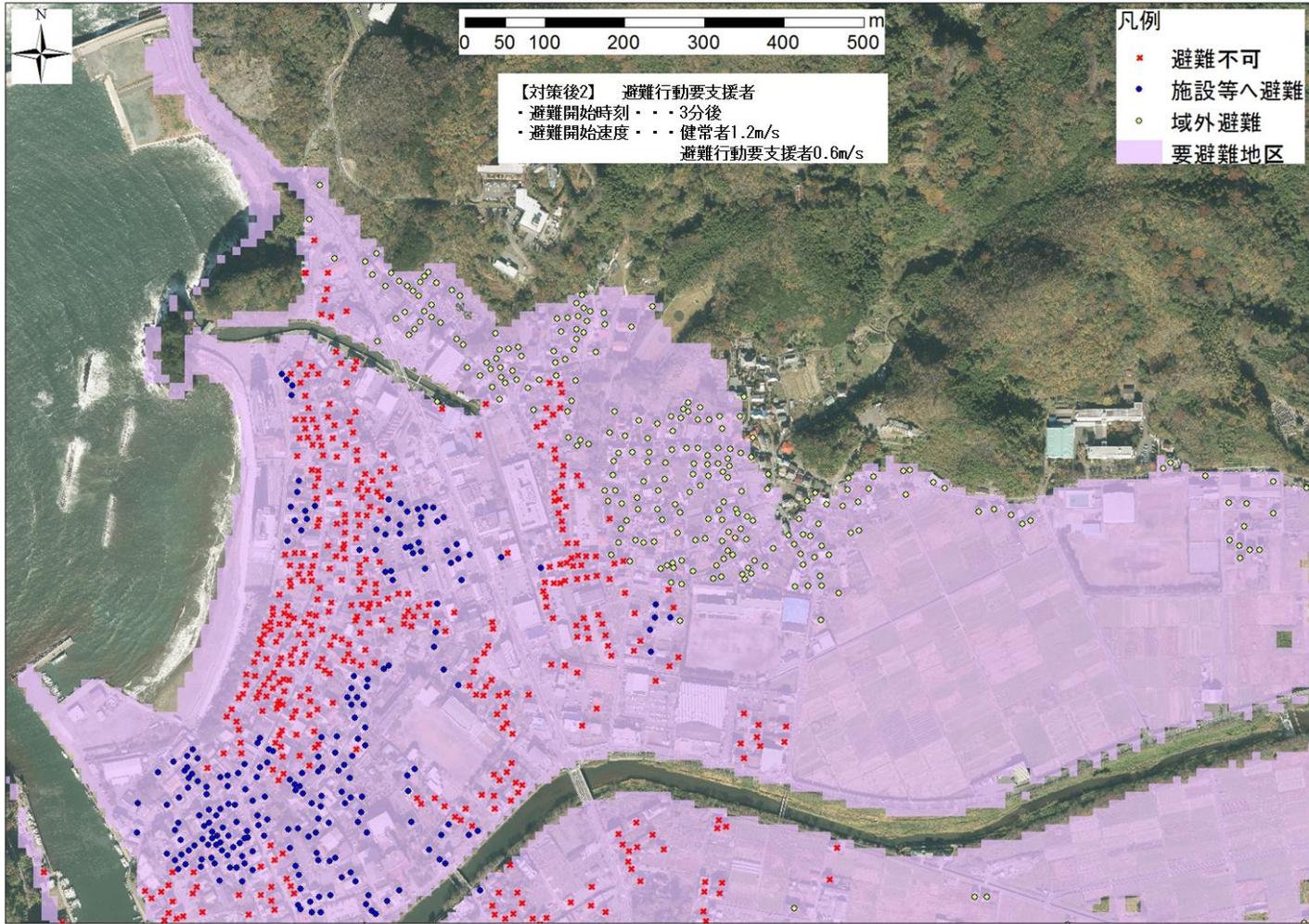


图 3.18 江奈地区津波避難行動結果（避難行動要支援者）

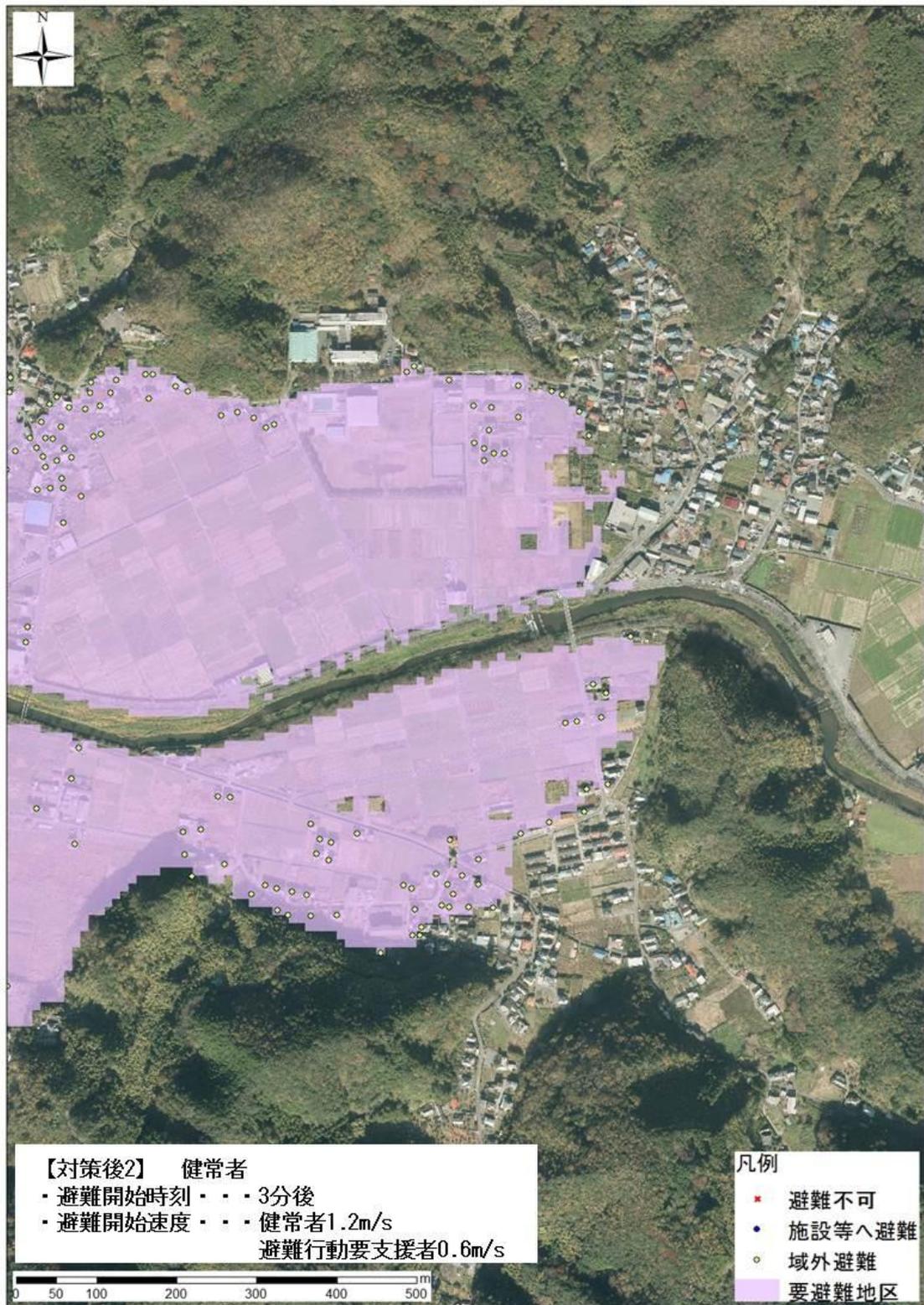


図 3.19 桜田・伏倉地区津波避難行動結果（健常者）

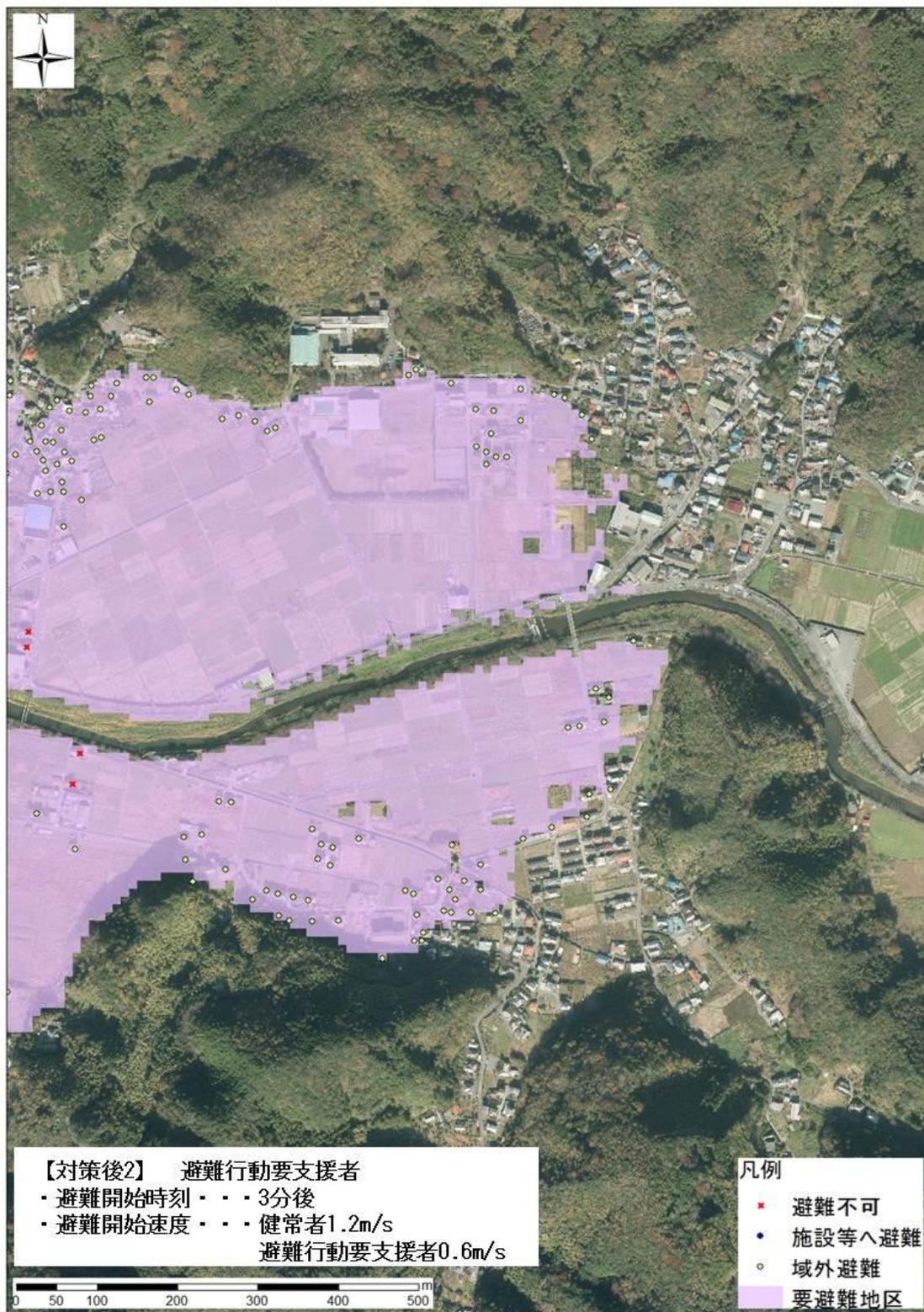


図 3.20 桜田・伏倉地区津波避難行動結果（避難行動要支援者）

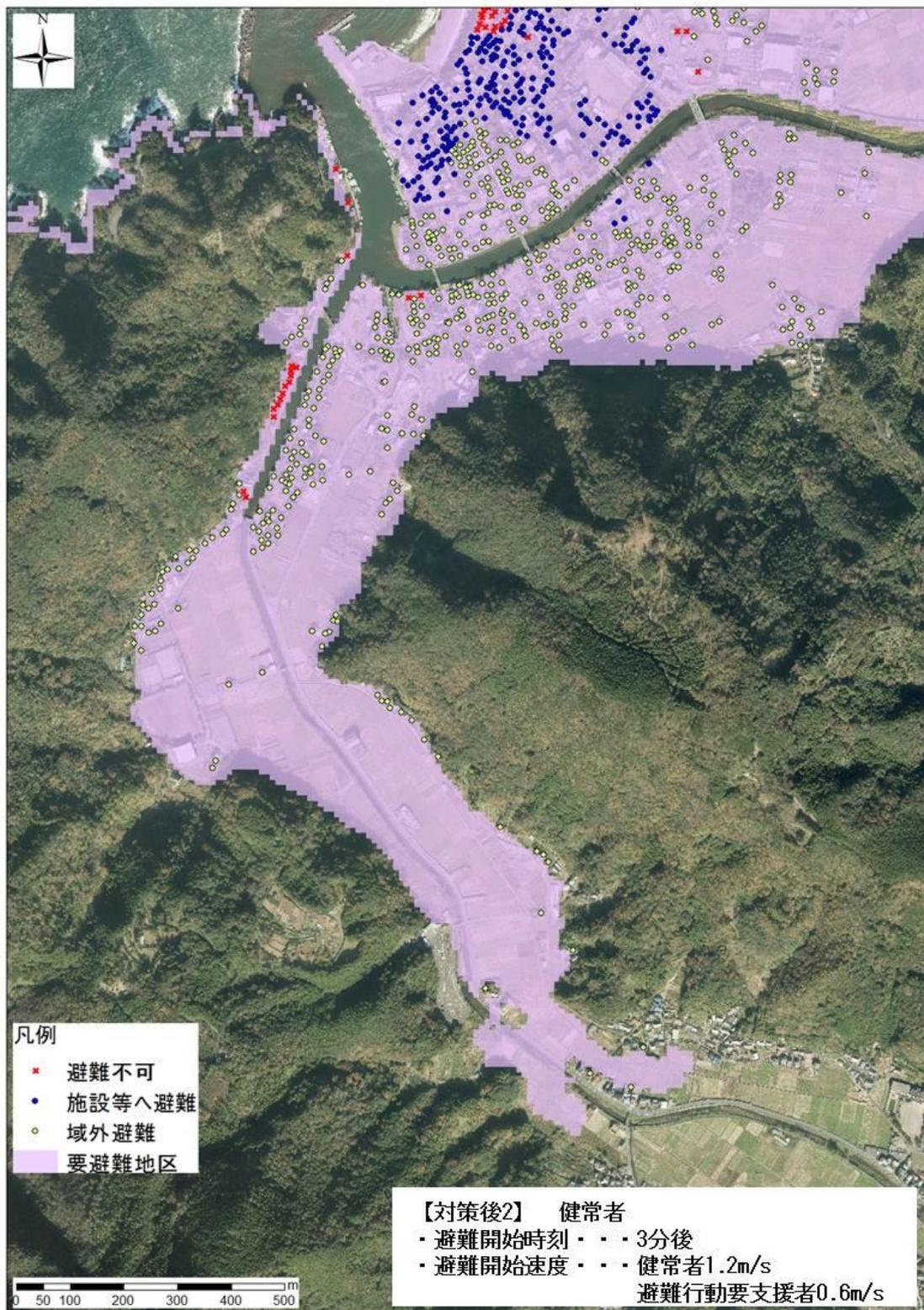


図 3.21 道部・金沢地区津波避難行動結果（健常者）

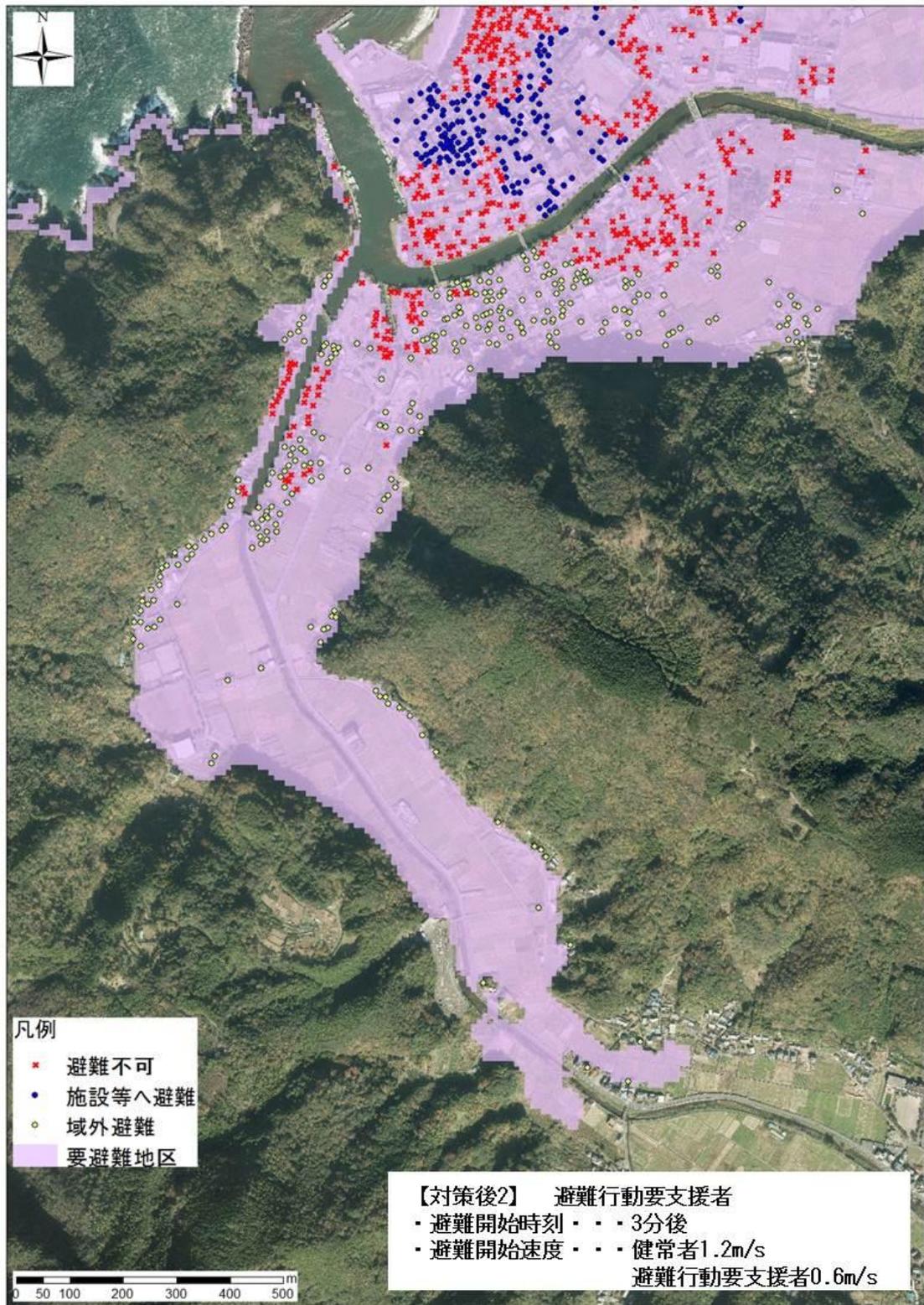


図 3.22 道部・金沢地区津波避難行動結果（避難行動要支援者）



図 3.23 岩地地区津波避難行動結果（健全者）

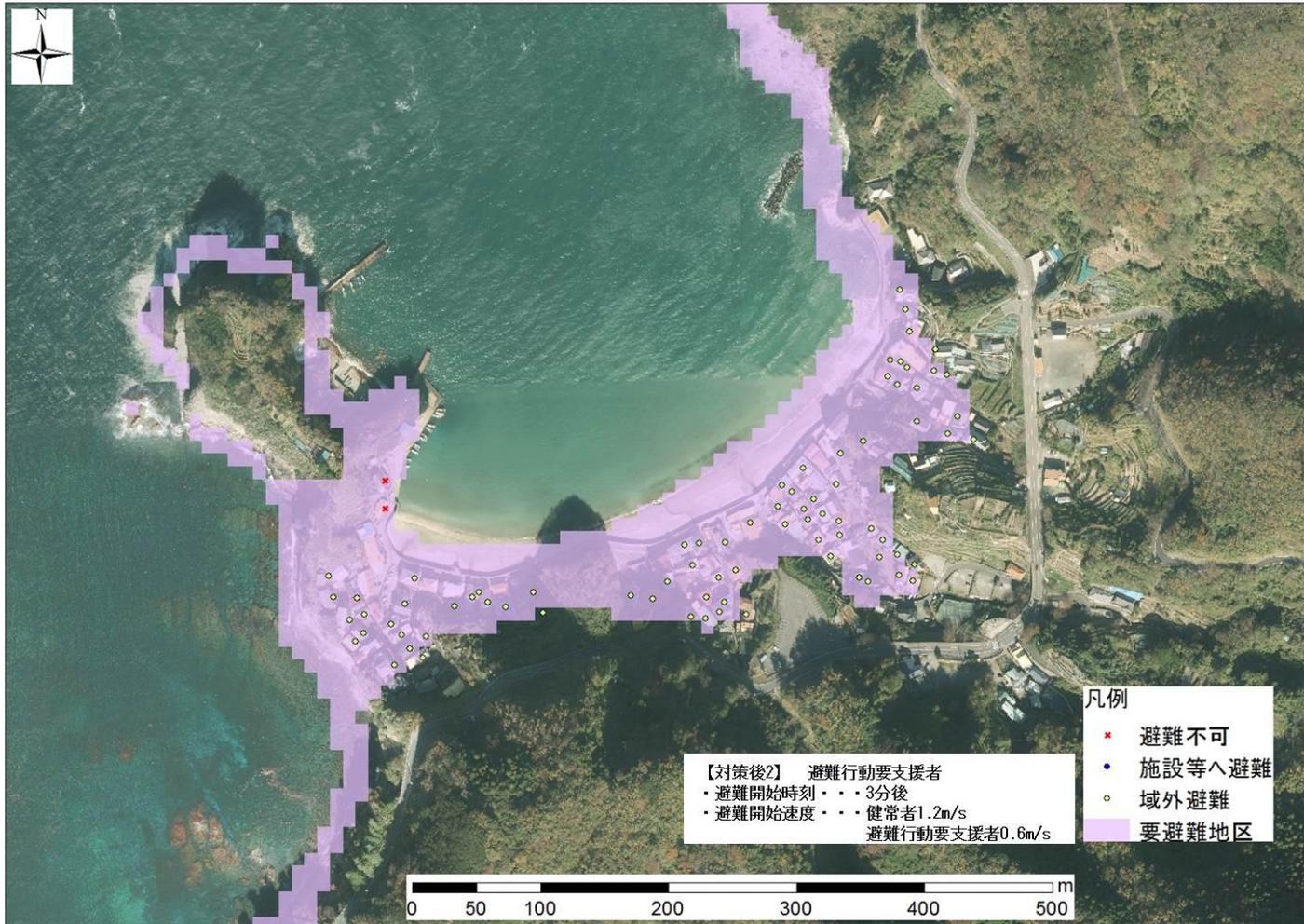


图 3.24 岩地地区津波避難行動結果（避難行動要支援者）

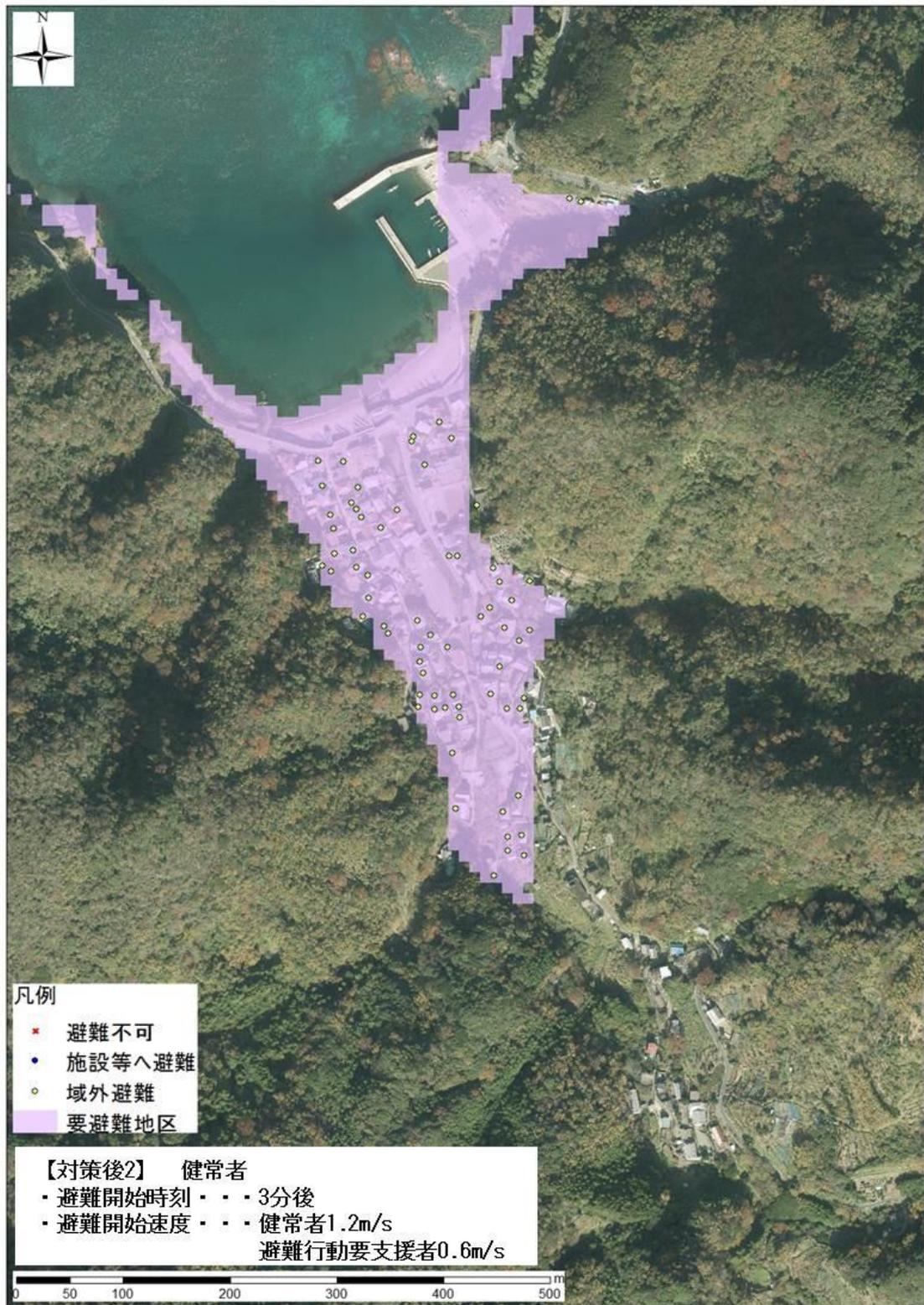


図 3.25 石部地区津波避難行動結果（健全者）

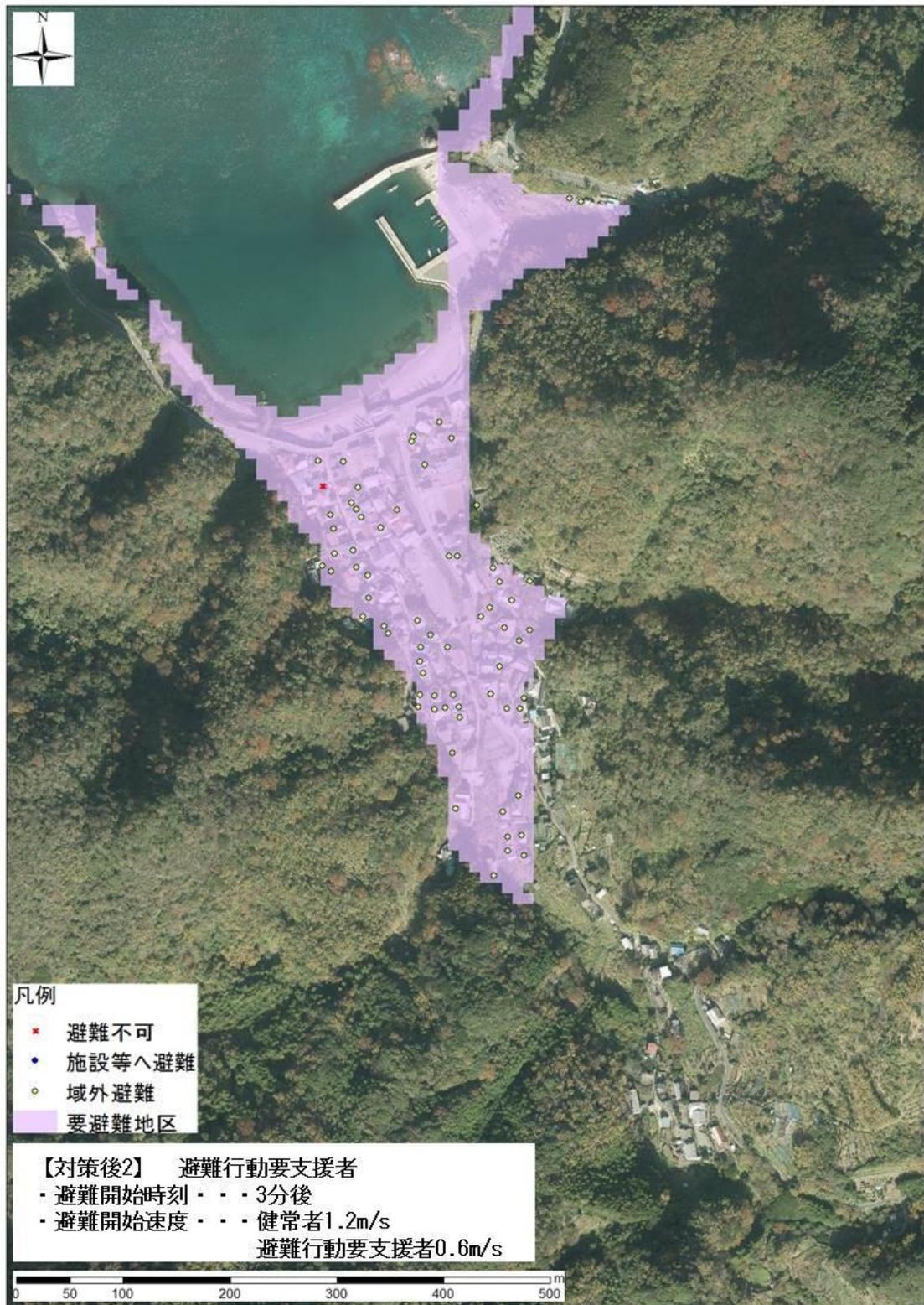


图 3.26 石部地区津波避難行動結果（避難行動要支援者）



図 3.27 雲見地区津波避難行動結果（健常者）



図 3.28 雲見地区津波避難行動結果（避難行動要支援者）

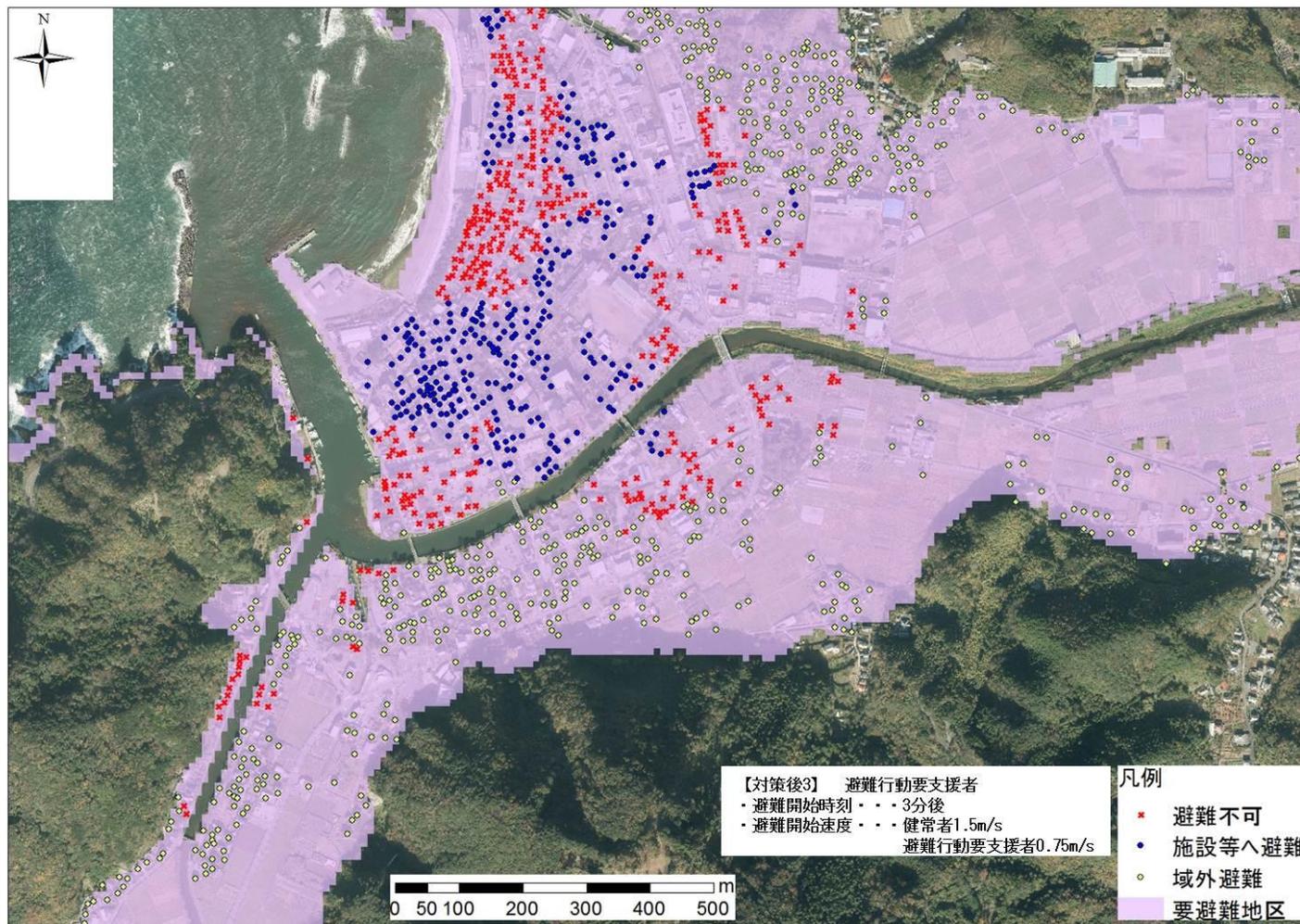


図 3.30 松崎・宮内地区津波避難行動結果（避難行動要支援者）

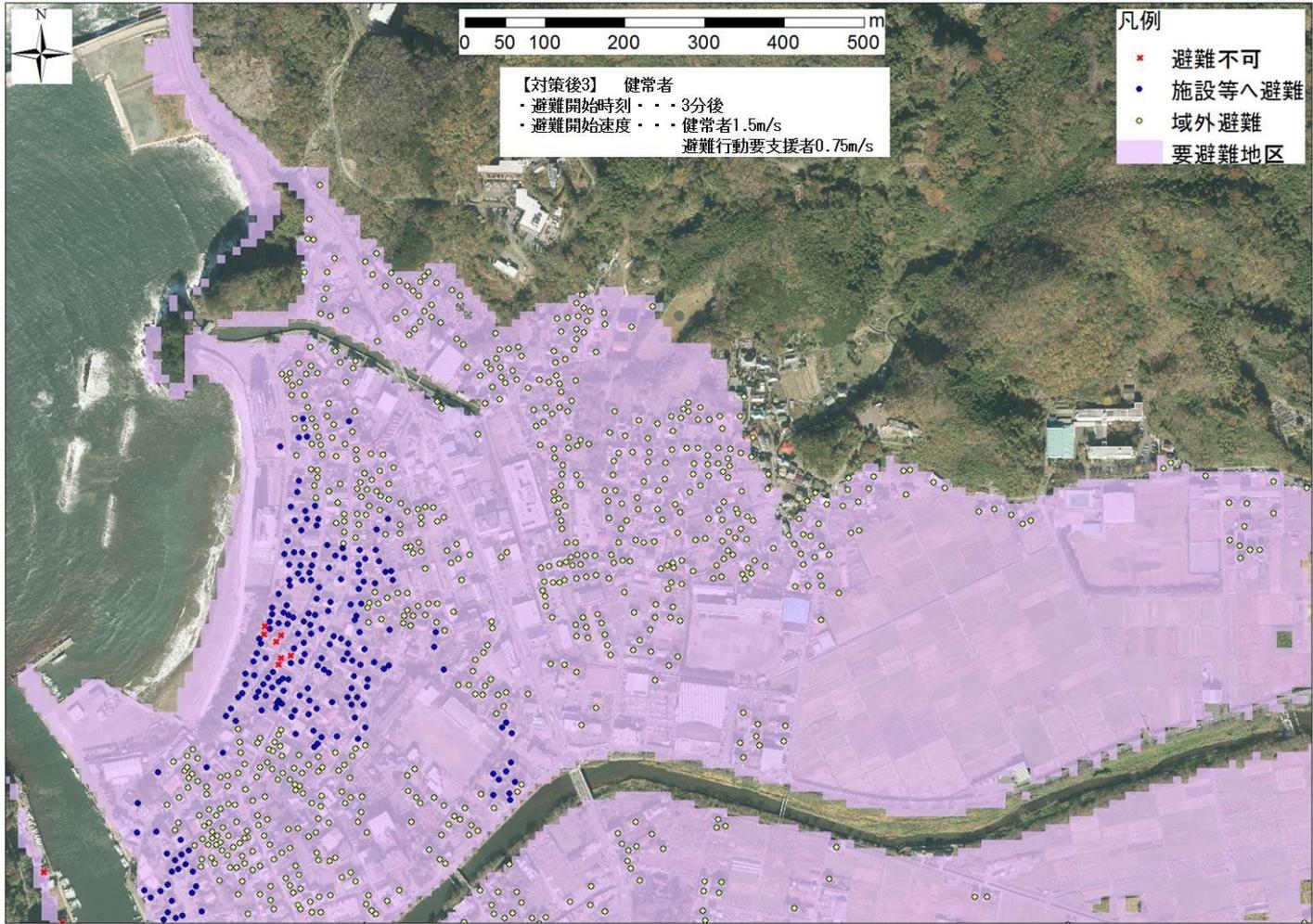


図 3.31 江奈地区津波避難行動結果（健常者）

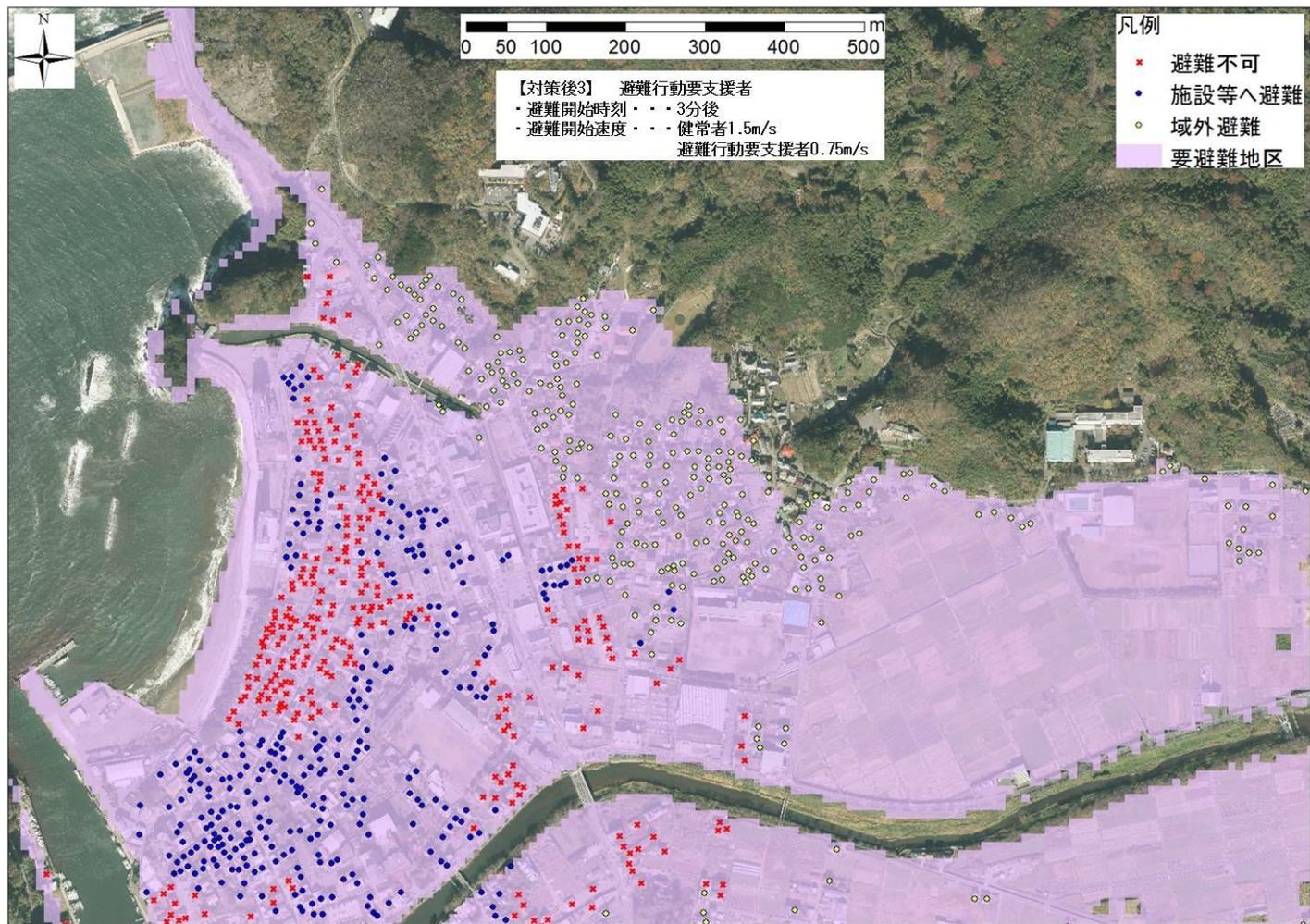


图 3.32 江奈地区津波避難行動結果（避難行動要支援者）

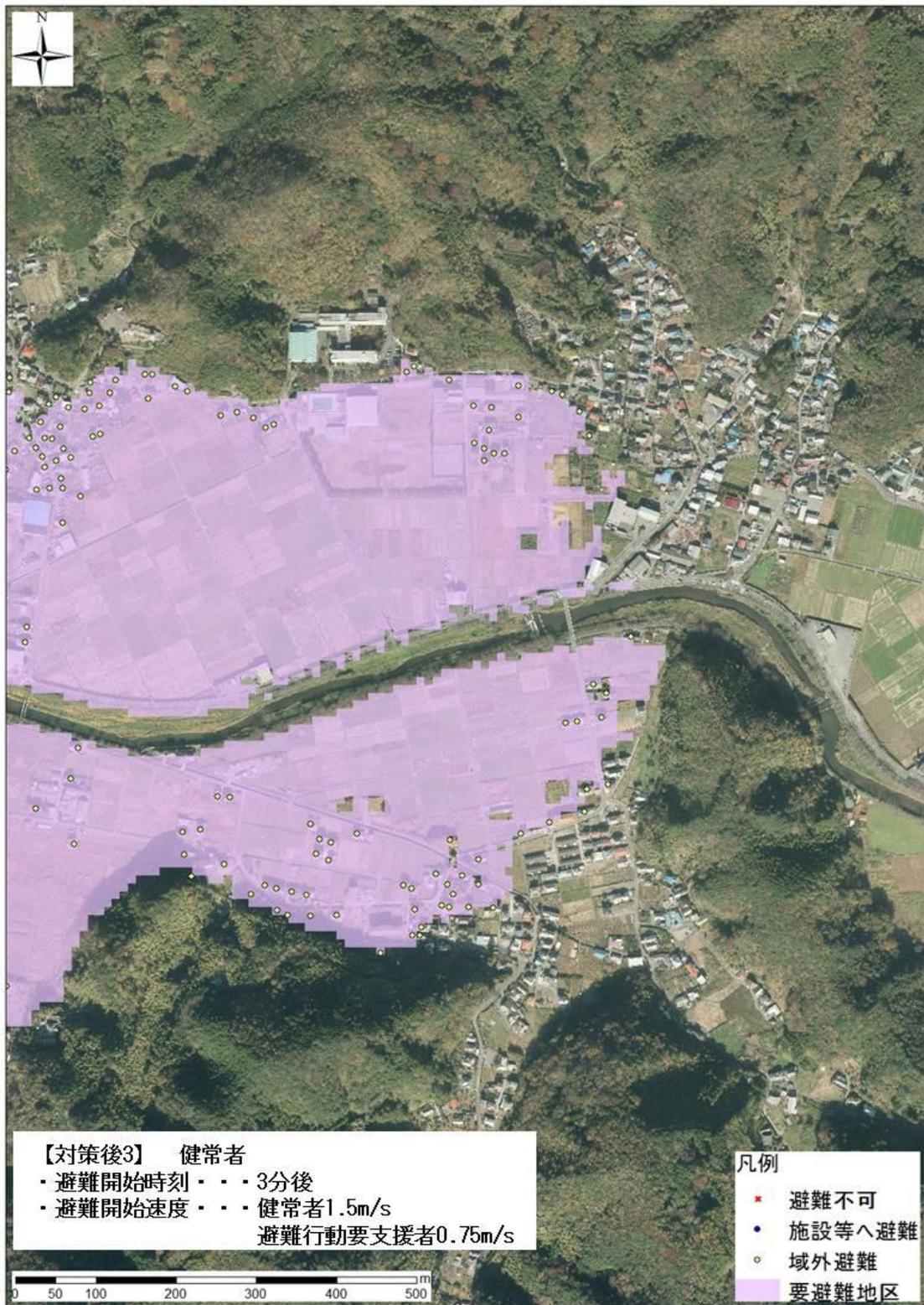


図 3.33 桜田・伏倉地区津波避難行動結果（健全者）

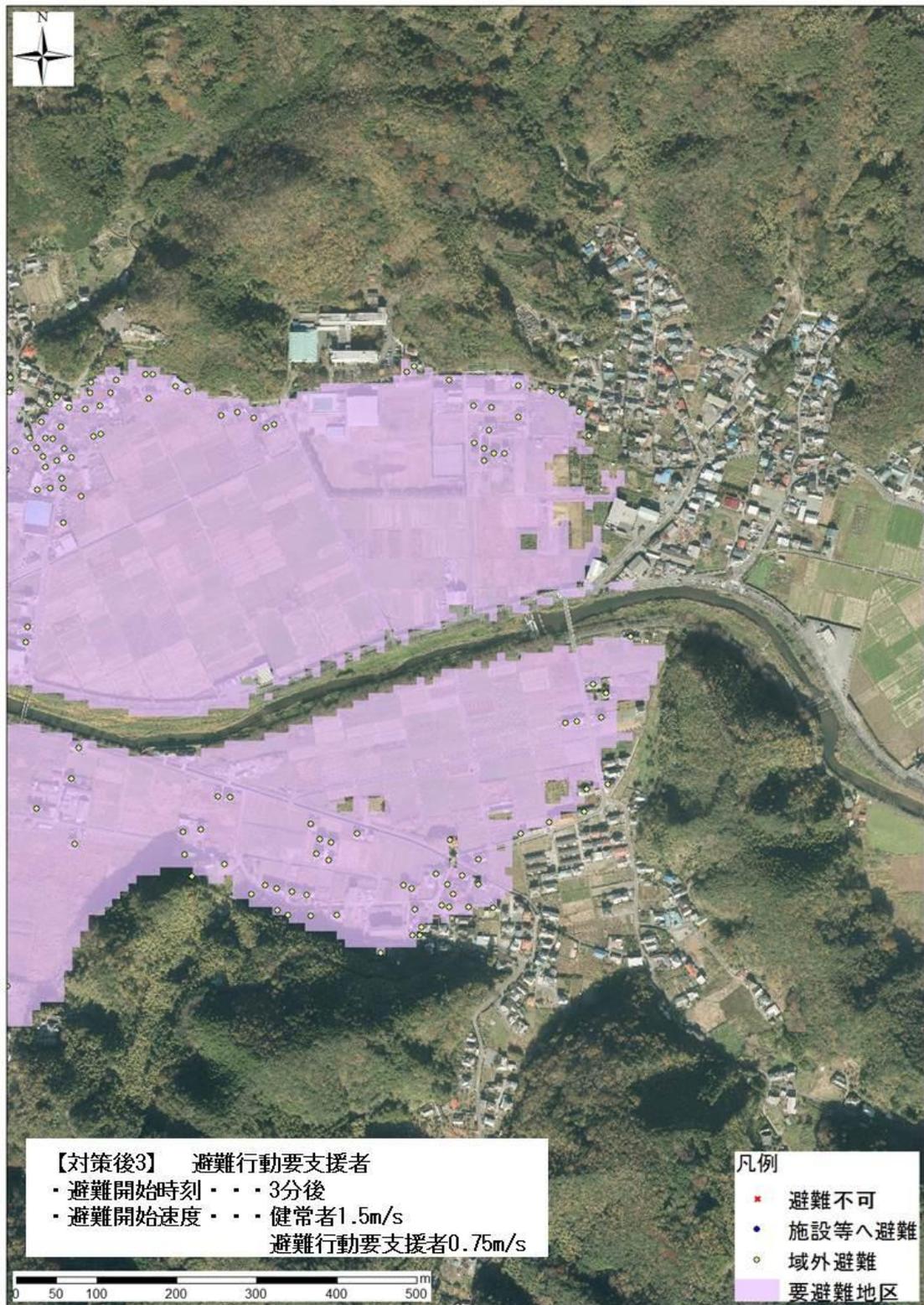


図 3.34 桜田・伏倉地区津波避難行動結果（避難行動要支援者）

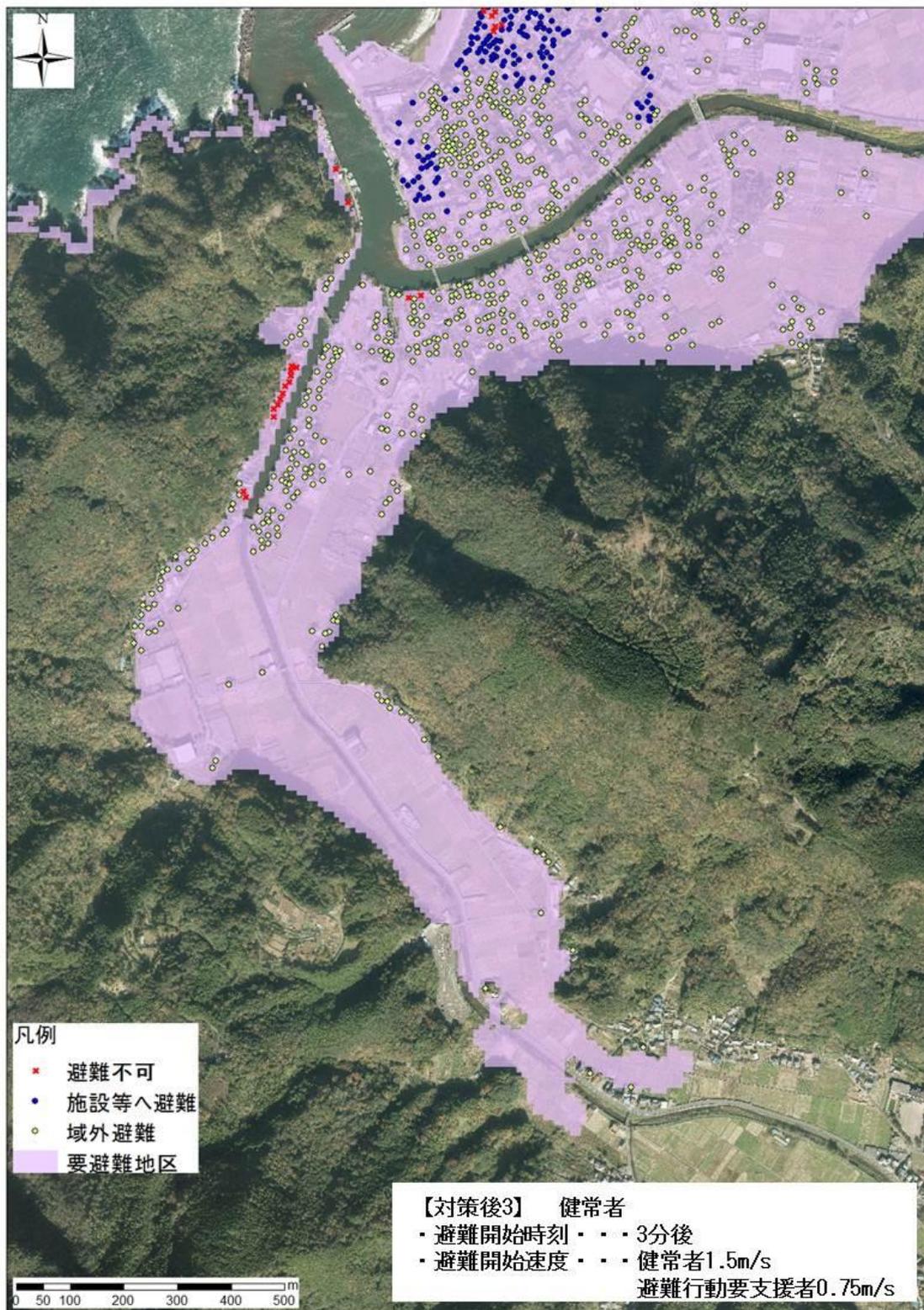


図 3.35 道部・金沢地区津波避難行動結果（健常者）

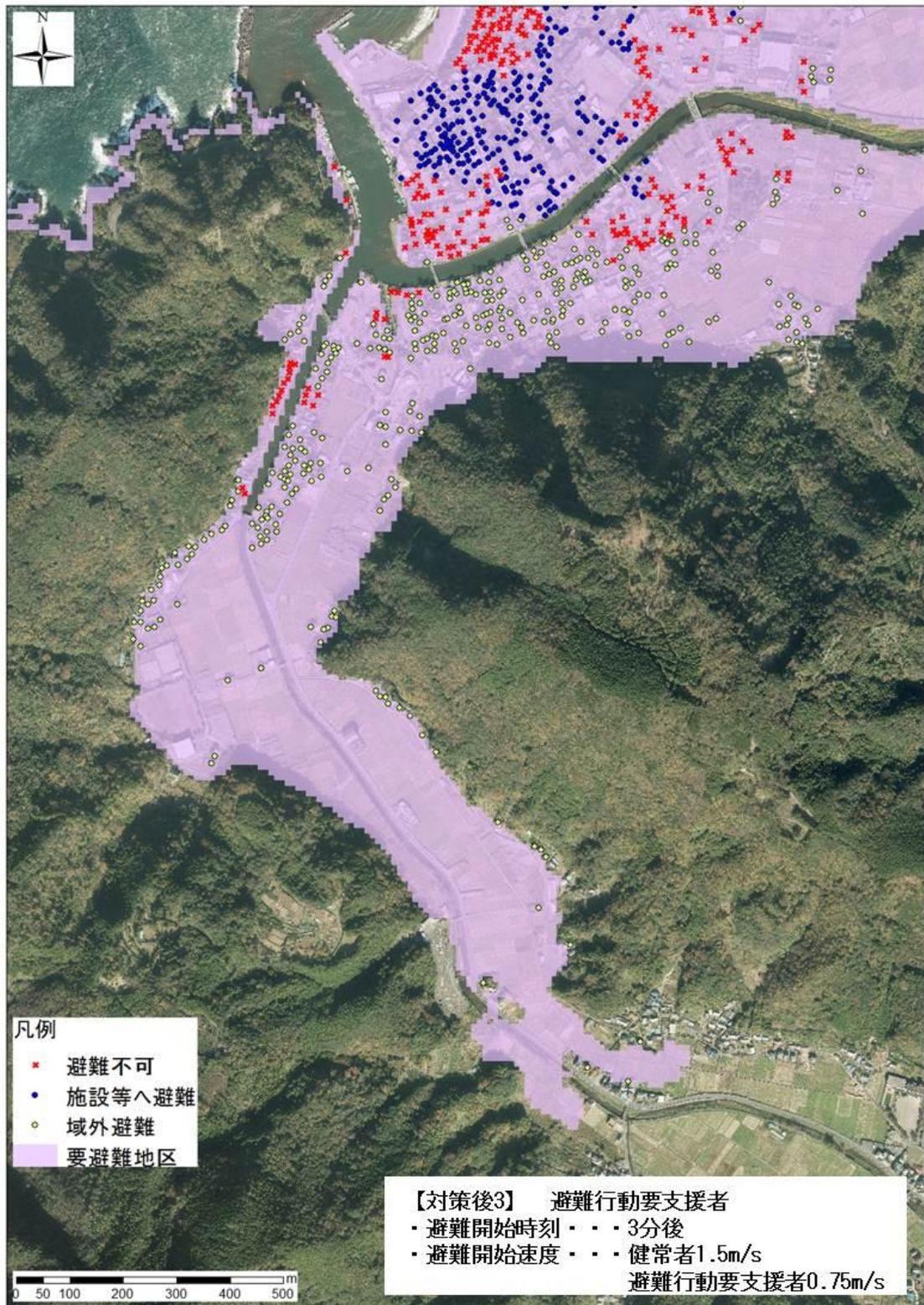


図 3.36 道部・金沢地区津波避難行動結果（避難行動要支援者）

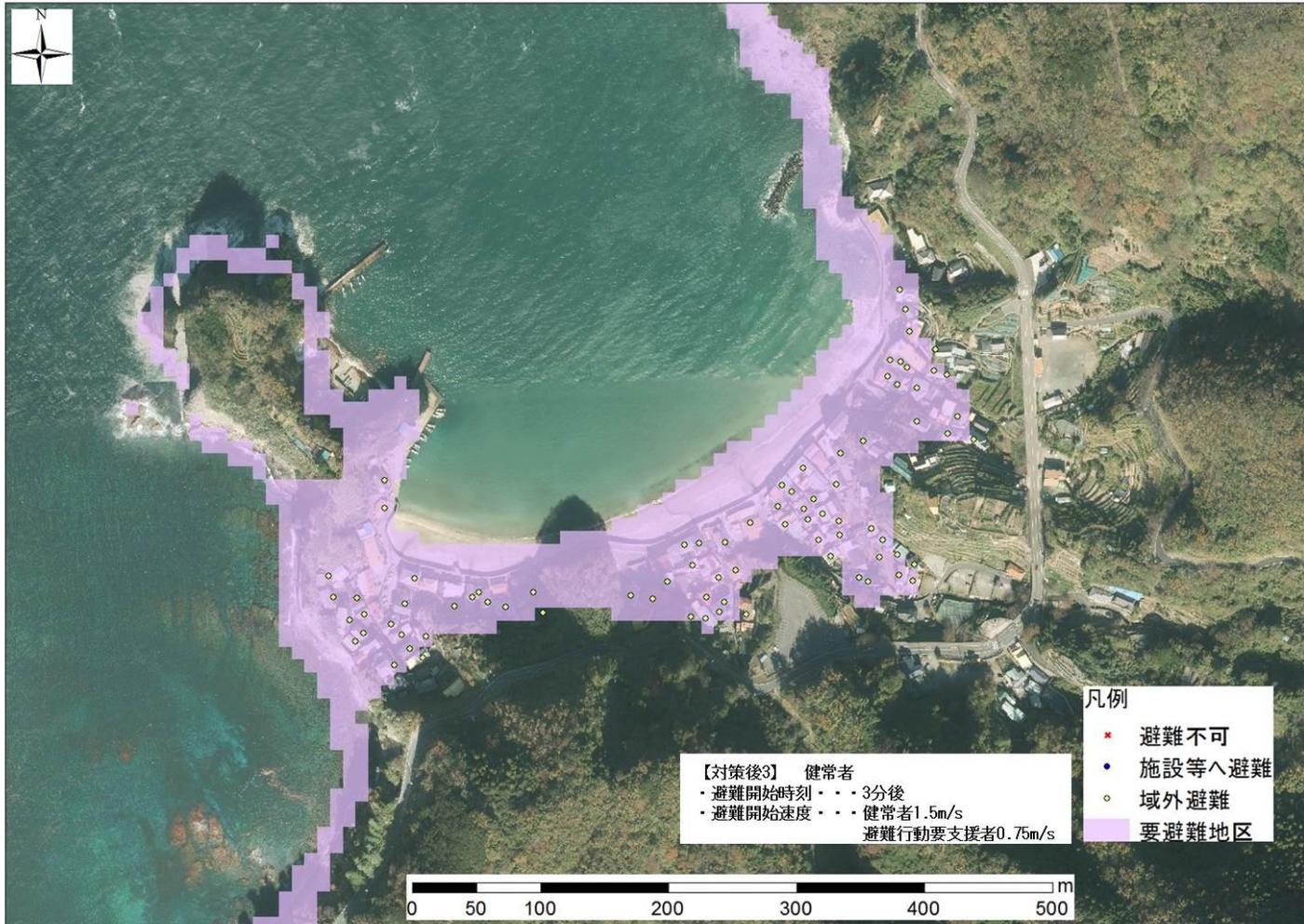


図 3.37 岩地地区津波避難行動結果（健常者）

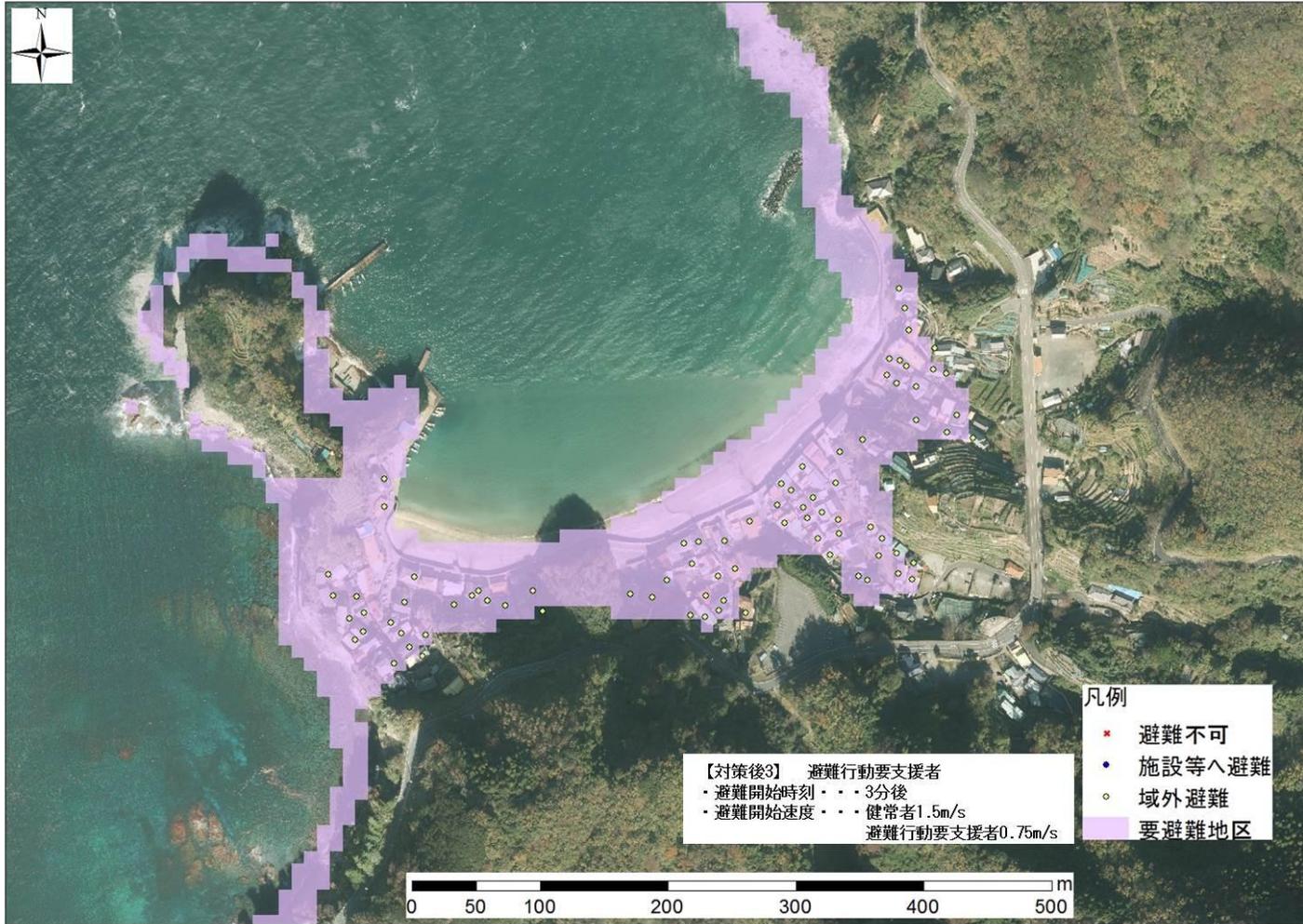


图 3.38 岩地地区津波避難行動結果（避難行動要支援者）

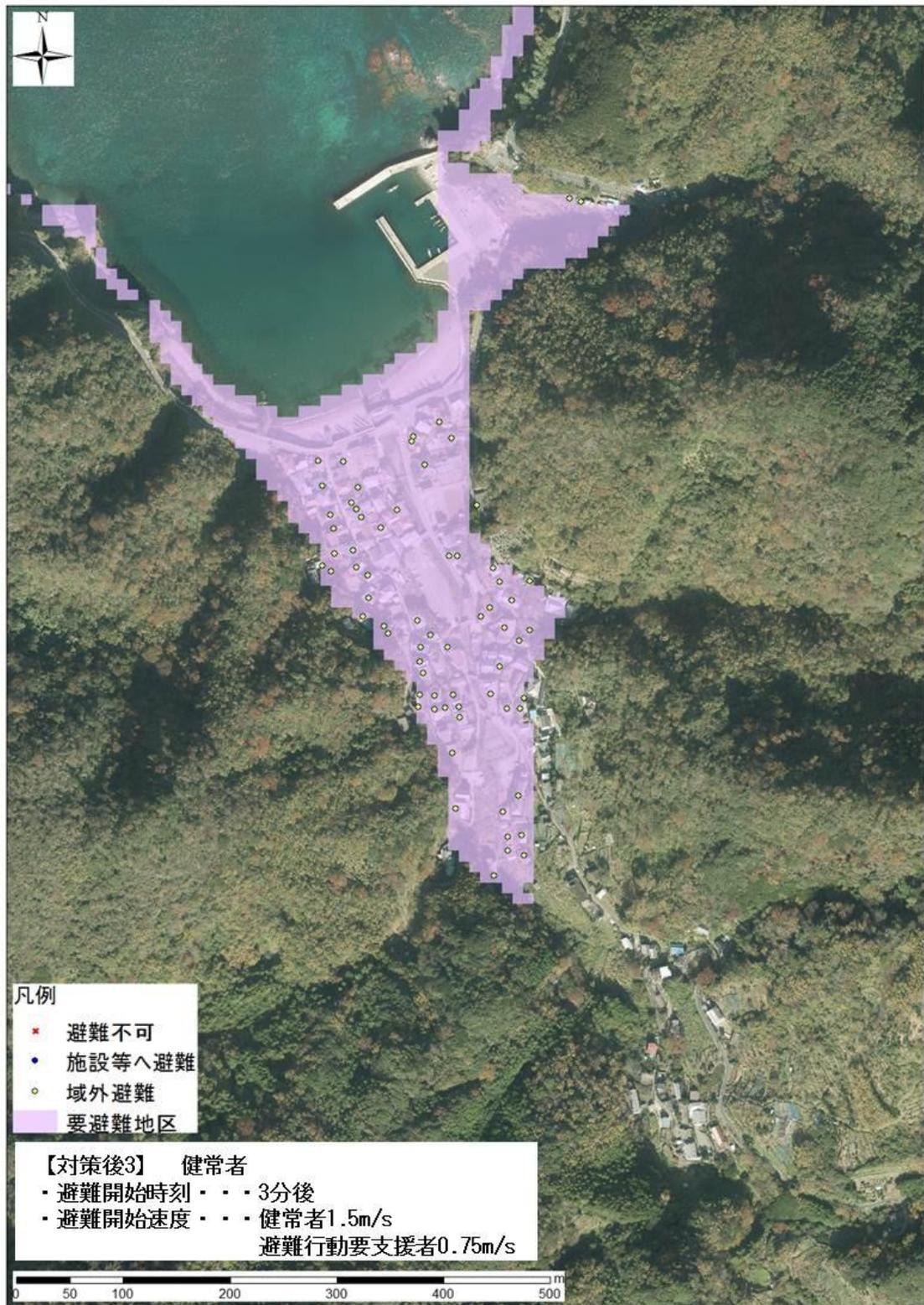


図 3.39 石部地区津波避難行動結果（健全者）

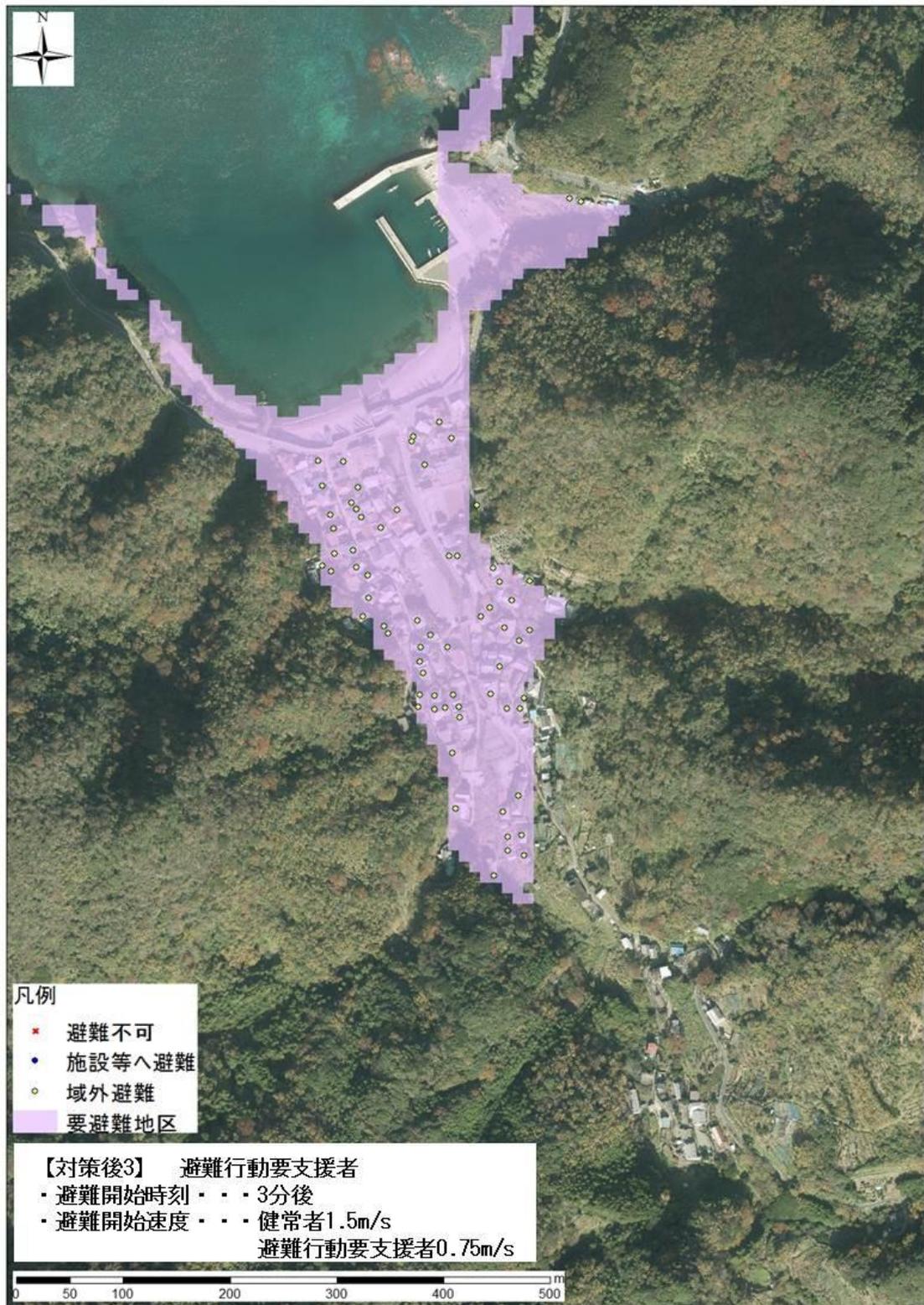


图 3.40 石部地区津波避難行動結果（避難行動要支援者）



図 3.41 雲見地区津波避難行動結果（健常者）



图 3.42 雲見地区津波避難行動結果（避難行動要支援者）

資料編4 津波避難を考えるワークショップ

町が津波避難対策の一環として平成 27 年度に実施したワークショップの日程を、表 4.1 に示す。

表 4.1 津波避難を考えるワークショップの実施日程

日時	場所	名称
10/10 (土)	岩地公民館	第 1 回 岩地の津波避難を考えるワークショップ
10/27 (火)	岩地公民館	第 2 回 岩地の津波避難を考えるワークショップ
10/31 (土)	石部公民館	第 1 回 石部の津波避難を考えるワークショップ
11/7 (土)	責善社(江奈 2 公民館)	第 1 回 江奈の津波避難を考えるワークショップ
11/9 (月)	石部公民館	第 2 回 石部の津波避難を考えるワークショップ
11/14 (土)	伏倉公民館	第 1 回 桜田・伏倉の津波避難を考えるワークショップ
11/17 (火)	責善社(江奈 2 公民館)	第 2 回 江奈の津波避難を考えるワークショップ
11/21 (土)	道部公民館	第 1 回 道部・金沢の津波避難を考えるワークショップ
11/26 (木)	伏倉公民館	第 2 回 桜田・伏倉の津波避難を考えるワークショップ
11/28 (土)	環境改善センター	第 1 回 松崎・宮内の津波避難を考えるワークショップ
12/1 (火)	道部公民館	第 2 回 道部・金沢の津波避難を考えるワークショップ
12/7 (月)	環境改善センター	第 2 回 松崎・宮内の津波避難を考えるワークショップ
12/14 (月)	雲見公民館	第 1 回 雲見の津波避難を考えるワークショップ
12/22 (月)	雲見公民館	第 2 回 雲見の津波避難を考えるワークショップ

図 4.1～図 4.47 にワークショップのまとめ結果を示す。

第1回 岩地の津波避難を考えるワークショップ

日時 平成27年10月10日(土) 9:00~11:30

場所 岩地公民館

●目的

- ①最大級の津波(レベル2)の想定津波に対して命を守るための避難を考える。
- ②防潮堤の整備について、イメージをつかんでもらい、考えてもらうきっかけとする。

●内容

地区内のまち歩き(①郷戸、②谷地・西の田、③子浦浜の3グループに分かれて実施。)まち歩きの出発時に公民館屋上に建てたスタッフを見てもらい、L1対応の防潮堤(海拔14m)をイメージしてもらう。

●石積、ブロック塀の倒壊により、避難路が塞がれる危険がある。



●避難誘導や海拔表示の看板が必要。



●海岸に車の通れる道が1本しかない。車の通れる道をもう1本整備し、複数化したい。



●集落に下りる時の津波避難路を周知する看板が必要。



●夜間避難のために、停電時に点灯する照明が必要。



●災害時に現在の公民館は機能しないので、高台に新たな施設を整備。



図 4.1 第1回 岩地の津波避難を考えるワークショップ

第2回 岩地の津波避難を考えるワークショップ概要報告書

1 日時

平成27年10月27日（火）19:00～20:35

2 場所

岩地公民館

3 参加者

岩地区住民9名（欠席4名、辞退1名）

松崎町役場：総務課1名（八木）

産業建設課2名（高橋補佐、齋藤将）

ふじのくに防災士（玉木）

委託業者（パスコ）2名

※齋藤春男氏（漁協総代）：耳が悪く、グループ内の話し合いの音が聞こえない。ピントの外れたことを言っても困るので、今回からメンバーから外してほしい。

4 目的

- ①津波避難地図について、地域の実情に応じたより良いものとするため、地図への意見、情報を収集する。
- ②津波避難について住民の意見を広く集めるとともに、改めて考えてもらい、必要性を再認識してもらう。

5 内容

- ・津波避難地図に関する説明（津波避難シミュレーション含む）
- ・グループ作業（津波避難地図の作成、津波対策の意見とりまとめ）

6 主な意見

（作業中）

- ・地図に浸水深が重なっていると家が分かりにくく、どの道路か分からない。
- ・道路が地震により石垣で崩れるかどうかの判断が難しい。道路が通れないと避難距離が長くなり悪い結果になってしまい判断に迷う（郷戸班）。
- ・地図に、海岸道路の避難路入口横の屋号を示した方が分かりやすい（しらはま、ますや等）。

図 4.2 第2回 岩地の津波避難を考えるワークショップ（1/7）

7 グループ発表

【郷戸班】発表者：齋藤秀丸

- ・崩れそうな石積やブロックはたくさんあるが、伊豆沖地震でも一部しか崩れなかったのので、通行できるという想定とした。
- ⇒伊豆沖地震よりワンランク上の地震となるので、崩れる可能性は高い（区長）。
- ・今は使われていない大清水裏の遊歩道は避難路として利用できるのではないかな。
 - ・おおげた裏は浸水区域外であるので、一時的な津波避難場所として利用できる。
 - ・子浦浜については、今は荒れてしまっているが、磯崎から日和山に行く道や、日和山から子浦浜バス亭近くまで行く昔の赤線があるので、そこを整備して日和山に避難する方が助かる可能性が高い。
 - ・家の屋根に瓦なら赤、トタンなら緑と崩れそうな屋根が分かるように色付けしたらどうか。

【子浦浜】発表者：区長（齋藤貞一）

- ・子浦浜はメインの避難路が狭く、家も密集しているので通行不能となる可能性が高い。
- ・観光客は、看板表示もそうになっているが、海岸道路を通過して急傾斜の擁壁横のしっかりした道を通るようになっている。
- ・子浦浜については、昔の赤道を整備し、日和山に避難する方が助かる可能性が高い。
- ・前回車の通れる道路整備の案がでたが、崩れる可能性があるのは国道からの入口であるので、皆徳丸倉庫から向山コミュニティ広場に抜けるルートが良いのではないかなと思う。そうなれば、海水浴客のカートによる移動も階段がなくなり良くなる。
- ・津波の到達地点が分かるような表示がほしい。その高さ以上であれば安全だという目安になる。
- ・海岸にいる観光客のため地図に陸間の位置を示してほしい。また、陸間付近に避難看板もほしい。

【谷地・西の田】発表者：長嶋精一

- ・三浦温泉の箇所が崩れそう。
- ・道路でなくても畑を通過して抜けられるところもたくさんある。
- ・地区ごとの集合場所4箇所を設定したらどうか。
- ・地図に崩れて通れなくなりそうな危険箇所を表示した方が良い。
- ・ソフト対策として、要援護者の情報共有をする。

図 4.3 第2回 岩地の津波避難を考えるワークショップ (2/7)

8 考察・感想

- 地図作成に時間がかかり、津波対策の意見とりまとめまでできなかった。今後の他地区でのスケジュール見直しが必要。
- 通れなくなる場所を表示するよりも、子浦浜の赤線整備の発想など、新たな避難路を考えてもらう方が、前向きな意見交換ができて良いと感じた。
- 過去に自分が経験した地震（伊豆沖）と比較し、被害がどうなるかと想像している。伊豆沖や東日本大震災の被害状況を情報提供した方が身近に考えてもらえる。

図 4.4 第2回 岩地の津波避難を考えるワークショップ (3/7)

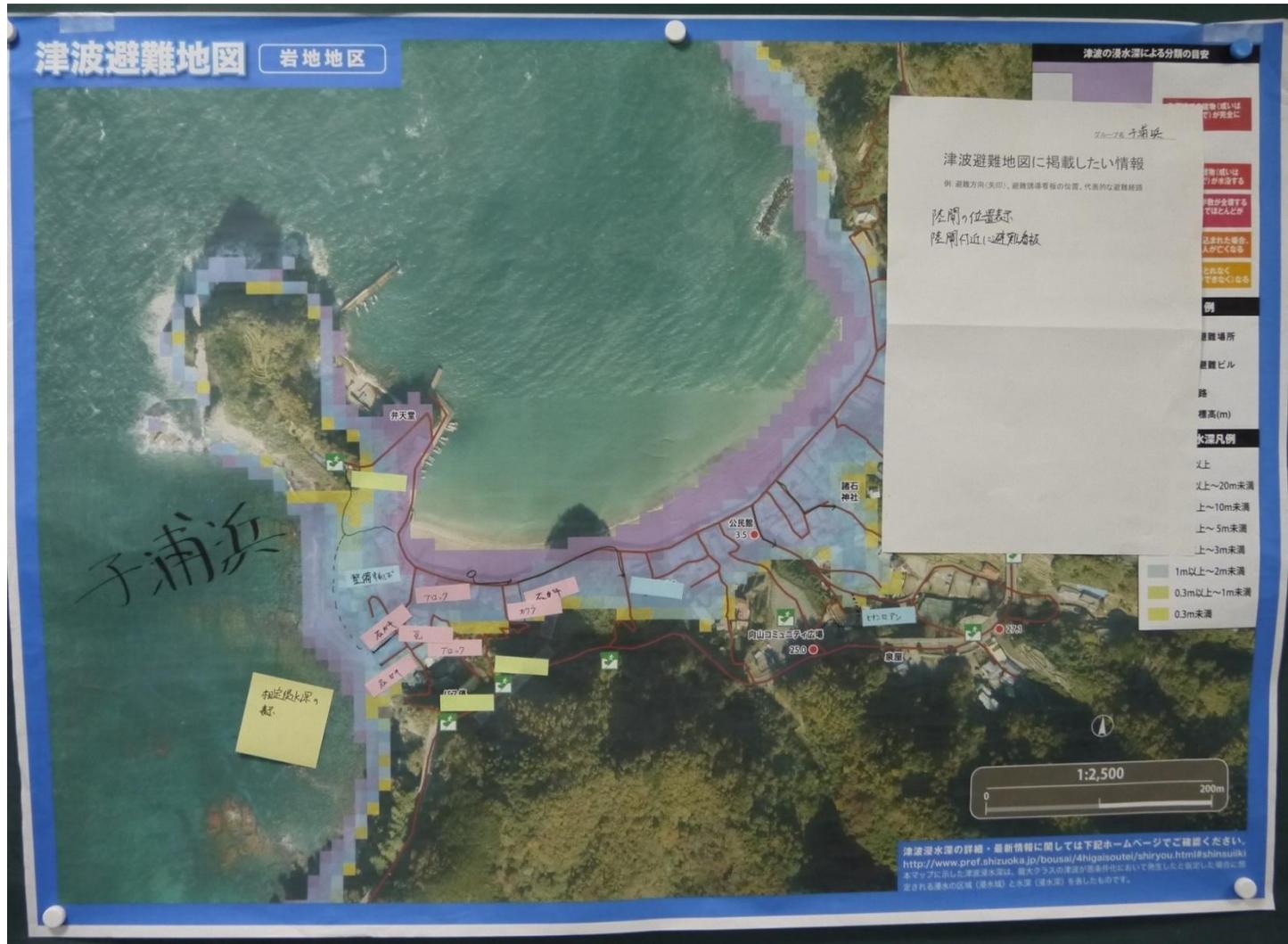


図 4.5 第 2 回 岩地の津波避難を考えるワークショップ (4/7)



図 4.6 第 2 回 岩地の津波避難を考えるワークショップ (5/7)



図 4.7 第2回 岩地の津波避難を考えるワークショップ (6/7)



図 4.8 第 2 回 岩地の津波避難を考えるワークショップ (7/7)

第1回 石部の津波避難を考えるワークショップ

日時 平成27年10月31日(土) 9:00~11:40

場所 石部公民館

●目的

- ①最大級の津波(レベル2)の想定津波に対して命を守るための避難を考える。
- ②防潮堤の整備について、イメージをつかんでもらい、考えてもらうきっかけとする。

●内容

地区内のまち歩き(①横丁・浜・下坂下、②下向・門前、③向・上坂下の3グループに分かれて実施。)まち歩きの出発時に水門付近堤防に建てたスタッフを見てもらい、L1対応の防潮堤(海拔12.5m)をイメージしてもらおう。

●堤防高12.5mはびっくりする位とても高い。



●町の津波被害想定をパワーポイントにて説明



●避難した際に、地区内の避難場所とおしの通信手段が必要。



●避難路となる遊歩道の整備(手すり・照明)。



●避難場所となっている白板に津波到達予想の6分間で避難できるか心配。



●急傾斜の裏(伝蔵)が避難路であるが、道の整備が必要。



図 4.9 第1回 石部の津波避難を考えるワークショップ

第1回 江奈の津波避難を考えるワークショップ

日時 平成27年11月7日(土) 9:00~11:30

場所 江奈責善社

●目的

- ①最大級の津波(レベル2)の想定津波に対して命を守るための避難を考える。
- ②防潮堤の整備について、イメージをつかんでもらい、考えてもらうきっかけとする。

●内容

地区内のまち歩き(①江奈1、②江奈2、③江奈3、④江奈4の4グループに分かれて実施。)まち歩きの出発時に伊豆まつざき荘付近防潮堤に建てたスタッフを見てもらい、L1対応の防潮堤(海拔11.0m)をイメージしてもらう(江奈3、4地区)

●老朽化したブロック塀による道路閉塞を心配する人が多く、一歩進んだ対策が必要。



●海拔11.0mの必要堤防高をイメージしてもらう。



●観光客に分かりやすい、国道付近から避難看板が欲しい。



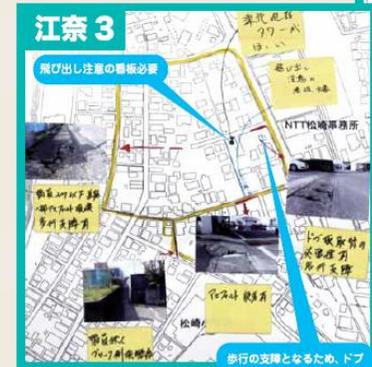
●江奈3区には避難場所がないので、避難タワーが欲しい。



●中学への出入口は、段差解消や手すり設置をお願いしたい。



●地区外の浸水しない場所に、江奈3、4区の防災倉庫がほしい。



ポイント

L1対応の防潮堤整備については、海岸に近い地区(江奈3、4)の方は、圧迫感を心配しながらも命も守るために整備してほしいという考えを持つ方の意見が多く聞かれました。

図 4.10 第1回 江奈の津波避難を考えるワークショップ

第2回 石部の津波避難を考えるワークショップ概要報告書

1 日時

平成27年11月9日（月）19:00～20:30

2 場所

石部公民館

3 参加者

石部区住民16名（メンバー参加10名、欠席2名、一般参加：6名）

松崎町役場：総務課2名（八木・山田）

産業建設課1名（松本真樹）

ふじのくに防災士（玉木）

委託業者（パスコ）2名

4 目的

- ①津波避難地図について、地域の実情に応じたより良いものとするため、地図への意見、情報を収集する。
- ②津波避難について住民の意見を広く集めるとともに、改めて考えてもらい、必要性を再認識してもらう。

5 内容

- ・津波避難地図に関する説明（津波避難シミュレーション含む）
- ・グループ作業（津波避難地図の作成、津波対策の意見とりまとめ）

6 主な意見

（作業中）

- ・避難路が塞がれ逃げることができないので、避難タワーがほしい。高さは25m位、高齢者用に階段だけでなくスロープがほしい。
- ・ひなつけは津波避難場所としたが、整備で木を伐採した時に国立公園内ということで役場から注意があったので、それ以降は整備をしていない。

7 グループ発表

【横丁・浜・下坂下】発表者：高橋民吉（区長）

- ・この地区はブロック塀が多く、道路が倒壊により通れなくなる可能性が高く、避難できない。
- ・雲見方面の国道を拡幅している場所（ひらっとこ上）に避難したらどうか。
- ・大屋の駐車場に津波避難タワーがほしい。

図 4.11 第2回 石部の津波避難を考えるワークショップ (1/5)

【下向・門前】発表者：山本則之(防災委員)

- ・ 禅宗院は浸水域になっているので、その上の鈴木さんの家を避難場所としたらどうか。海拔表示もほしい。
- ・ 川を渡って、急傾斜の裏の道を通り、伝蔵の別荘を避難場所とした方が良い。ただし、伝蔵は山崩れが心配。
- ・ 岩地方面の遊歩道は、崩れる心配は少ないが、手すりがロープであるのできちんとしたものを整備する必要がある。

【向・上坂下】発表者：渡辺重夫(区会計)

- ・ メインの避難場所が権七体育館横で、そこに行くまでの避難路も比較的広いので他の地区よりは安心である。
- ・ 避難路上のブロックが多く危険な箇所が多い。
- ・ 上坂下は、今日は組の人がいなかったのではっきり分からないが、川を渡って権七体育館に行くよりも、まるふじ付近を避難場所とした方が、避難時間を短縮できて良いと思う。
- ・ 木の橋の近くに1人で避難できない方が4軒（5名）いる。

8 考察・感想

- ・ 地図作成に時間がかかり、津波対策の意見とりまとめまでできなかった。今後の他地区でのスケジュール見直しが必要。
- ・ 石部地区は津波避難場所も決まっていないため、避難誘導看板が設置できない状況で、三浦の他地区に比べ防災対策が進んでいない。この津波避難のワークショップで終わりではなく、地区内での話し合いが必要（ワークショップの最後に八木から説明済）。

図 4.12 第2回 石部の津波避難を考えるワークショップ (2/5)



図 4.13 第 2 回 石部の津波避難を考えるワークショップ (3/5)



図 4.14 第 2 回 石部の津波避難を考えるワークショップ (4/5)



図 4.15 第 2 回 石部の津波避難を考えるワークショップ (5/5)

第1回 桜田・伏倉の津波避難を考えるワークショップ

日時 平成 27 年 11 月 14 日 (土) 9:00~11:30

場所 伏倉公民館

●目的

- ①最大級の津波（レベル2）の想定津波に対して命を守るための避難を考える。
- ②防潮堤の整備について、イメージをつかんでもらい、考えてもらうきっかけとする。

●内容

地区内のまち歩き（①桜田、②伏倉の2グループに分かれて実施）
津波被害想定の説明の中で、パワーポイントにて地区協議会における検討状況を説明。資料も壁に掲示。



●意見の多かったブロック塀の改善補助や避難地・避難路整備に対する補助制度を説明。



●避難場所入口の誘導看板と避難場所の外灯がほしい。



●パワーポイントを使用してわかりやすく検討状況を説明。



●強い揺れによる家屋の倒壊が心配であるので、耐震補強を住民に周知していきたい。



●神島邸裏については、入口の誘導看板がなく避難場所が分かりにくい。



●ここまで津波が到達するといったような浸水想定区域がわかるような表示がほしい。

伏倉

小坂山は土石流発生の可能性が高い地形



浸水想定区域がわかるように標示する。

桜田



ポイント

地域の拠点となる公民館の耐震を心配する声がありました。現状のコミュニティ助成だけでなく、公民館の耐震補強診断や耐震工事に對する補助制度の検討が必要との意見も聞かれました。

図 4.16 第1回 桜田・伏倉の津波避難を考えるワークショップ

第2回 江奈の津波避難を考えるワークショップ概要報告書

1 日時

平成27年11月17日（火）19:00～20:35

2 場所

江奈責善社

3 参加者

江奈区住民12名（欠席8名）

松崎町役場：総務課2名（八木・山田）

産業建設課2名（松本真・松本真樹）

委託業者（パスコ）2名

視察：下田土木事務所企画検査課1名（杉本）

4 目的

- ①津波避難地図について、地域の実情に応じたより良いものとするため、地図への意見、情報を収集する。
- ②津波避難について住民の意見を広く集めるとともに、改めて考えてもらい、必要性を再認識してもらう。

5 内容

- ・津波避難地図に関する説明（津波避難シミュレーション含む）
- ・グループ作業（津波避難地図の作成、津波対策の意見とりまとめ）

6 グループ発表

【江奈1区】発表者：土田明美（区長）

- ・江奈1は他の地区に比べ、避難場所があり安全なところとなっている。江奈沢奥、松崎中学校、松崎高校の3箇所の避難場所は安全と思われるが、聖和保育園については、土砂崩れが心配される。
- ・避難対策として、避難路沿いに蓄電池式の誘導灯の設置、中学校に外階段を設置してほしい。
- ・高齢者等の避難行動要支援者については、その方だけではなく、子ども達も含めて防災教育をして、避難の対応を考えてもらう必要がある。また、近所との連携や声を掛け合い避難することも大切。
- ・水門を作ることでの弊害もある。災害が大型化している中で、洪水時に水門で水が流れなくなり、浸水することも考えられる。

図 4.17 第2回 江奈の津波避難を考えるワークショップ (1/6)

【江奈2区】発表者:長島眞(区長)

- ・避難場所としているし尿処理場、しんわ遊歩道については、がけ崩れやブロックの倒壊により通行不能となる可能性が高い。安全な避難場所としては、官舎裏避難地、中学校、江奈沢奥となるが、行くまでの避難路のブロック塀や瓦が心配な箇所も多い。
- ・ちゃんとした道路だけではなく、畑や家の庭なども通って避難することも考えておく必要がある。
- ・防潮堤、水門整備については、11mで整備し、観光等に活用した方が良い人もいるし、整備しないで避難タワー等の避難場所を整備した方が良いという考えの人もいる。
- ・避難地図については、情報が多いと分かりにくくなる、浸水深凡例の色が分かりにくく、分かりやすい色にしてほしい。
- ・住民に津波の危険を周知するため、道路に標高を示したらどうか（色分けして一目で分かりやすいもの）。

【江奈3・4区】発表者:高橋洋通(江奈4区長)

- ・江奈4については、避難場所は伊東園ホテルと伊豆まつぎ荘の2箇所しかない。そこに行くまでの狭い避難路はブロックや家の倒壊で通行不能となり、比較的広い道路しか通行できなくなり、遠回りして避難することになると思われる。
- ・江奈3については、松崎小学校と現在町で進めているNTTが主な避難場所となるが、国道近くの方は避難できないため、商工会付近に避難タワーを整備してほしい。江奈4についても、警察署付近に避難タワーを整備してもらいたい。
- ・防潮堤整備については、海岸付近の方は避難が難しいため整備してほしい声が多い。
- ・避難対策として、夜間照明、避難誘導看板、浸水警報はどうかと思う。小学校が避難ビルとなっているが、生徒もいるし、北区の住民も避難し、混雑することが想定されるため、非常階段を設置してほしい。

7 グループ発表後の自由意見

- ・避難訓練を地区ごとに実施しているので、他の地区の避難場所を知らない人が多い。江奈3・4の人も江奈2の官舎裏避難地に避難する訓練をした方が良い（江奈2区長）。
- ・健常者の避難が難しい状況であるが、高齢者等の要援護者避難についても難しい課題ではあるが、考えていく必要がある（江奈4区長）。

図 4.18 第2回 江奈の津波避難を考えるワークショップ (2/6)

- ・ハッカソン（まちづくりワークショップ）で、スマホアプリで避難先を示すものを検討したが、町で導入したらどうか（公募メンバー 高柳）。

8 考察・感想

- ・江奈3と江奈4については参加者が少なかったため、合同で1グループとし、合計3グループで実施した。
- ・江奈地区については、1回目で避難路についての話し合いがかなり進んでいたため、津波避難対策まで話し合いができて良かったが、予定の45分ではグループでの時間配分が足りていない。
- ・防潮堤・水門整備については、人それぞれで考え方が違うが、海岸に近い江奈3、4の人は整備してほしいという考えの人が多く。地区協議会のメンバーとなっている区長さん等は水門を作るよりも避難タワーや避難路整備、防災教育の推進により避難対策を充実する考えの人が多かった。
- ・江奈3、4の人は、一部は官舎裏避難地に避難する人もいるが、国道を渡って山に避難する人がほとんどいない。
- ・しんわ遊歩道については、東海バスが、松崎ターミナルから一番近く、下校時の小学生を含めお客さんの誘導場所と考えている避難場所であるが、通行不能となる可能性が高いため、東海バスと協議・検討し、官舎裏避難地に誘導するような訓練が必要。

図 4.19 第2回 江奈の津波避難を考えるワークショップ (3/6)



図 4.20 第2回 江奈の津波避難を考えるワークショップ (4/6)



図 4.21 第2回 江奈の津波避難を考えるワークショップ (5/6)

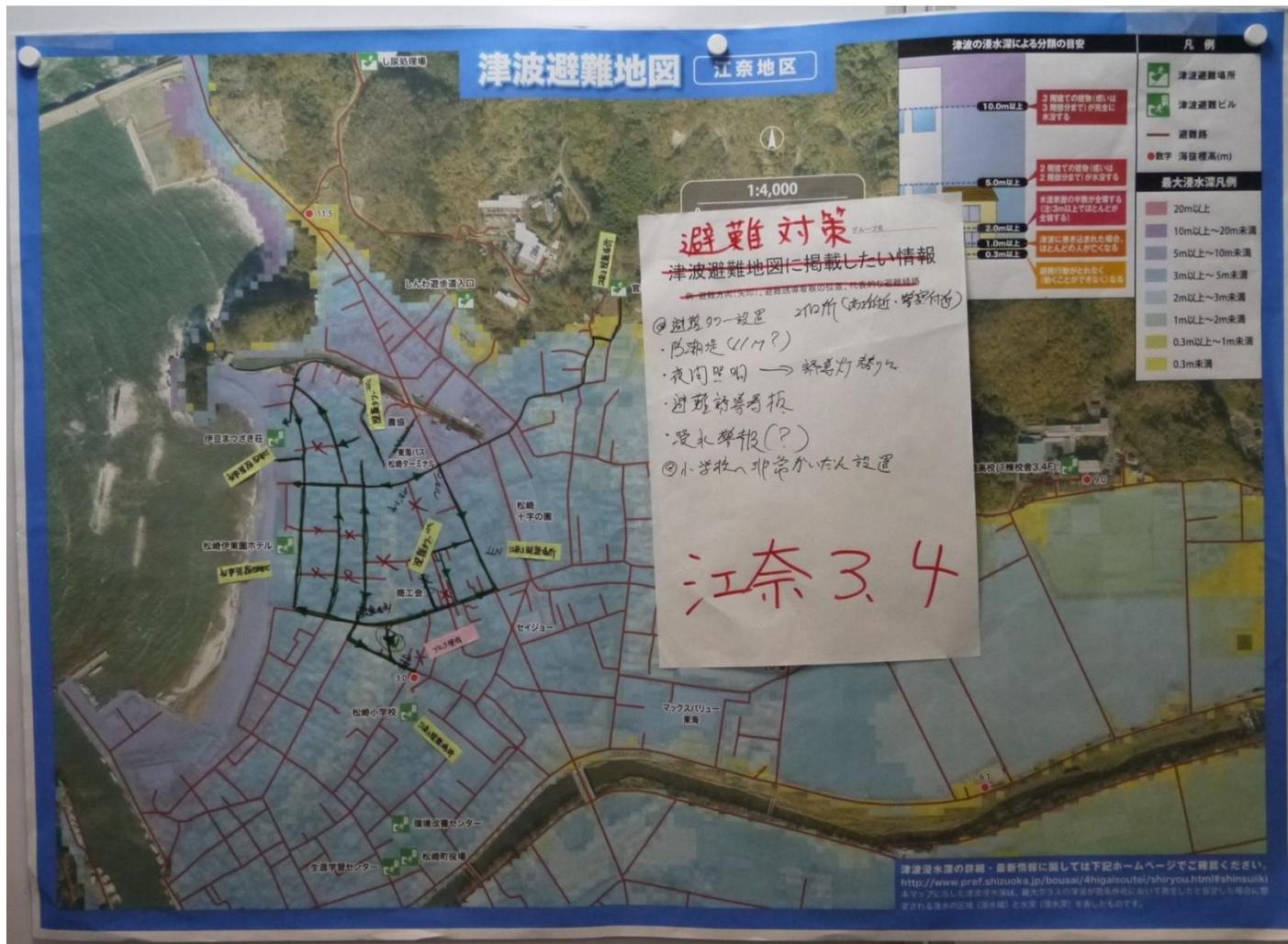


図 4.22 第 2 回 江奈の津波避難を考えるワークショップ (6/6)

第1回 道部・金沢の津波避難を考えるワークショップ

日時 平成 27年 11月 21日 (土) 9:00~11:30

場所 道部公民館

●目的

- ①最大級の津波（レベル2）の想定津波に対して命を守るための避難を考える。
- ②防潮堤の整備について、イメージをつかんでもらい、考えてもらうきっかけとする。

●内容

地区内のまち歩き（①道部、②金沢の2グループに分かれて実施）
津波被害想定の説明の中で、パワーポイントにて地区協議会における検討状況を説明。

●パワーポイントを使用してわかりやすく検討状況を説明。



●道部神社は誘導看板が必要。川沿いの電柱に設置したらどうか。



●道部地区は避難場所となる高台の山崩れを心配している人が多い。



●観光客用に農協の入口付近に避難誘導の看板がほしい。



図 4.23 第1回 道部・金沢の津波避難を考えるワークショップ

第2回 桜田・伏倉の津波避難を考えるワークショップ概要報告書

1 日時

平成27年11月26日（木）19:00～20:30

2 場所

伏倉公民館

3 参加者

桜田区住民4名、伏倉区9名、（欠席2名（両区長））

松崎町役場：総務課3名（八木・山田・渡邊）

委託業者（パスコ）2名

4 目的

- ①津波避難地図について、地域の実情に応じたより良いものとするため、地図への意見、情報を収集する。
- ②津波避難について住民の意見を広く集めるとともに、改めて考えてもらい、必要性を再認識してもらう。

5 内容

- ・津波避難地図に関する説明（津波避難シミュレーション含む）
- ・グループ作業（津波避難地図の作成、津波対策の意見とりまとめ）

6 グループ発表

【桜田】発表者：平野明彦（会計）

○津波避難対策等

- ・避難路沿いの蓄電池の誘導灯、避難場所の外灯・海拔表示が必要。
- ・避難場所入口の避難誘導看板が必要。花畑の関係で、区内を歩く人も多いので増やした方がよい。
- ・桜田公民館は、浸水区域から少し外れた位置にあり、浸水の可能性もあるため、浸水区域外に備蓄倉庫を整備し、資機材を整備する必要がある。
- ・浸水域から避難してくる人を受け入れるような設備や体制を考えておく必要もある。

○高齢者等の避難行動要支援者

- ・対象者は浸水区域内に数人しかいなく、家族と同居している人や山に近いところに住んでいる人なので、大丈夫と思われる。
- ・津波よりも揺れへの対策を考えておく必要があり、倒壊した家屋から救助するのにジャッキ等の資機材を区で整備する必要がある。

図 4.24 第2回 桜田・伏倉の津波避難を考えるワークショップ（1/5）

○防潮堤等の津波防護施設

- ・今回の桜田区の参加者は、整備した方が良いということでまとまった。
- ・買い物などで街中に出かける時が多いが、街中の近くの避難場所が分からないので、安全のために防潮堤・水門を整備してほしい。
- ・海岸付近の高い建物が無い場所に避難タワーを整備してほしい。近くに避難できる場所がないと安心できない。

【伏倉】発表者：山本清文(防災委員)

○津波避難対策等

- ・避難路沿いのブロック塀の倒壊が心配な箇所がある。
- ・避難誘導標識が少ないので、整備が必要。
- ・町営住宅を避難場所とする案も考えられる。

○高齢者等の避難行動要支援者

- ・近所の人助け合いにより避難する。
- ・各班において、要支援者を把握しておき対応する。
- ・普段からの声かけ。
- ・避難後の要支援者の避難結果の確認
- ・周辺の歩行困難者等の存在を把握しておく。

○津波防護施設

①水門はいらない。

【理由】

- ・人は自然に敵わないと思う。
- ・川の魚類が少なくなる。自然破壊になる。
- ・水門ができて周辺が低地なら意味がない。

②整備に賛成

【理由】

- ・浜をなくさない、家屋をどかさない高さで、堤防を嵩上げする。
- ・防潮堤は必要。水門はあった方が良い。自然環境や景観に十分配慮した上で整備する。
- ・水門と同時に防潮堤整備も同時進行しないと意味がないと思う。

③水門賛成

- ・水門は必要。防潮堤は現状のまま。どんな地震が来るか分からない。
- ・川をのぼってくる津波のことを考えると水門は必要かな？

図 4.25 第2回 桜田・伏倉の津波避難を考えるワークショップ (2/5)

7 作業中の意見

- ・防潮堤整備については、盛土であると家の移転が伴い、1人でも反対があると整備ができなくなるため、やるならコンクリート壁しかない（桜田区）。
- ・避難人員の確認のために、各避難場所から連絡がとれるようなトランシーバーの整備が必要と思う。
- ・訓練では避難人数を確認しているが、避難した人は助かっている人なので、本来の安否確認は避難していない人を確認するものである。
- ・橋の落下等による通行不能が心配であるが、おそらくは大丈夫であると思う。

8 考察・感想

- ・伏倉区については、津波遡上により地区に影響のある水門整備に関心があるが、防潮堤についてはそれほど関心がないように感じた。

図 4.26 第2回 桜田・伏倉の津波避難を考えるワークショップ (3/5)



図 4.27 第 2 回 桜田・伏倉の津波避難を考えるワークショップ (4/5)

第1回 松崎・宮内の津波避難を考えるワークショップ

日時 平成 27 年 11 月 28 日 (土) 9:00~11:30

場所 環境改善センター 研修室

●目的

- ①最大級の津波（レベル2）の想定津波に対して命を守るための避難を考える。
- ②防潮堤の整備について、イメージをつかんでもらい、考えてもらうきっかけとする。

●内容

地区内のまち歩き（①東区、②西区、③南区、④北区、⑤中区、⑥宮内の6グループに分かれて実施）
津波被害想定の説明の中で、パワーポイントにて地区協議会における検討状況を説明。資料も壁に掲示。

●小学校に外階段をつけた方が良い。



●環境センターは避難ビルとなっているので、玄関前は駐車禁止とした方が良い。



●避難路沿いのブロック塀や屋根瓦の落下が心配。



●避難路に夜間避難用の防犯灯が必要。



●浜丁権から上流の河川堤防はひびが入っている箇所がある。



●円通寺は避難場所だが急傾斜地の整備や地滑り対策を行ってほしい。



図 4.29 第1回 松崎・宮内の津波避難を考えるワークショップ

第2回 道部・金沢の津波避難を考えるワークショップ概要報告書

1 日時

平成27年12月1日（火）19:00～20:30

2 場所

道部公民館

3 参加者

道部区住民4名、金沢区3名、（欠席2名）

松崎町役場：総務課3名（八木・山田・渡邊）

委託業者（パスコ）2名

4 目的

- ①津波避難地図について、地域の実情に応じたより良いものとするため、地図への意見、情報を収集する。
- ②津波避難について住民の意見を広く集めるとともに、改めて考えてもらい、必要性を再認識してもらう。

5 内容

- ・津波避難地図に関する説明（津波避難シミュレーション含む）
- ・グループ作業（津波避難地図の作成、津波対策の意見とりまとめ）

6 グループ発表

【道部】発表者：渡辺義昭（区長）

○避難地・避難路

- ・横道（岩科川沿いの山側の地区）は道路に亀裂があり、補修はしてあるが、通行不能となることが心配される。
- ・梅養院は、山崩れや墓石倒壊により津波避難場所をやめ、吉野橋避難階段を新たな避難場所とした方がよい。
- ・熊野神社は避難場所になっているが、石垣の崩れが心配。
- ・新川橋は耐震工事をしているが、吉野橋はしていないため橋の落下が心配。
- ・蓄電池型の照明を整備しているところもあるが、江月院の入口に照明がほしい。
- ・避難場所に海拔表示がほしい。
- ・避難誘導看板に避難方向の矢印、距離を明示する。

○津波避難対策

- ・避難タワー、防災倉庫、誘導看板の設置
- ・避難訓練の継続

○高齢者等の避難行動要支援者の対応

- ・一般の人の避難が難しい中で、高齢者の支援までは難しい。声掛けの実施く

図 4.30 第2回 道部・金沢の津波避難を考えるワークショップ（1/4）

らいではないか。

○津波防護施設(防潮堤・水門等)の整備

- ・ L2対応の水門、防潮堤を設置してほしい。
- ・ 水門を今の防潮堤の高さで整備
- ・ 水門の整備

【金沢】発表者: 渡辺源二(民生委員)

○避難地・避難路等

- ・ 根方線はがけ崩れが心配な箇所が2箇所あり、通行不能が心配される。
- ・ 橋(自動車学校、山口橋)は壊れると思う。
- ・ 避難場所の金沢ビラへの道はブロック塀の倒壊が心配であるが、複数の経路があるので、なんとか通れると思う。
- ・ 浸水区域を通らない山道が利用できる。
- ・ 避難誘導看板の設置(渡辺邸三叉路、農協から根方線の突き当り)
- ・ 地図が分かりにくいので、目安となる建物を明示(農協、郵便局、小泉商店、熊野神社、公民館)

○津波避難対策

- ・ 根方線のガードレール等の設置
- ・ 避難場所入口に夜間の照明(ソーラーや蓄電池等)

○高齢者等の避難行動要支援者の対応

- ・ まず自分の命を守り、次に人の命を守る。
- ・ 助けに行っても拒否されることも予想される。難しい問題である。

○津波防護施設(防潮堤・水門等)の整備

- ・ 地元が納得できる高さとする。
- ・ 防潮堤は必要と感じる。
- ・ 防潮堤が無理なら水門は早く作った方が良い。
- ・ 水門で時間稼ぎができる。

7 グループ発表後の自由意見

- ・ 水門はできるのか。

⇒現在、防潮堤を含めて地区協議会で話をしている最中であり、今までの協議会での意見は各個人様々で地域の意見集約は難しいと感じているが、若い世代のメンバー追加も行い、今後も話し合いを重ねて決めることになる。

8 考察・感想

- ・ 道部・金沢地区については、参加者全員が水門整備に賛成の意見であり、河口からの津波の侵入を水門が防いでくれると考えているようである。

図 4.31 第2回 道部・金沢の津波避難を考えるワークショップ(2/4)



図 4.32 第2回 道部・金沢の津波避難を考えるワークショップ (3/4)



図 4.33 第2回 道部・金沢の津波避難を考えるワークショップ (4/4)

第2回 松崎・宮内の津波避難を考えるワークショップ概要報告書

1 日時

平成27年12月7日(月) 19:00~20:45

2 場所

環境センター 研修室

3 参加者

住民21名(東区3名、西区4名、南区2名、北区5名、中区2名、宮内5名、欠席14名)

松崎町役場：総務課3名(八木・山田・渡邊)

産業建設課2名(松本真・松本真樹)

ふじのくに防災士1名(玉木)

下田土木事務所企画検査課1名(川口)

下田土木事務所松崎支所2名(大久保支所長・湯山)

委託業者(パスコ)2名

4 目的

- ①津波避難地図について、地域の実情に応じたより良いものとするため、地図への意見、情報を収集する。
- ②津波避難について住民の意見を広く集めるとともに、改めて考えてもらい、必要性を再認識してもらう。

5 内容

- ・津波避難地図に関する説明(津波避難シミュレーション含む)
- ・グループ作業(津波避難地図の作成、津波対策の意見とりまとめ)

6 グループ発表

【東区】発表者：(東区区長)

○津波避難対策等

- ・東区は、川を挟んだ地区であり、北側は環境センター、南側は牛原山に避難することになっている。
- ・中瀬駐車場は立体駐車場なので下をくぐって避難路とすることができる。
- ・ブロック塀の倒壊が心配されるが、それほど高くないので倒れた塀を乗り越えて避難できると考え、閉塞箇所はなまこ壁通りのみとした。
- ・なまこ壁通り付近は観光客が多いので、避難誘導の標示が必要。
- ・夜間避難用の照明が必要。
- ・個人のブロック塀の耐震性能をあげる。

図 4.34 第2回 松崎・宮内の津波避難を考えるワークショップ (1/7)

○高齢者等の避難行動要支援者対応

- ・隣の人が連れていく（事前に決めておく）。

○防潮堤等の津波防護施設

- ・L1に対応できる防潮堤・水門の整備が必要

【西区】発表者：鈴木治彦（区長）

○津波避難対策等

- ・地区の避難先としては、環境センターと津波避難タワーの2箇所。
- ・地区内の幅が1.5m位の道路は、ブロック塀が多く通行不能になると思われる。
- ・交差点や目標となる箇所に蓄電池式の外灯を設置してほしい。

○防潮堤等の津波防護施設

- ・水門はほしい。時間が稼げれば逃げられるし、助かる人が増える。

【南区】発表者：船津竹史（区長）

○津波避難対策等

- ・浜丁橋は落橋すると思う。田町（那賀川の北側の地区）の人は環境センターに避難し、川の南側の人は牛原山に避難する。
- ・牛原山は避難場所となっているが、崩れる心配もある。
- ・津波避難タワーの整備
- ・観光客が多いので案内看板を増やしてほしい。
- ・夜間避難用の照明がほしい。

○避難地図に掲載したい情報

- ・施設の名称、橋の名前
- ・避難経路の案内看板
- ・避難場所までの距離

○高齢者等の避難行動要支援者対応

- ・助けに行ける余裕がない。
- ・周りに若い人が少ない。
- ・一緒に避難は難しい。声掛けくらい。

○防潮堤等の津波防護施設

- ・避難場所の整備に力を入れた方が良い。
- ・防潮堤整備にはお金も時間もかかる。住民の安全性を早く高めるには避難タワー等の整備をした方が良い。
- ・水門を作るなら、防潮堤も一緒に整備が必要。

【北区】発表者：佐藤光春（区長）

○津波避難対策等

- ・避難先は、松崎小学校、環境センター、伊東園ホテルの3箇所。

図 4.35 第2回 松崎・宮内の津波避難を考えるワークショップ（2/7）

○防潮堤等の津波防護施設

- ・北区は海岸に一番近い地区で、逃げる時間がない。水門、堤防を整備し、逃げる時間を稼ぐ必要がある。
- ・用地買収が少ない胸壁タイプの堤防であれば早く施工できるし、現実的である。

【中区】発表者：山本一雄(区長)

○津波避難対策等

- ・地区の避難先は、環境センターと松崎小学校と西区津波避難タワーの3箇所となるが、訓練では環境センターの1箇所にしか避難していない。住民がどこに避難するのか把握していないため、避難場所確認のアンケートをとってみたい。
- ・基本であるが、家屋の耐震補強の推進
- ・夜間避難用照明を整備してほしい。特に商店街。
- ・無縁堂に避難タワーを整備してほしい。
- ・より多くの避難タワーの整備

○高齢者等の避難行動要支援者対応

- ・見守りと避難援助の検討

○防潮堤等の津波防護施設

- ・防潮堤の嵩上げ、水門整備

【宮内区】発表者：関茂樹(防災委員)

○津波避難対策等

- ・川の北側の地域は、松崎小学校と役場に避難、川の南側の地域は牛原山に避難する。
- ・堂の下1号線（竹内園から絹の道へ通じる道）は舗装がされていないため、通行不能が心配される。
- ・円通寺は避難場所となっているが、右側の山崩れが心配である。

○防潮堤等の津波防護施設(時間ないため発表なし)

- ・人命を守るため11mの防潮堤を作ってもらいたい。
- ・水門は作るべき（高さ11m）。防潮堤の高さは8m。
- ・水門は作った方が良い。背後から津波にやられないように防潮堤と高さは合わせるが、高さは再検討。
- ・最低限水門は必要である。防潮堤は景観を損ねるので現状のままで良い。避難タワーを各所に設置が必要。
- ・防潮堤は第1波が防げる高さを整備し、その間逃げられる時間がほしい。水門も同じ高さが必要。

図 4.36 第2回 松崎・宮内の津波避難を考えるワークショップ (3/7)

7 グループ作業中の意見

- ・宮内区から要望している堂の下1号線整備について、佐藤議員が決まったようなことを地区住民に話をしていると聞いた。地籍調査の結果、幅が3.5m位あるので、事業が進まないのであれば、コンクリートを原材料支給でもらって少しずつ整備する方法もあるのではないかと考えている。(宮内区長)

⇒町で検討はしているが、補助事業とならないため4m道路での事業実施が難しい状況は変わらない(八木説明)。

- ・山田氏から町が寄附を受ける別荘地に、宮内区の防災倉庫を移設したらどうか(宮内区)。

8 グループ発表後の自由意見

- ・ブロック塀の撤去・改善事業の申請方法について質問あり(西区民生委員)。
- ・浜岡の原発事故の対応も考えておいてほしい(北区区長)。

9 考察・感想

- ・グループ作業中に、津波高と施設整備高の質問があり、これまで地区協議会や第1回のワークショップでも何度も説明しているが、理解していないようである。また、津波避難タワーについてもL1対応か、L2対応のどちらなのかも理解していない人もいる。
- ・津波避難シミュレーション結果で松崎地区の人は避難できないということを見た関係もあるのか、施設整備により避難する時間を稼ぎたいことを理由に施設整備を求める人が多いように感じた。

図 4.37 第2回 松崎・宮内の津波避難を考えるワークショップ (4/7)

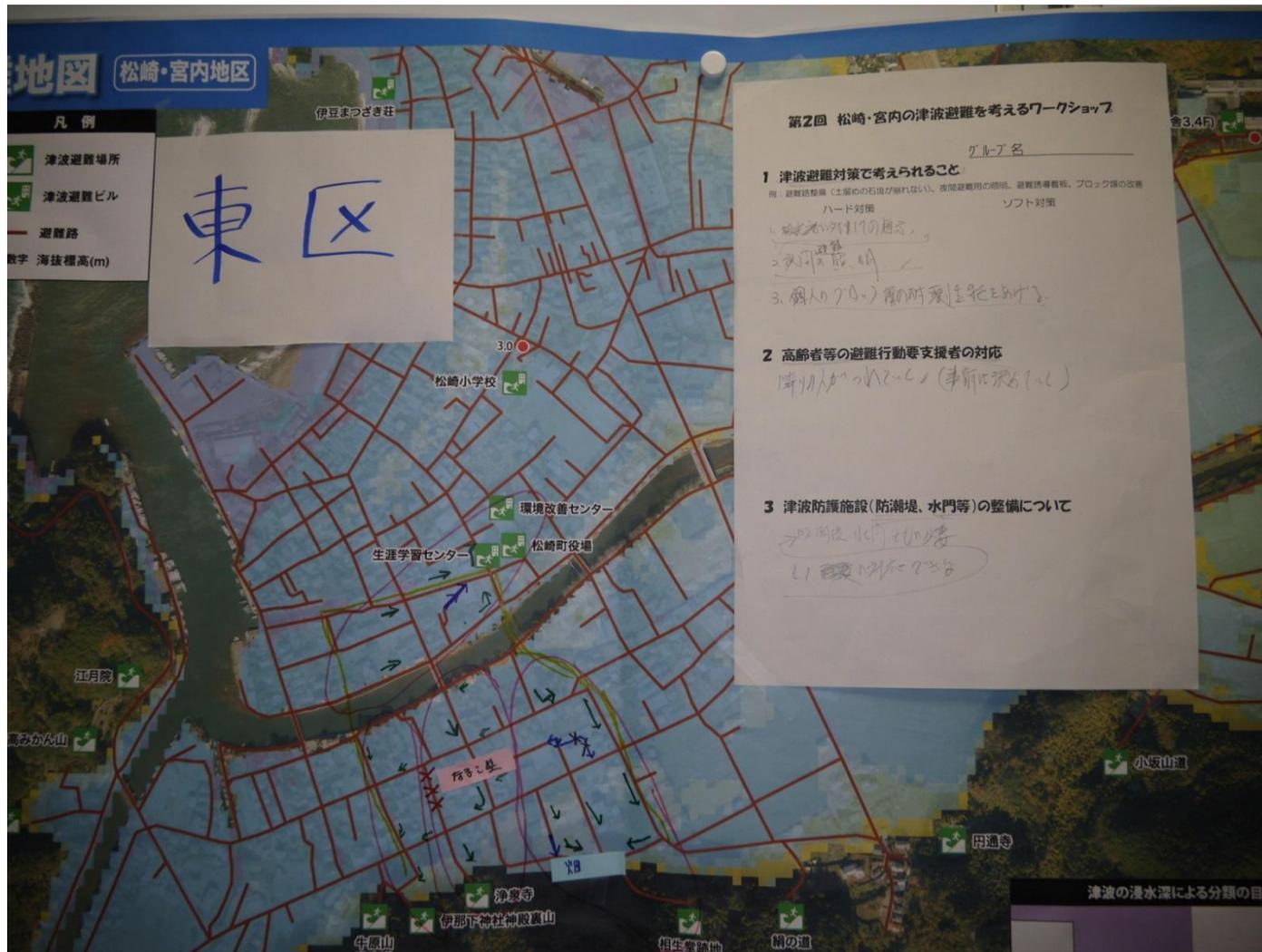


図 4.38 第2回 松崎・宮内の津波避難を考えるワークショップ (5/7)

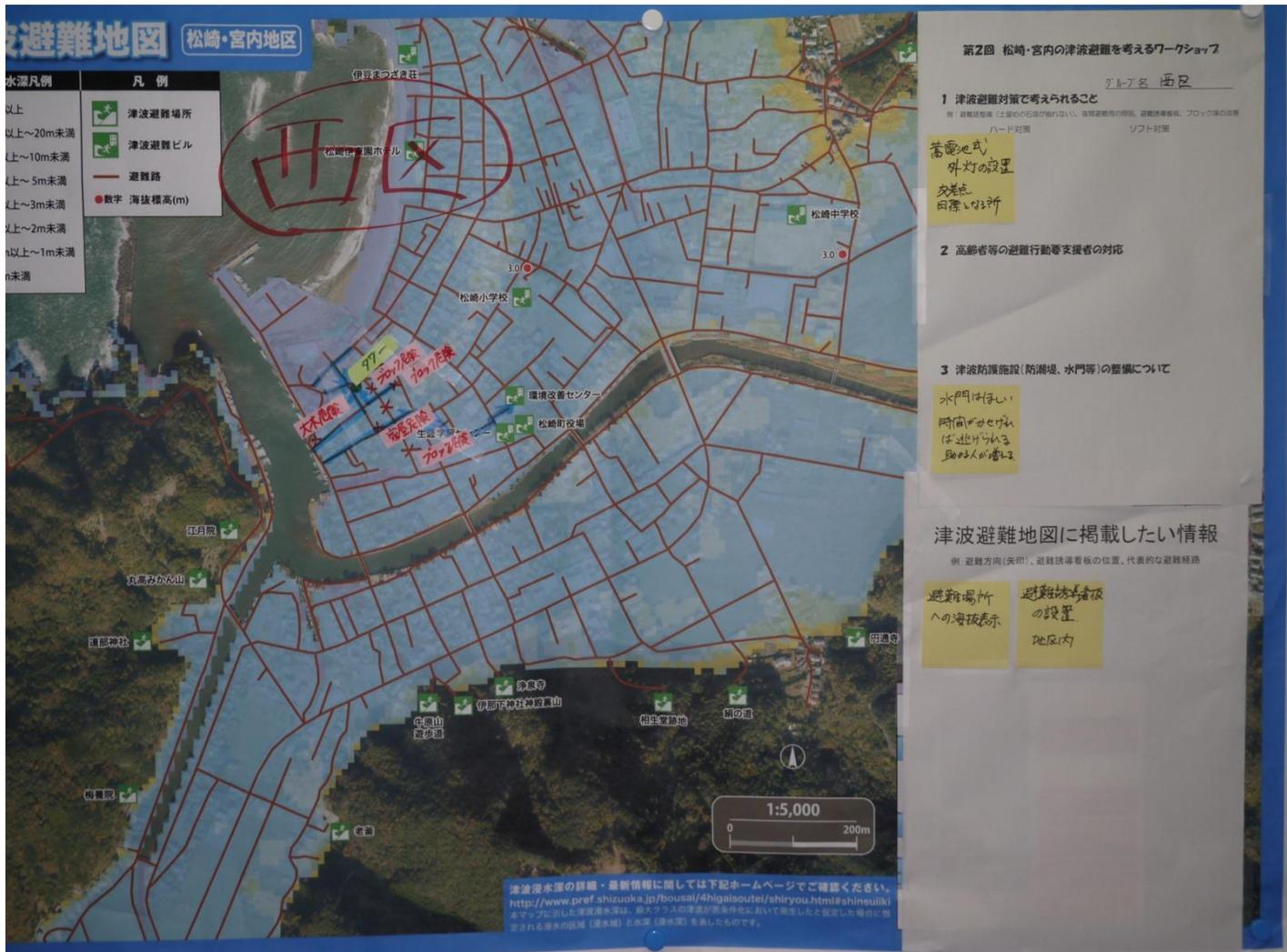


図 4.39 第2回 松崎・宮内の津波避難を考えるワークショップ (6/7)



図 4.40 第2回 松崎・宮内の津波避難を考えるワークショップ (7/7)

第1回 雲見の津波避難を考えるワークショップ

日時 平成 27 年 12 月 14 日 (月) 13:30 ~16:00

場所 雲見公民館

●目的

- ①最大級の津波(レベル2)の想定津波に対して命を守るための避難を考える。
- ②防潮堤の整備について、イメージをつかんでもらい、考えてもらうきっかけとする。

●内容

地区内のまち歩き(①向浜・向田、②金沢・上村、③上城・入谷の3グループに分かれて実施)
まち歩きの出発時に水門付近防潮堤に建てたスタッフを見てもらい、L1対応の防潮堤(海拔 10.0m)をイメージしてもらおう。



●道路が狭く、ブロックの危険箇所が多い。



●地区の中心となる川からの避難先が分からないところが多いので、看板を設置してほしい。



●津波避難場所の正家駐車場、神明社に看板と照明がほしい。



●河川側の道は、ブロック崩れの危険のおそれがあり、避難路としては不適。



●熊い家は避難場所となっているが入口に看板が無い。



●川沿いについては、太田川橋から登るより大屋駐車場の所から上へ登った方がよい。



向浜・向田

ブロック危険箇所

バッテリー型電灯に
点えて欲しい

太田川橋から登るより、大屋駐車場の所から上へ登った方がよい。



上城・入谷

細かい避難路が多いが、避難道路の
別ルートも考えた方がよいのでは



金沢・上村

ブロック壁破壊の恐れ、
避難路として不適

看板表示を大きく

ポイント

- 雲見は、長席やダイビングでお客さんを受け入れている関係でしょうか、観光客の安全を考慮した避難看板を要望する声が多く聞かれました。
- 防潮堤の施設整備について、現地確認等を実施しましたが、今回は津波避難の話がメインということもあり特に意見は聞かれました。

図 4.41 第1回 雲見の津波避難を考えるワークショップ

第2回 雲見の津波避難を考えるワークショップ概要報告書

1 日時

平成27年12月22日（火）19:00～20:30

2 場所

雲見公民館

3 参加者

雲見区住民16名（欠席8名）

松崎町役場：総務課1名（八木）、産業建設課2名（松本真、齋藤）

委託業者（パスコ）2名

4 目的

- ①津波避難地図について、地域の実情に応じたより良いものとするため、地図への意見、情報を収集する。
- ②津波避難について住民の意見を広く集めるとともに、改めて考えてもらい、必要性を再認識してもらう。

5 内容

- ・津波避難地図に関する説明（津波避難シミュレーション含む）
- ・グループ作業（津波避難地図の作成、津波対策の意見とりまとめ）

6 グループ発表

【向浜・向田】発表者：高橋征之（区長）

- ・一部川を渡って神明宮に避難する家もあるが、基本的な避難場所は、浅間山と宮の窪となる。
- ・避難経路として、川沿いの家は川沿いを通る経路を考えていたが、今日の避難シミュレーションを見ると、津波が川を遡上していくため、避難距離を短くする必要があるため、山側に避難する方が良いと考えた。
- ・ブロック塀等危険な箇所は多いが、そこを通行不能にすると避難する経路がなくなるので、通行できる前提とした。

○津波避難対策等

- ・建物、電柱へのL1、L2の津波高の標示
- ・夜間の照明
- ・案内（誘導）看板や海拔表示を増やす。

○高齢者等の避難行動要支援者

- ・手すりの設置（国道下の浅間山への階段）
- ・対象者を組で事前に把握しておく。

図 4.42 第2回 雲見の津波避難を考えるワークショップ (1/6)

○防潮堤等の津波防護施設

- ・3.6mの嵩上げは高すぎる。富士山が世界一きれいに見える宣言をしている町であるので、歩いていて富士山が見える高さ（約1.5m）までとする必要がある。
- ・施設整備により避難のための一時の時間を稼ぐ。

○津波避難地図に掲載したい情報

- ・避難経路の矢印（観光客用に）
- ・海岸におけるL1、L2の波の高さ
- ・L2浸水深の表示（漁協、赤い橋、仲嶋駐車場、丸加）

【金沢・上村】発表者：高橋郁雄（会計）

- ・国道の雲見大橋の落下が心配され、その瓦礫が地区に散乱するのではないか。
- ・正家駐車場と神明宮の2箇所が避難場所となるが、雲見園の脇など狭いが通れる避難路は色々ある。

○津波避難対策等

- ・三次邸（高橋浜雄）外壁に看板、誘導灯の設置
- ・避難場所の正家駐車場に看板、誘導灯の設置
- ・太田川橋（赤い橋）と太郎消火栓横に津波高の標示
- ・とばや商店と与三郎前の看板表示を大きく
- ・石松前に誘導看板と照明を要望
- ・共和丸付近と自涌泉前に誘導看板
- ・長右エ門前に誘導灯
- ・浦木邸（神明宮）に蓄電池型照明の設置

○高齢者等の避難行動要支援者

- ・手すりの設置（正哉前の道路は坂が急なため）

【上城】発表者：高橋郁雄（会計）

○津波避難対策等

- ・三五郎裏に畑道があり、利用できるのではないか。
- ・避難場所の憩いの家に看板がほしい。
- ・大橋の落下が心配され、その瓦礫が地区に散乱するのではないか。
- ・入谷の方に行く川沿いの道路はブロック塀倒壊で通れない可能性が高く、萬吉屋横の民地の通路、階段を通る方が良い。
- ・照明の設置（旧ポンプ小屋、源次郎前、忠八避難地）
- ・看板蓄光で光る物（三五郎駐車場交差点付近）
- ・家のないところに避難を作る（三五郎裏付近）。

図 4.43 第2回 雲見の津波避難を考えるワークショップ (2/6)

○高齢者等の避難行動要支援者

- ・となり近所の協力不可欠

○防潮堤等の津波防護施設

- ・許せる範囲での防潮堤の嵩上げ

7 考察・感想

- ・前回のワークショップと同様に、看板（誘導・海拔・浸水深）と蓄電池型照明を要望する声が強い。
- ・防潮堤については、高さのみの説明までしかしていないが、命や財産を守るための防潮堤整備の必要性が認識しているが、道路から海や富士山が見える高さでなければ、地区の観光が駄目になるという懸念をしている。
- ・雲見地区は、区長のリーダーシップが強い地区であり、防潮堤整備について各個人の意見を求めても意見がなかなかでてこなかった。区長の考え方が地区の意見となる可能性が高いと感じた。

8 1月13日の地区協議会

- ・地区協議会については、津波避難ワークショップと同様のメンバーということで、組長や元区長も参加する。
- ・1月13日は雲見地域おこしの会の新年会と重なるため、5名欠席となる。

図 4.44 第2回 雲見の津波避難を考えるワークショップ (3/6)



図 4.45 第2回 雲見の津波避難を考えるワークショップ (4/6)

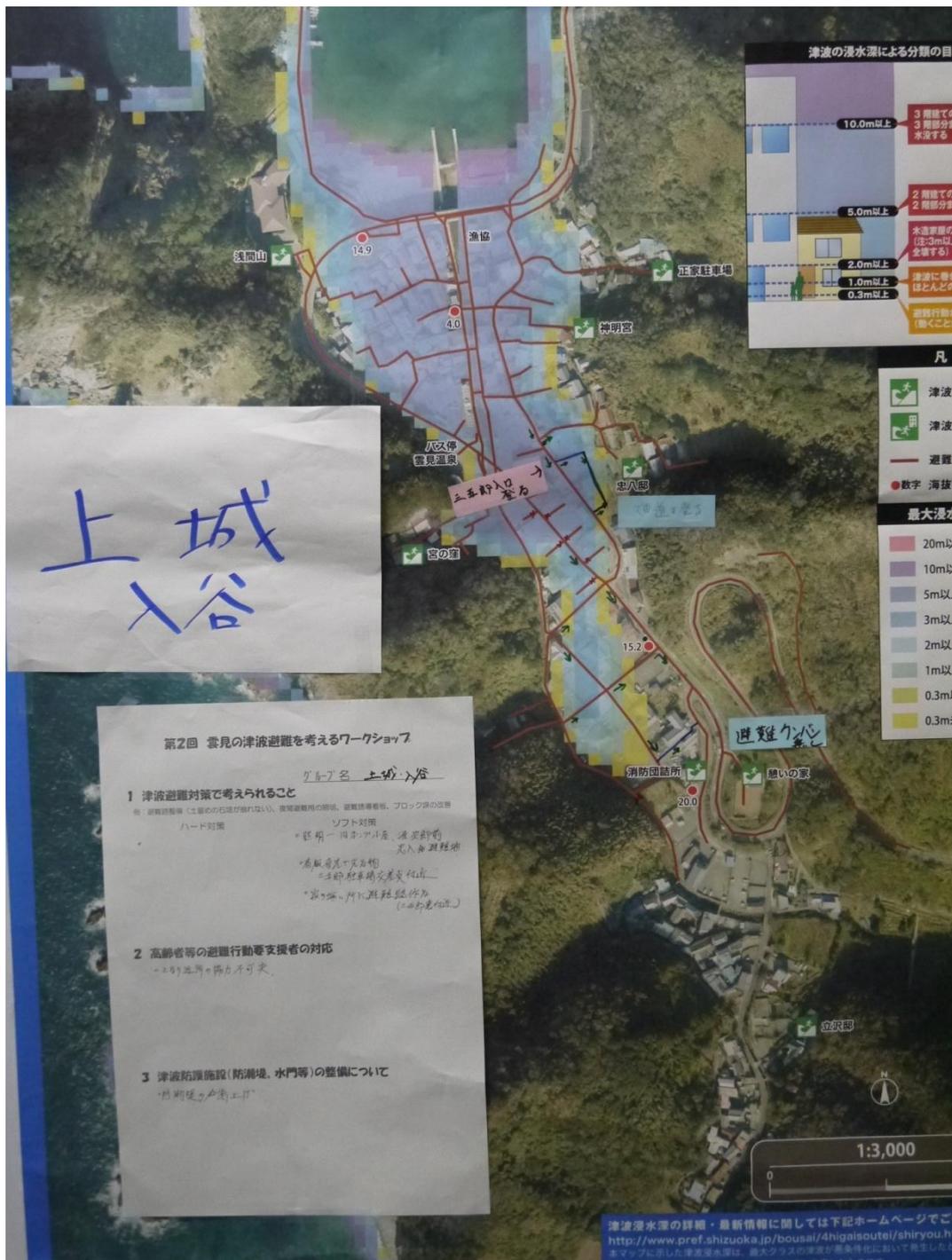


図 4.46 第 2 回 雲見の津波避難を考えるワークショップ (5/6)



図 4.47 第2回 雲見の津波避難を考えるワークショップ (6/6)

